

横手
市議会

第9回

議会報告会 意見交換会

実施報告書



開催期間:令和2年10月8日~23日

令和2年度(第9回) 議会報告会・意見交換会 開催一覧

NO	班	地区会議	開催日時	会場	意見交換テーマ
1	3班	横手南	10月8日(木) 18:30～	かまくら館	地区交流センター化について
2	1班	阿気・田根森	10月12日(月) 18:00～	大雄交流研修館 ふれあいホール	議会報告会のテーマを掘り下げた意見交換
3	4班	金沢	10月12日(月) 18:00～	金沢孔城館 洋室1	地域防災について(避難所や防災体制など)
4	2班	大沢	10月13日(火) 18:00～	大沢地区 交流センター	国道107号バイパス開通に伴う旧国道の扱いについて
5	4班	横手西	10月13日(火) 19:00～	サンサン横手	横手西地区の将来について
6	1班	保呂羽	10月14日(水) 18:00～	前田公民館	人口減少が著しい当地区にて、今改めて、隣人との付き合い方を考える。
7	2班	福地	10月14日(水) 18:00～	福地 コミュニティセンター	・買い物、通院など移動支援活動について ・高齢者の見守りなど生活支援活動について ・避難訓練や防災活動について
8	3班	館合	10月14日(水) 18:00～	館合公民館	①環境美化(地域づくり)～ごみ捨て、交通マナーなど ②災害対策～河川災害、雪害など ③高齢者の足の確保
9	1班	大森	10月15日(木) 18:00～	大森 コミュニティセンター	①防災 ②間口除雪
10	4班	十文字・三重・ 植田・睦合	10月15日(木) 18:30～	十文字庁舎2F 大会議室	十文字4小学校の閉校後の跡地利用と、十文字地域多目的総合施設整備に伴う十文字庁舎周辺の一体的な利活用について
11	4班	増田・亀田・ 西成瀬・狙半内	10月16日(金) 18:30～	増田地区 多目的研修センター 1F 多目的ホール	【増田】地域づくりと人づくり 【亀田】雇用の確保 【西成瀬】過疎化の進行による後継者問題 【狙半内】①さわらび・ゆーらくの行方について ②人口減少に伴う諸問題について
12	1班	さかえ	10月17日(土) 14:00～	さかえ館	人口減少に伴う諸問題について (少子高齢化、高齢者対策、空き家対策、農業対策)
13	3班	山内西	10月17日(土) 14:00～	山内公民館 研修室A・B	①交通弱者対策としてのコミュニティバス運行を ②ポッポあいののの再開発を第三者機関で検討を ③鶴ヶ池荘はどうなっているのか
14	2班	山内中央	10月18日(日) 15:00～	山内公民館 研修室A・B	①集会施設の負担軽減化について ②人口減少
15	1班	山内南	10月18日(日) 17:00～	山内南郷 コミュニティセンター	人口減少
16	3班	川西	10月19日(月) 13:30～	川西公民館	洪水対策とこれまでの議会報告会の要望
17	2班	醍醐	10月20日(火) 18:00～	醍醐公民館	少子高齢化社会における地域生活基盤の整備について
18	4班	沼館	10月20日(火) 18:30～	雄物川庁舎 2階大会議室	感染症対策と防災対策について
19	3班	浅舞街部 浅舞北部	10月21日(水) 19:00～	浅舞公民館	公共施設等の利活用を皆で模索しよう 「旧役場跡地・旧分署跡地、蛭野分館、樽見内分館」
20	2班	里見	10月22日(木) 18:00～	里見公民館	人口減少、超高齢化社会の中で生き生き暮らす!
21	1班	吉田	10月23日(金) 18:00～	吉田地区 生涯学習センター	吉田地区の将来展望について

令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

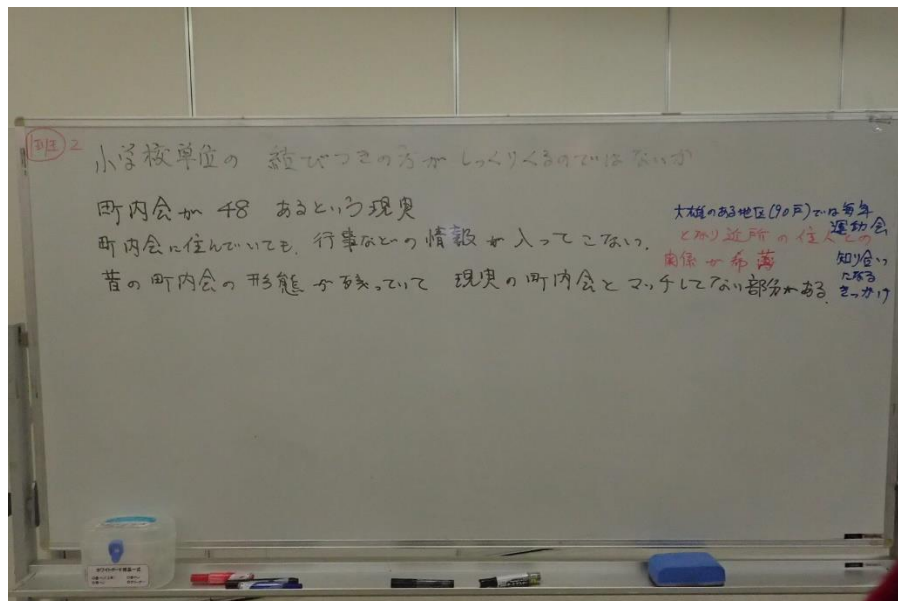
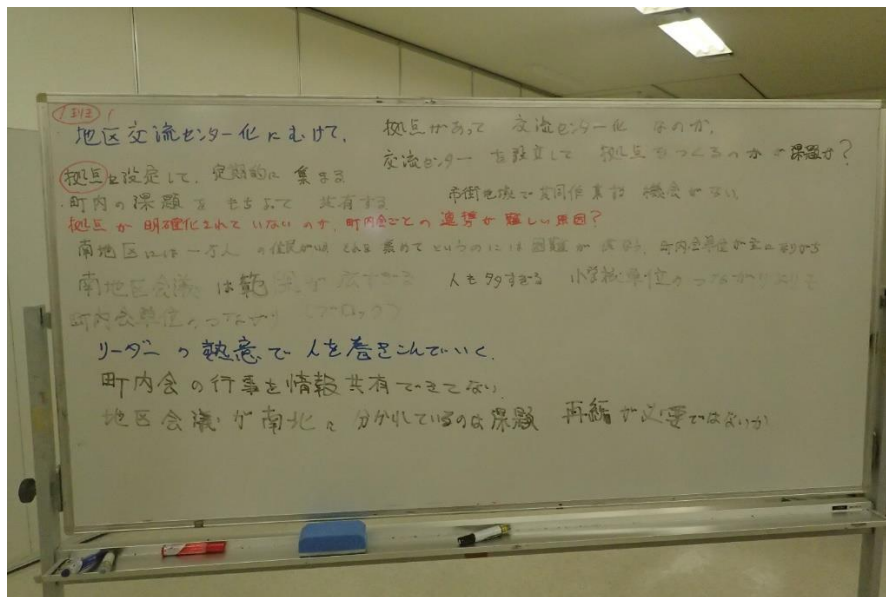
3班代表 菅原 正志

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月8日（木） 18:30～ 20:03
2. 開催場所	かまくら館
3. 出席議員	6人（菅原正志、鈴木勝雄、佐々木喜一、佐藤清春、寿松木孝、高橋聖悟）
4. 参加人数	12人（市民：3人、職員：9人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（2グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の参加が、地区会議議長、同副議長のほか1名のみ ・人数が少ないため2グループで意見交換を行った

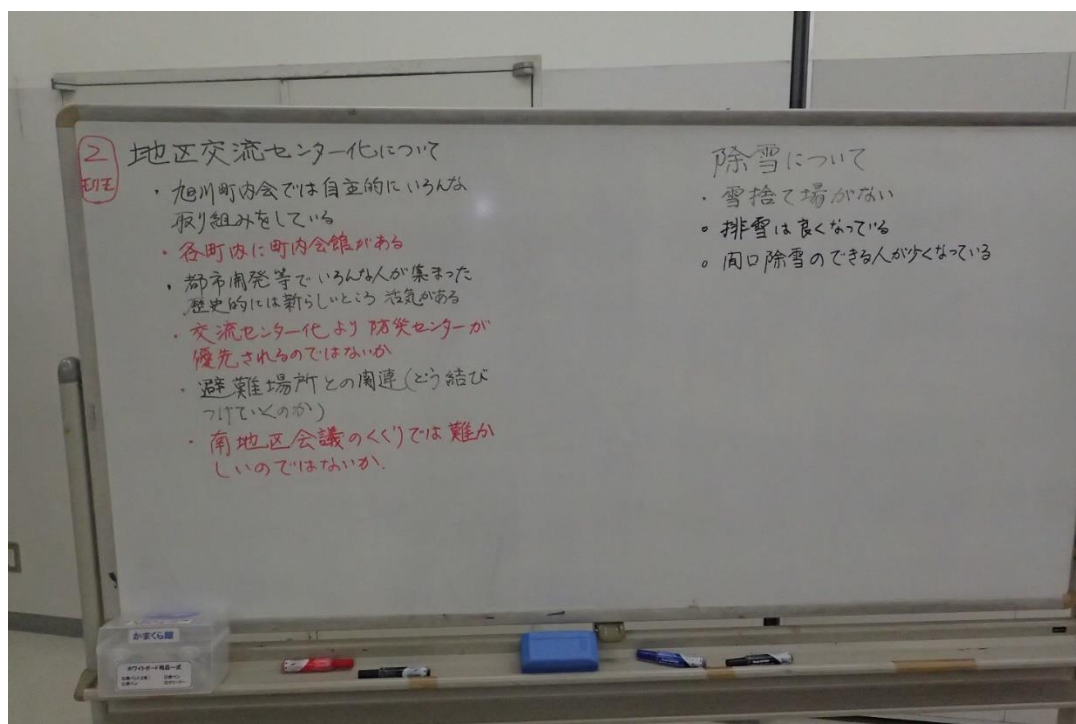
■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容
<p>【テーマに関すること】</p> <p>○第1部テーマ「インフラについて」</p> <p>[説明]</p> <p>菅原正志議員より説明</p> <p>[質疑]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路、橋りょうの現状について（総延長、維持費、補修等） ・宅地造成等による市道の増加について（私道の寄付、除雪対策等） ・除雪の状況について（直営、委託の状況） <p>[意見・要望]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深夜の除雪後の降雪→朝には積もっている。ルートの工夫を ・袋小路の除雪に力を入れてもらいたい→機材の貸し出し等 ⇒ <u>課題として把握しているので、持ち帰って担当委員会で検討したい</u> ・秋田市に比べれば横手市の除雪は上手だが、旧町村部に比べると旧横手市はあまりよくない ⇒ 合併して褒められたのが、旧横手市の除雪が良くなったことであった <p>○第2部テーマ「地区交流センターについて」</p> <p>[趣旨説明]</p> <p>高村功地区会議議長よりテーマの趣旨説明。</p> <p>議長になって3年になった。当初、公民館の地区交流センター化ということで始まったが、横手南地区の公民館はどこかという議論があった。地区にないものをねだってもしょうがないので、どのようにして48ある町内会がまとまって、一歩進めるかということが大事。大きな団体なので地区ごとの話を聞くためにテーマとした。</p> <p>グループ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点があって交流センターとなるのか、交流センターを設置したうえで拠点を作るのかがポイントになるのではないかと ⇒ 拠点を設定して人が集まることによってつながりが出てくる ・48の町内会、人口が約1万人おり、連携が非常に難しい。加えて、拠点が明確化されていないためにまとまりにくい現実がある。それを解決するために、地区の再編も考えなければいけない ・リーダーの熱意で人を巻き込んでいく必要 ・町内会の情報が入って来ないという現実。隣の住民さえ知らない ・昔の町内会の形態が残っていて、現代の実情とマッチしていない部分もある <p>まとめ ⇒ 現状をどうするかが、横手南地区を含め、まだ地区交流センター化されていない地区全体の課題になるのではないかと</p>



グループ②

- ・グループ①とほぼ同じ
- ・旭川町内の例が出され、地区交流センターで行うとされている4事業をほぼ行っている
- ・地区交流センター化も大事だが、災害が頻繁に起きており、避難場所、防災センター的なものが優先されるのではないか
- ・横手南地区会議という括りで地区交流センターを目指すのは難しいのではないかと
- ・48の町内会で、人数の大小もある、範囲が広すぎて狭めた中での検討はできないものかと
- ・地区の区割りをどうすれば理想的か。一步でも前に進むために検討が必要



【テーマ以外に関すること】

- ・除雪について、狭い道路で難儀している。雪捨て場が増えてはいるが…
- ・高齢者の間口除雪の問題
- ・流雪溝の利用についても、隣近所で協力しないと難しい家庭も

【振り返り結果】

- ・市民の参加は少なかったが、交流センター化するには広すぎるという悩みを職員も持っている。
それを解決する仕組み作りを考えないと無理。
- ・地区会議＝交流センターにはなりにくい。
- ・横手北、横手西とも重なる部分もある。
- ・市が枠を決めるのではなく、地域で動く人が動きやすい形にしてあげる必要がある。

令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

1 班代表 菅原 惠悦

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月12日（月） 18:00～ 20:00
2. 開催場所	大雄交流研修館ふれあいホール
3. 出席議員	7人（菅原 惠悦、小野正伸、立身万千子、佐藤 誠洋、奥山豊和、山形健二 ※オブザーバー 大日向香輝）
4. 参加人数	21人（市民：15人、職員：6人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・気付いた点	<p>（事前打ち合わせ内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雄地域は来春から地区交流センター化に取り組むことになっている。 ・既存の公民館はなく（一応、地域局の2階）、2つの地区会議が混在するという初めてのケースとなる。 ・地域づくり予算や、交流センター関連予算などの市の取り組みについて事前に整理する必要あり。 <p>（改善点など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区会議の進行用の原稿に、議員名（ふりがなつき）を入れたものを渡したのでスムーズな進行ができた。 ・グループ発表前に5分休憩時間を取り、その時間でアンケートを記入してもらったところ、ほとんどの方がアンケートにご協力いただいた（ただし、実質的には休憩にはならなかったかも）。 ・ホワイトボードは大雄地域局から搬入する必要があるが、地域局2階から運搬しなければならず予想外に時間がかかった。 ・次第の議会代表者及び地区会議議長の名前を誤ったまま配布してしまったので、事務局での事前のチェック体制を強化する。

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

グループ① 進行：菅原恵悦議員、記録：小野正伸議員テーマ「高齢者の足の確保について」

- ・大雄北部（新町・県道沿い）は大変。（除雪は0 K）
- ・スクールバス活用の実績は？良い取り組みなので範囲を広げて欲しい。大雄だけでなく平鹿地区も含めて広く普及して欲しい。
- ・もっと利用しやすい路線にするために、羽後交通との話し合いが必要ではないか。運転免許証返納後、バス利用促進のため運賃補助。

テーマ「除雪について」

- ・隣近所助け合いの精神がある。
- ・大森地区の除雪は丁寧だ。山間部と地域差がある。
- ・生活排水だけでは雪が融けない。
- ・流雪溝があればいい（八柏集落）。
- ・除雪オペレーターのプロ意識が足りないのではないか。
- ・車が交差できない市道がある（拡幅要望）。地域で盛り上げて声を上げて欲しい。

テーマ「その他」

- ・高齢者の住宅リフォームについて質問あり。
- ・自治会の役割が大切（自助）。
- ・一人暮らしが増えたので、互いの助け合いが必要。

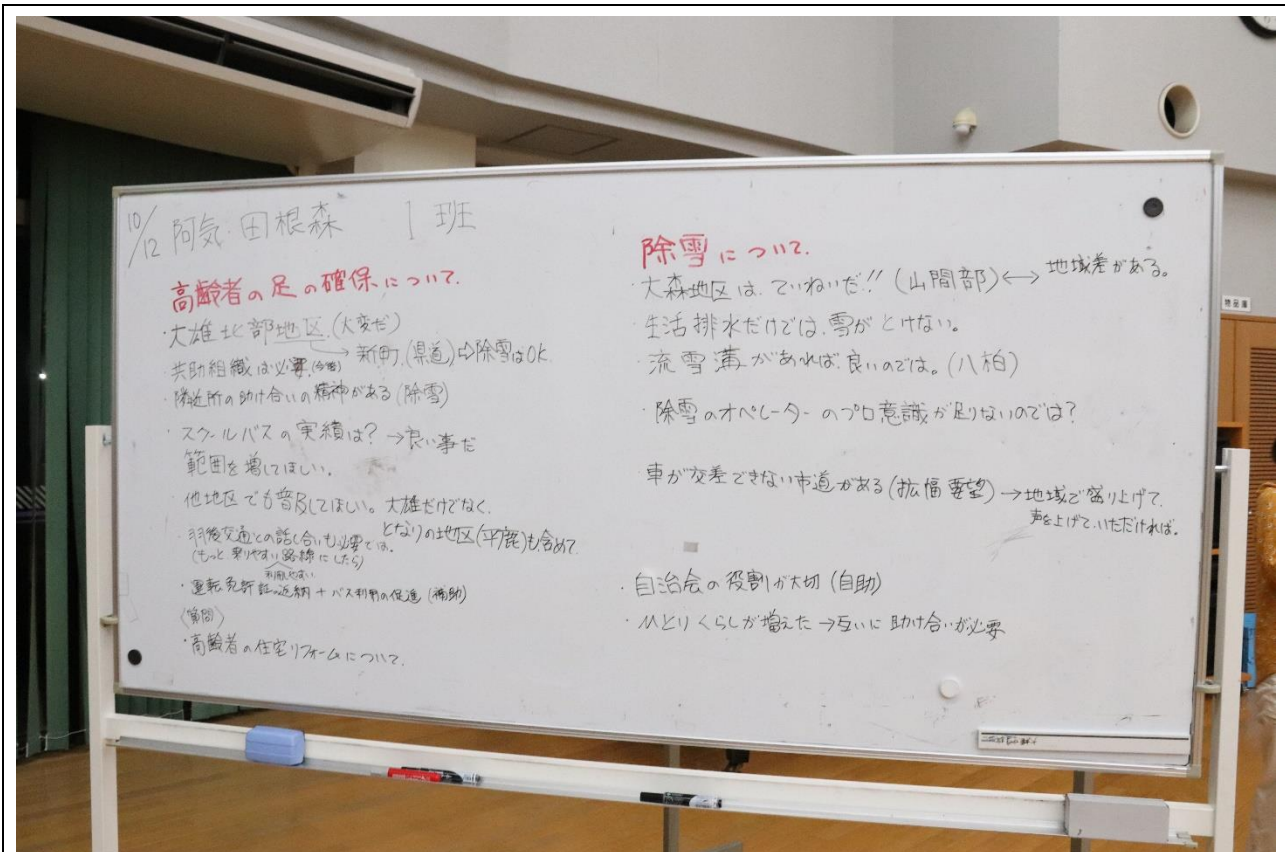
まとめ

高齢者の足の確保について。北部の新町方面が特にバスが無くて大変だ。除雪はかなり良くやってもらっているが、今後は共助組織や助け合いの精神がより大切になる。スクールバスの活用は良いことなので、範囲を広げ大雄に限らず路線を検討してもらいたい。運転免許証返納後の路線バス利用促進と合わせて、もっと利用しやすい安い料金になるよう補助を考えるべき。

除雪について。隣の大森地区は丁寧に見えるので地域差を感じる。流雪溝のある地域もあるが、八柏集落では生活排水だけで雪は溶けない。除雪オペレーターのプロ意識がちょっと足りないのではないか。

要望。市道で車が交差できないところがあるようだ。承っていくが地域でもっと盛り上げて声を上げてほしい。

一人暮らしが増えてきているので、今以上に助け合いの精神が必要だし、地元自治会の役割が今後もっと大切になってくるのではないか。



グループ② 進行：立身万千子議員、記録：山形健二議員

テーマ「高齢者の足の確保について」

- ・横手から大雄まで広く巡回するバスがほしい。
- ・免許証返納後の不安がある。一度きりのタクシー券では困る。

スクールバスの活用について、土日だけでも実験的に運用してはどうか。その上で、必要かどうか各世帯へのアンケート調査を実施し、同時に問題的してもらおう。

テーマ「除雪について」

- ・除雪オペレーターの技術を高める研修を充実させるべき。
- ・除雪オペレーターの高齢化が問題。特に早朝除雪のなり手がいない。
- ・ひきこもりの人に近所の間口除雪を頼めないか。
- ・シルバー人材による間口除雪。
- ・除雪オペレーターの人材育成が除雪対策になる。
- ・除雪の人材確保、雇用の保障をする。
- ・自分の家の前は自分で（自助）。
- ・除雪を70代の世代に頑張ってもらおう仕組みが必要。
- ・除雪はボランティアではなく報酬も必要。
- ・はしごのかけ方など、屋根の雪下ろし指導が必要。
- ・80歳以上には雪下ろしをさせない標語などで注意喚起。

テーマ「その他」

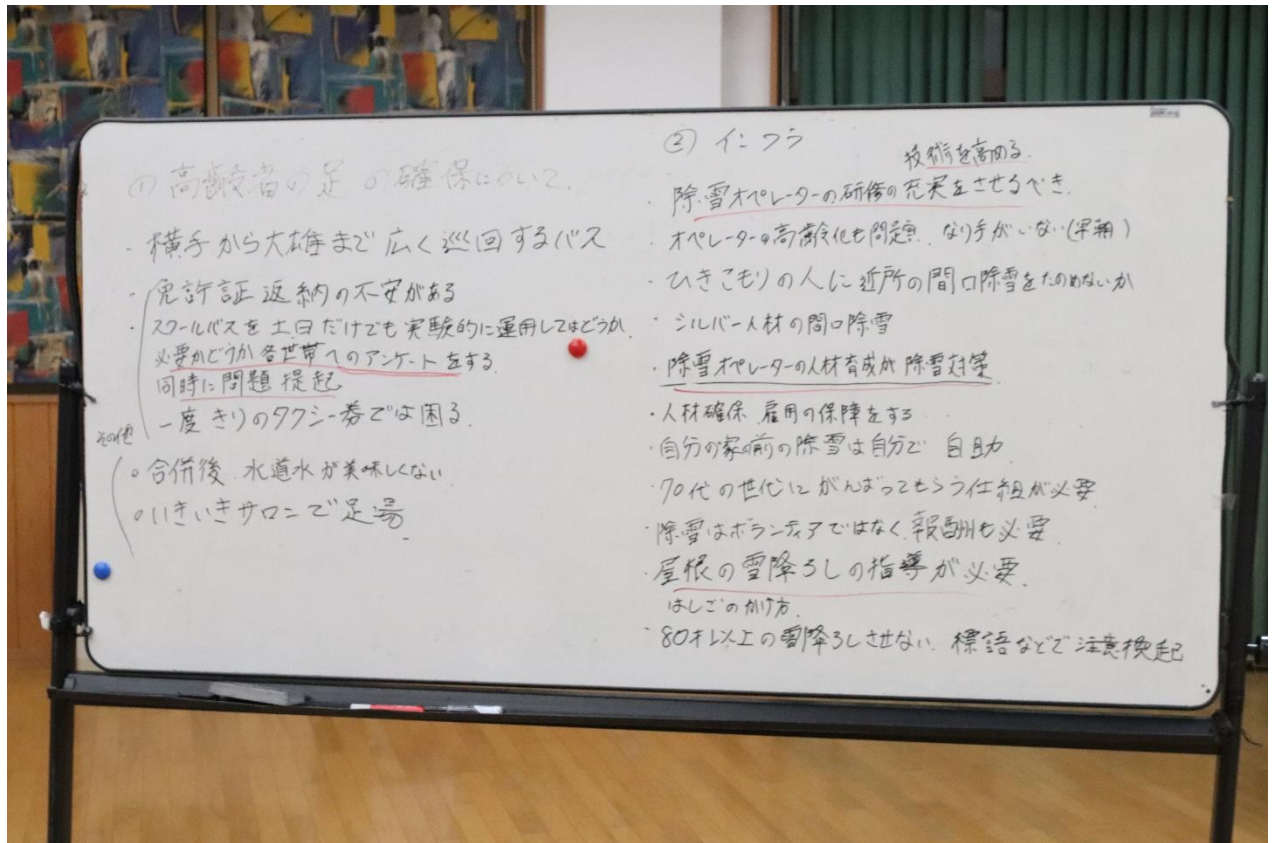
- ・合併後、水道水が美味しくない。
- ・ゆとりおんの活用策として「いきいきサロン」で足湯をやったらどうか。
- ・拡幅された県道（鹿島の前から大和更生園方面への曲がり口）へのガードレール設置の要望あり⇒奥山議員から地域局長へ報告→建設部へ報告

まとめ

スクールバスの活用について。学校で土日使っていないのであれば、実験的に走らせてみてはどうか。運転免許証返納は、70歳代くらいから不安になってくる。一度きりのタクシー券が配られただけでは、高齢者の足の解決にはならないのではないかと。今後を見据え、各世帯へ問題提起を含めたアンケートを実施してはどうか。

除雪オペレーターの人材の確保について、高齢化し、なり手がいない。失業保険を付けることで期間外の収入をカバーできるようになり、なり手の確保につながるのではないかと。オペレーターの技術を向上させる研修を充実させることで、除雪体制を保持することにつながる。園芸拠点センターの受講生に冬季間の収入源の確保のために除雪オペレーターになってもらうための研修・助成などができればよい。

屋根の雪下ろしは、毎年怪我や亡くなる方がいる。事故防止の勉強会の指導も行っていくべき。80歳以上には雪下ろしをさせないという標語で注意喚起したらどうかという。その他。合併後水道水が美味しくなくなった。いきいきサロンで足湯をやったらどうかという意見があった。





グループ③ 進行：佐藤誠洋議員、記録：奥山豊和議員

テーマ「高齢者の足の確保について」

- ・バスの乗車料金が高いので、利用者や事業者に対し補助できないか。
- ・今は家族の送迎に頼っている。
- ・遠いバス停まで歩くのが大変。
- ・デマンド交通の利用は特定の人だけ。
- ・スクールバスの活用について、実験路線の選定は地域要望なのか。
- ・大雄地域の路線バスは「大森線」のみで南北の路線がない。平鹿病院線や県道耳取新町方面など他の地域でもスクールバス活用を検討して欲しい。
- ・高齢者に限らず足の確保に困っている人への対応を。
- ・狙半内の送迎の手法を各地へ広げるために、ドライバーの確保については時間と場所がはっきりしていれば各町内に時間がある人はいるはず。運営の責任という課題もある。
- ・地域で具体的な話が出てきた段階で、狙半内の取り組みについて奥山さんの話を聞いてみたい。
- ・良い取り組みは市民全体で情報共有してほしい。

テーマ「除雪について」

- ・間口などの家庭内除雪が課題になっている。
- ・雄物川筋土地改良区の工事による水不足の問題。市報と一緒にチラシが一枚きただけで、どの程度不足しいつまでなのか情報がない。夏場は農業用水確保のために工事ができないのは分かるが、流雪溝が使えなくなると困る。市からも要望してほしい。

- ・高齢者世帯への対応、間口除雪の補助制度の活用。
- ・町内会除雪機購入補助の拡充を。個人負担は大変で、地域でまとめることが大切。そもそもの補助制度が知られていない。情報共有してほしい。
- ・地域づくり協議会から町内へ除雪機の貸与を受けたことがある。町内会活動補助金は、残りの自己負担がきつい。
- ・町内単位で除雪機を持っていれば、間口除雪への対応は可能。オペレーターは大変だが。
- ・除雪に関しても、地域にリーダーが必要。雪下ろしボランティア隊など、リーダーがいれば地域に組織が立ち上がる。市はリーダー育成を支援してほしい。環境美化推進委員などのように、位置付けを明確にした上で市として報酬を出せないか。

テーマ「その他」

- ・アメシロ防除の散布機械が地域局に2台あって貸し出しをしていた。今は壊れて1台しかなく困っている。なぜ更新しないのか。町内で購入する際に補助してほしい。何事も予算がひっかかる。いい意見を出しても却下される。なぜダメなのか理由が分からない。
- ・「ゆとりおん大雄」は今後どうなるのか。修繕の年次計画があるはずなのになぜ実行しないのか。
- ・公共温泉の民間譲渡は、経営がうまくいかなかったら市に返しても良かったのか。返されても収入はなく老朽化が進むだけ。解体も市で負担するのか。
- ・大森病院の存続は大丈夫か。
- ・横手体育館や市民会館の方向性について、駐車場確保は大切。
- ・「スポーツ立市」は市民不在ではないか。施設の利用料金をとるのであれば修繕を行うべき。団体への補助金も減らされている。

まとめ

スクールバスの活用の路線選定について、どうしてあの路線になったのか。大雄地区は南北の路線、大曲方面への路線がないので、今後スクールバスの実証実験がうまくいったら、不便な路線への活用も考えられないか。高齢者の足の確保について、狙半内の皆さんが自分たちでワゴン車を利用している事例などの情報が、市民にきちんと届くようにしてほしい。うまくいっているものを我々の地域ではどうやって取り入れたらいいのか、意見交換しながら大雄地区に合ったやり方でみんなで協力していきたい。

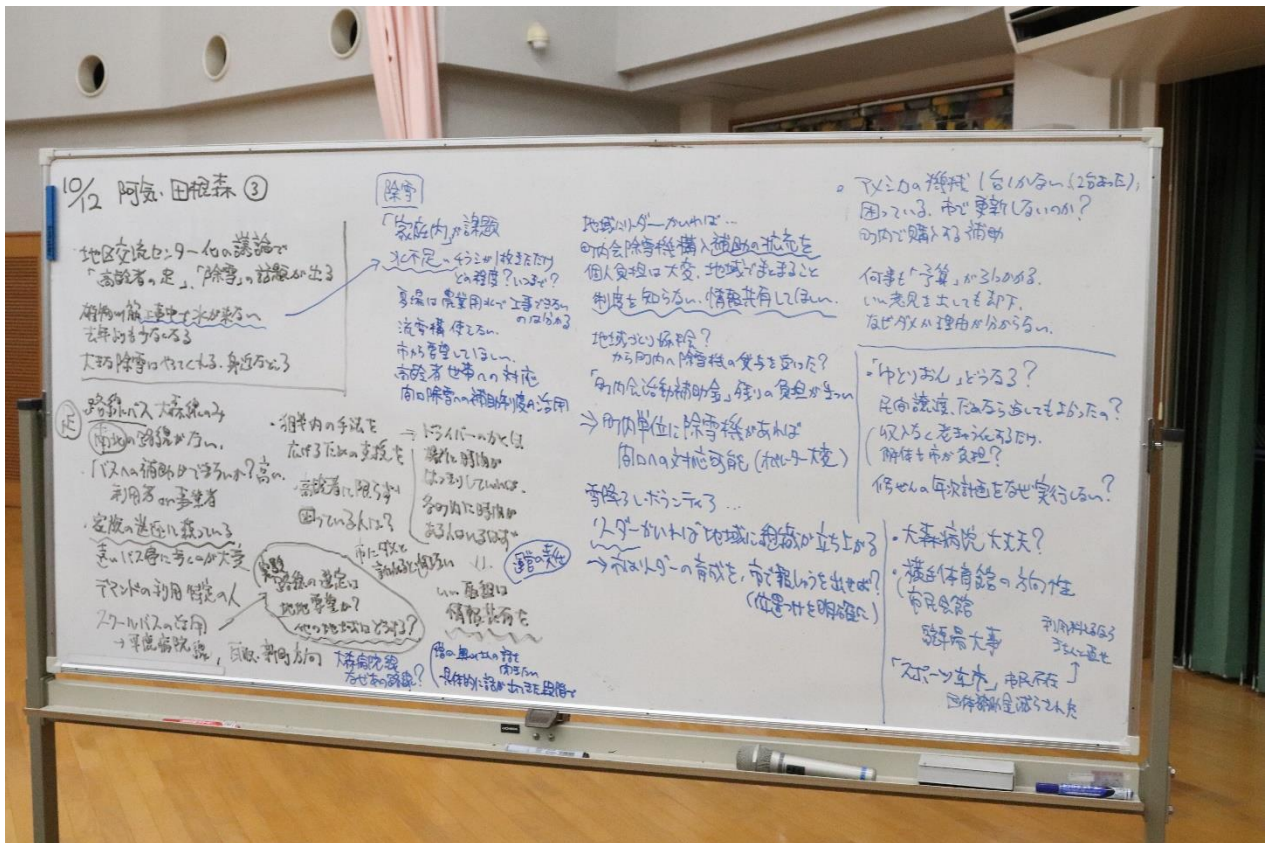
除雪に関しては、市報と一緒に頭首工の工事で冬は水が来ませんというチラシが入ったが、あれを見てどうすればいいのかという辺りをもう少し丁寧に市として説明してほしい。水で困っている地域が少なからずあるので、手当てが必要。町内会で除雪機を購入する補助の拡充が必要。地域づくり活動補助金や町内会活動補助金のような制度が、まだまだ地域の皆さんに届いていない。大雄地区は、路線除雪はしっかりやってもらっているので、間口除雪をどうするのが課題。町内単位に除雪機があれば、オペレーターは大変だが支え合いながら対応できる。地域にリーダーがいれば組織が立ち上がっていくと思うので、市はリーダーを育成することにもっと支援をしてほしい。例えば行政協力員とか環境美化推進委員のように、地域のリーダーの位置づけを明確にして報酬を支払ってもいいと思う。

大雄地区では、アメシロ防除のための機械を貸し出しているが、かつて2台あったものが1台壊れてご不便をおかけしている。地域局としては予算要求しているものの、これは全市的な事業でないため予算がつかず、なかなか更新されていない。意見を出しても却下される状況。上層部まで声が届いていないのではないかと。なぜだめなのか分かるようにしてほしい。

合併したから、全市で一斉の対応を進めるといのは問題がある。地域ごとの問題を解決するためには地域局に権限と予算を持たせるべき。

譲渡した温泉が市に返された対応には厳しい指摘があった。公共温泉施設の修繕について、年次計画を立てているだろうから、ゆとりおん大雄もしっかり修理してほしい。

大森病院の存続の要望。横手体育館や市民会館のような大きな建設事業の方向性については、「スポーツ立市」を言うのであれば、市民に分かるように進めてほしい。各施設で利用料金を取るのであれば、きちんと修繕をするべきではないかという当たり前の指摘があった。





令和2年10月28日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

4班代表 塩田 勉

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月12日（月） 18:00～ 20:00
2. 開催場所	金沢孔城館
3. 出席議員	6人（塩田勉、木村清貴、加藤勝義、本間利博、青山豊、菅原亀代嗣）
4. 参加人数	11人（市民：8人、職員：3人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（2グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が地区交流センター関係者のみだった。周知方法の工夫が必要。 ・人数が少なく2グループで実施。 ・寒くなければオープンスペースを使うのは非常に良かった。 

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

【テーマに関すること】

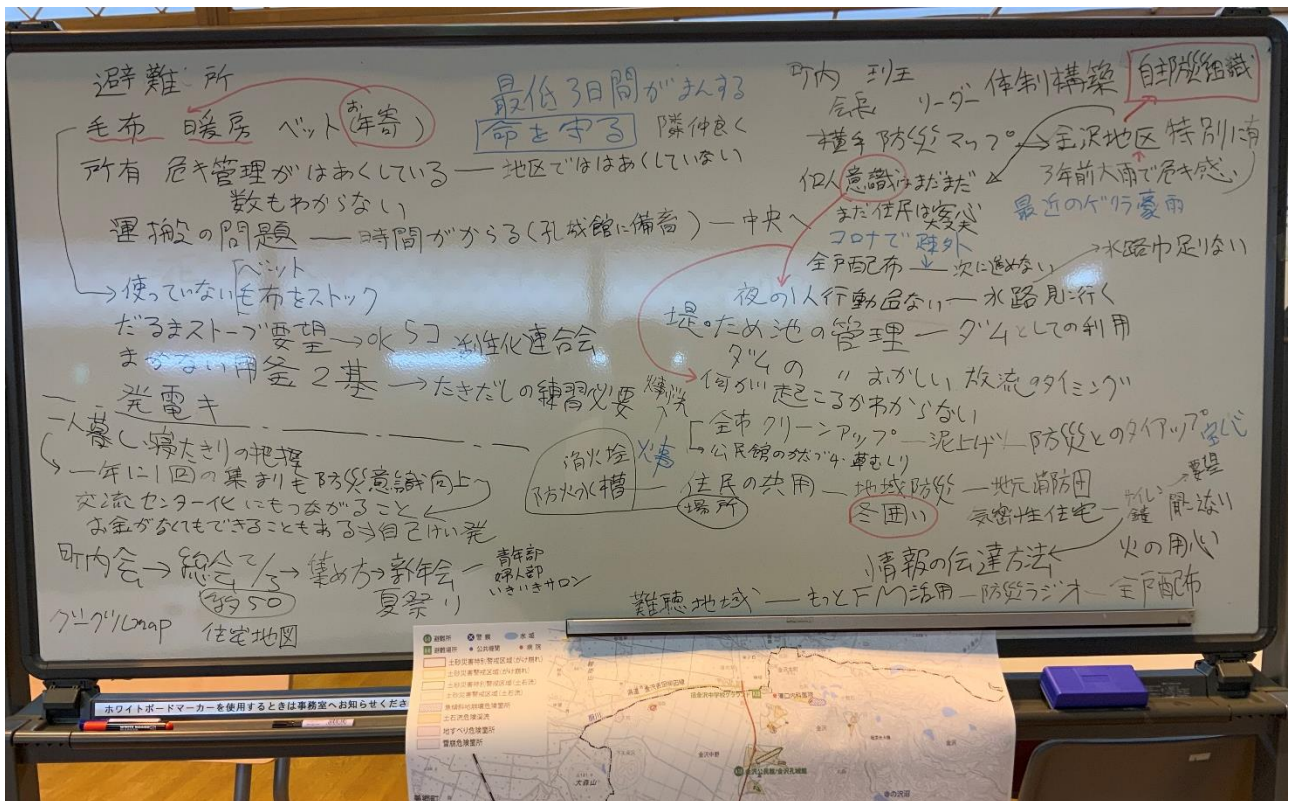
共通テーマ「地域防災について（避難所や防災体制など）」**グループ①**

- 避難所を設営した際、老人が多くベットが必要。
- 避難所は少し寒くなれば毛布や暖房が必要だが、数量などの管理・把握は危機管理課のみのため、地元としては数がいくら来るのかなどについては全然分からない。
- 孔城館に大分備蓄品は置いているが、運搬の問題がある。運ぶのに大分遠いところもある。やはり中央の方に備蓄品をもう少し置いた方が良いのではないか。
- 使っていない毛布やベットを地元としてストックしてはどうか。（危機管理課の管理外で）
- ダルマストーブや賄い用の窯は活性化連合会の方で要望して入手した。
- 炊き出しの練習が必要ではないか。
- 自主防災組織の中で防災に対する体制づくりが必要。リーダー育成。
- 金沢地区の防災マップを作って配布した。さらに細かく、各町内会の中でも住宅地図やグーグルマップを活用して、消火栓がどこにあるのか、防火水槽がどこにあるのかなど、防災マップ作りにおいては身近な話題の話を出しながら行っている。
- 個人の意識づくりが非常に重要。防災マップを作っても個人個人が全員それについて知っているかというところでもない。実際は隔たりがあるのが現状。意識付けをどうするかが一番の問題。
- ここは安心なところだから大丈夫だと思っている人が多い。最近はゲリラ豪雨などもあり、とんでもないところで災害が起こるんだということを知ってもらう必要がある。実際に今回のマップ作りのきっかけになったのは3年前の豪雨。
- マップの全戸配布を最近したが、コロナの関係で、配付後の意識付けの会議などができておらず、次に進めない状況がある。もどかしい。
- 意識付けの中では、夜の一人行動は危ないだとか、水路を一人で見に行かないとか、そのような話や、堤やため池はどうなっているのか、ダム管理体制はどうなっているのか、放流のタイミングはどうなっているのかなど、そういうものも住民同士の共有が必要。
- 住民同士の共有という面では集まる機会が減っているので、例えば市のクリーンアップの時などに泥上げをしながら、この水路はどうなっているのかみたいなどころから防災の意識をそこで話すのも良いタイミングではないか。
- 最低年に1回は公民館の片づけだとか草むしりだとかで、住民が集まる機会を作っていきたい。
- 最近は住宅の気密性が高まり、半鐘やサイレンなどが聞こえない。そこはどうしたら良いか。

- サイレンは地元として宝くじ助成に要望している。昔はサイレンや半鐘で火事の時はこういう感じに鳴らすだとか、火の用心では何時と何時に鳴らすだとか、そういうところから子ども心にも防災意識が芽生えるのではないかと思うが、そういうのが最近無くなってきた。
- もっとFMラジオの活用が必要。防災ラジオは不公平感なく全戸配布した方が良い。難聴地域もあるので違う手段も考えながらリスク分散をしていったらどうか。
- 自主防災の中で必要なのは近所の一人暮らしや寝たきりの方などの把握は、近所になったところでやっていかなければならない。全体ではなかなか難しい。その為にも年に1回は集まりが必要。総会、お祭り、青年部、婦人部、いきいきサロン等いろんなものを活用して集まって、ちょっとしたところから話をしていくのが防災につながるのではないか。

まとめ

- 防災意識の向上、避難所は最低3日間我慢できる体制づくり、最終的には個人個人の命を守る行動が大切である。

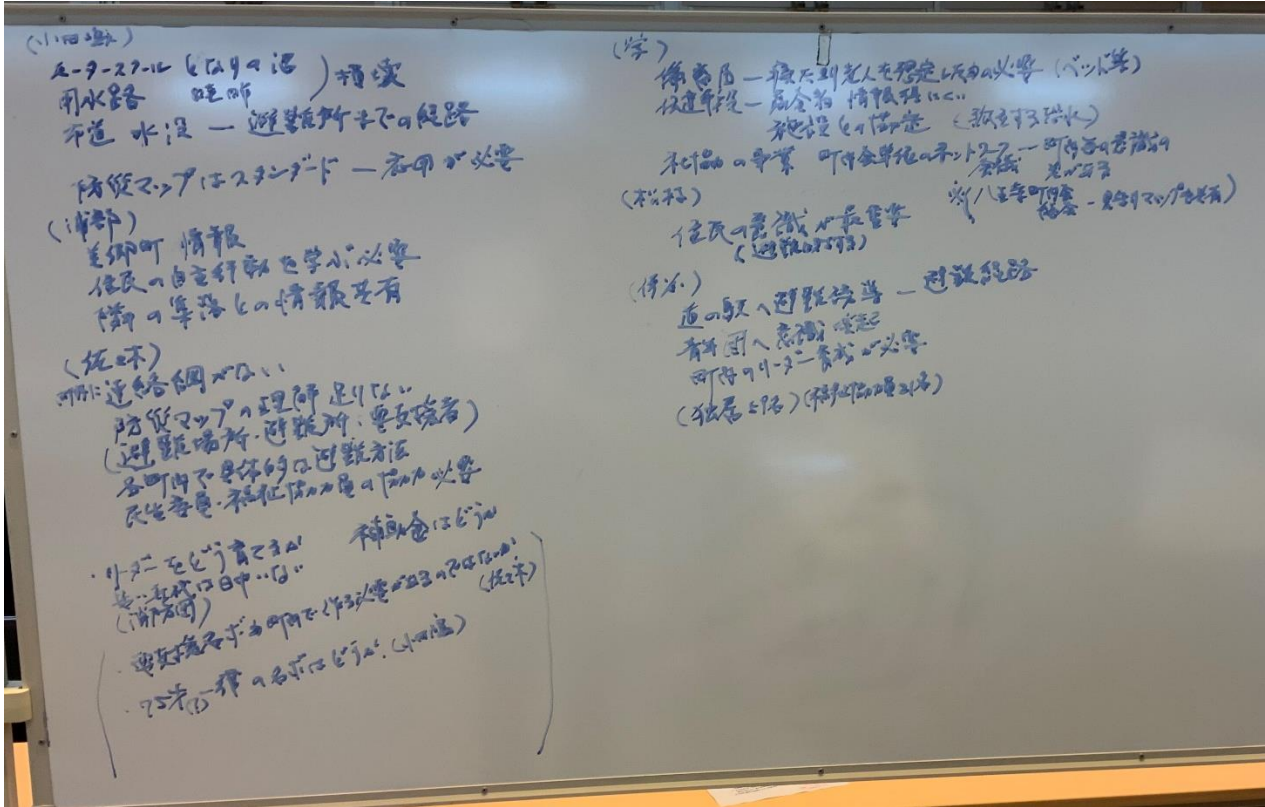


グループ②

- モータースクールの隣の沼だとか用水路、畦畔などの決壊がある。
- 市道が水没したら避難所までどうやって行ったら良いのか。どうやって逃げるか具体的な方法が見つからない。
- 防災マップはスタンダードであって、応用する部分が必要。
- 最後は住民の「避難するという意識」が一番重要。
- 町内の連絡網がない。
- 防災マップ自体への理解が足りない。避難所、避難場所、要支援者含めて。
- 各町内会で具体的に避難する方法を考えなければいけない。それには民生委員や福祉協力員の協力が必要である。
- 隣の集落との情報共有が必要。
- 備蓄品の中にベットなどの寝たきり老人を想定したものが必要ではないか。
- 伝達方法について、高齢者には危険であるという情報が伝わりにくい。
- 孤立する恐れがある集落等に関しては老人施設などとの協定が必要ではないか。
- 社協の事業として町内会単位のネットワーク会議というものがあるが、なかなか手上げが少ない。町内会毎の意識の差がある。
- 地区の総会では事業報告や会計報告をやって酒を飲んで終わりというパターンが多いが、一つの例としてだが、八王子町内会では総会時に見守りマップを広げてみんなで意識を共有している。
- 前の大雨では金沢公民館への非難が難しいことから道の駅に避難誘導した。避難経路自体に問題がある。
- 青年会に集まってもらって防災意識喚起を行っている。
- 町内会にリーダーが必要。どうやって育てるかが問題。しかし消防団や青年会は日中なかなか家にいないという問題もある。
- 防災リーダー育成のための補助金を創設できないか。
- 要支援者名簿について、町内会毎に作る必要があるのではないか。
- 75歳以上一律の名簿はどうか。

まとめ

- ・住民の避難行動に関する意識が一番重要である。




【テーマ以外に関すること】

令和2年10月 日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

2班代表 高橋 和樹

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月13日（火） 18:00～ 20:00
2. 開催場所	大沢地区交流センター
3. 出席議員	6人（高橋和樹、遠藤忠裕、齋藤光司、大日向香輝、土田百合子、佐藤忠久）
4. 参加人数	31人（市民：24人、職員：7人）
5. 実施内容	(1) 議会報告：最近の議会で話題になっていることについて報告 （過去2年開催していないため） (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区会議でお茶（ペットボトル）を用意してくれていた。 ・ かなり声掛けをしてくれたようで盛況だったが、テーブルが9台しかなく、意見交換に移る際にテーブルの移動・設置などが必要だった。 ・ 3年ぶりの開催によりお互いに新鮮であった。ここ1年の議会報告についても真剣に聞いていたように感じた。ある意味、毎年開催に対して考えるべきであると思う。市職員も各テーブルにオブザーバーとして入ってもらったため、地域に特化した問題や専門的案件については即答することができ、ありがたかった。（各地域共通） 

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

意見交換会テーマ「国道107号バイパス開通に伴う旧国道の扱いについて」

グループ① 進行：土田百合子議員、記録：佐藤忠久議員

テーマについて

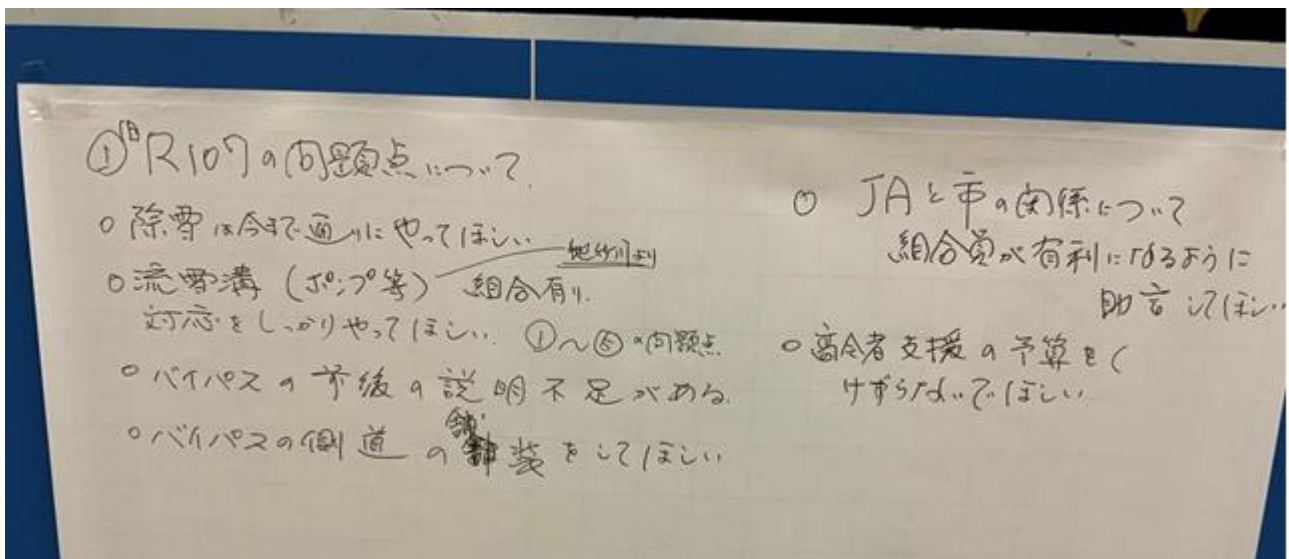
- ・除雪は今までどおりにやってほしい
- ・流雪溝（地竹川からポンプ）について、グレーチングや雪が大量に降って詰まったときの対応などをしっかりやってほしい（組合あり）
- ・バイパスの前後の説明不足がある（取付道路工事はどうなっているか。10年ほど前に説明したきり説明もない）→後日、県振興局で住民説明会を行うことになった
- ・バイパスの側道（農道）の舗装をしてほしい

テーマ以外について

- ・JAと市の関係。色彩選別機の補助金は市で助成してほしい。機械がない人はヘリ防除2回あり。その他のことについても、組合員が有利になるように助言してほしい
- ・高齢者支援の予算を今までどおりつけてほしい。他の予算を削って事業をやってほしい

まとめ

- ・旧国道に関して一番大切なのは除雪。今までどおりにやってほしい。これに尽きる。



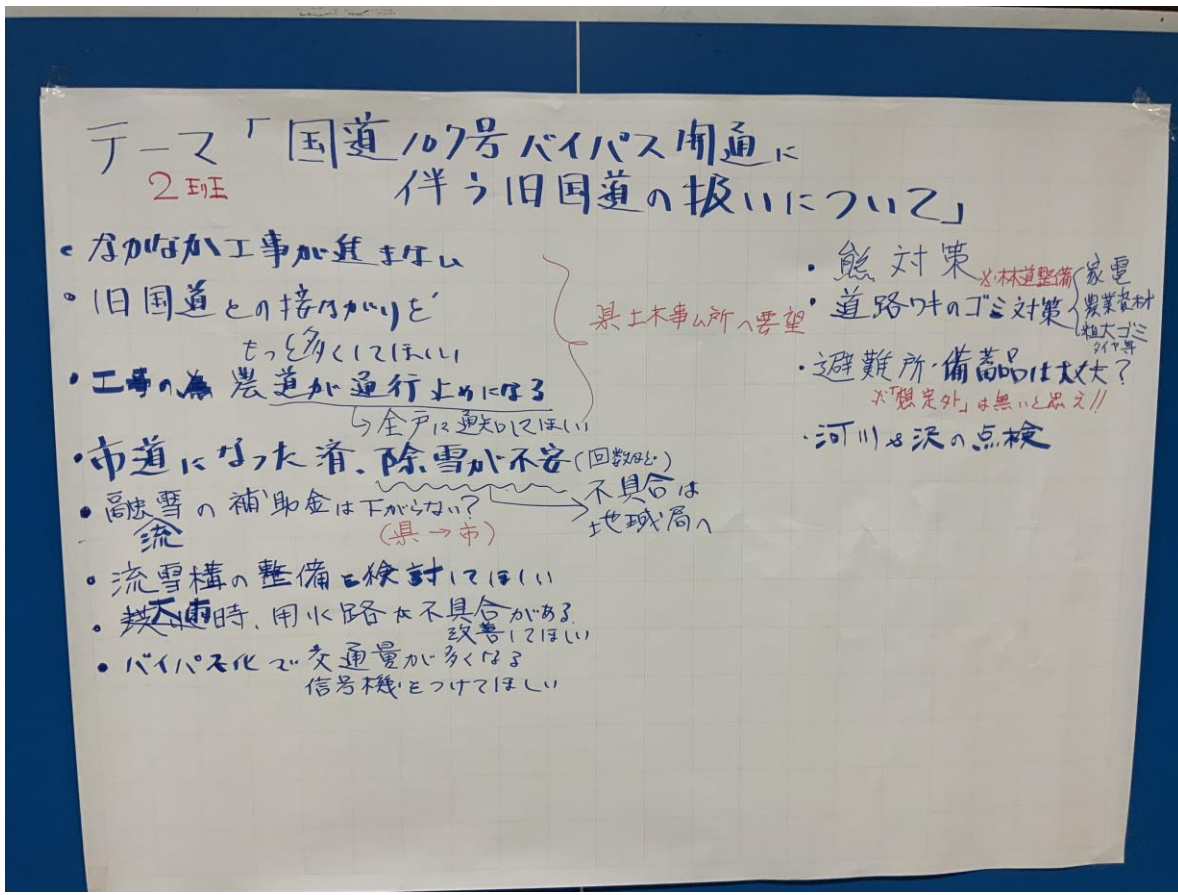
グループ② 進行：遠藤忠裕議員、記録：大日向香輝議員

テーマについて

- ・ 県土木事務所への要望
 なかなか工事が進まない
 旧国道とのつながりをもっと多くしてほしい
 工事のため農道が通行止めになる（全戸に通知してほしい）
- ・ 市道になった際、回数など除雪が不安→不具合は地域局へ
- ・ 融雪、流雪の補助金は下がらない？（県→市）
- ・ 流雪溝の整備を検討してほしい
- ・ 大雨時、用水路が不具合があるので改善してほしい
- ・ 交通量が多くなるので信号機をつけてほしい

テーマ以外について

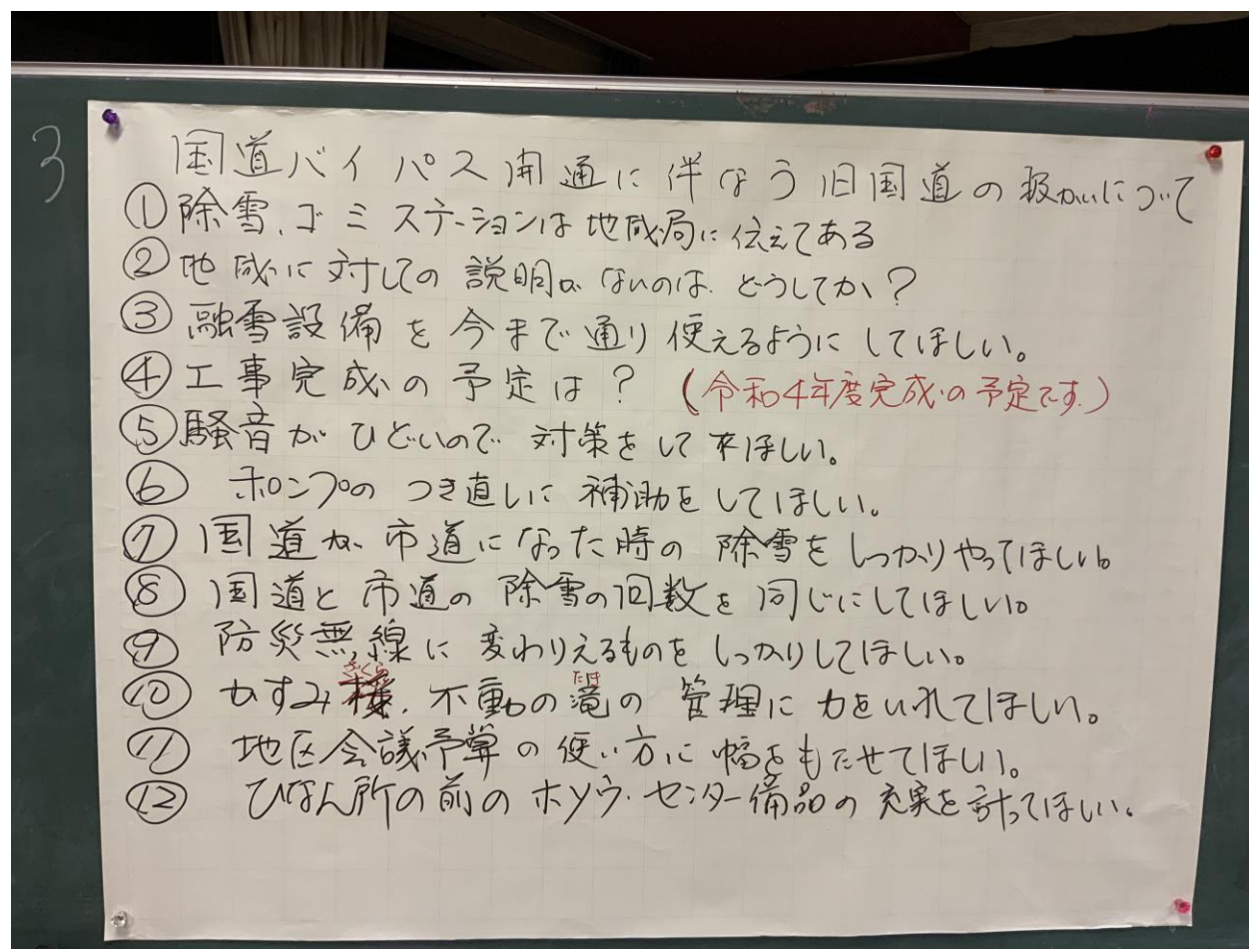
- ・ 熊対策→林道整備
- ・ 道路わきのゴミ対策（家電、農業資材、粗大ゴミ、タイヤなど）
- ・ 避難所、備蓄品は大丈夫？「想定外」はないと思え！！
- ・ 河川と沢の点検



グループ③ 進行：高橋和樹議員、記録：齋藤光司議員

テーマについて

- ・ 除雪、ゴミステーションは地域局に伝えてある
- ・ 地域に対しての説明がないのはどうしてか？
- ・ 融雪設備を今までどおり使えるようにしてほしい
- ・ 工事完成の予定は？→令和4年度完成予定
- ・ 騒音がひどいので対策をしてほしい
- ・ ポンプのつき直しに補助をしてほしい
- ・ 国道が市道になったときの除雪をしっかりとってほしい
- ・ 国道と指導の除雪の回数を同じにしてほしい
- ・ 防災無線に変わるものをしっかりとってほしい
- ・ かすみ桜、不動の滝の管理に力を入れてほしい
- ・ 地区会議予算の使い方に幅を持たせてほしい
- ・ 避難所の前の舗装、センター備品の充実を図ってほしい




令和2年10月28日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

4班代表 塩田 勉

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月12日（月） 19:00～ 20:40
2. 開催場所	サンサン横手
3. 出席議員	6人（塩田勉、木村清貴、加藤勝義、本間利博、青山豊、菅原亀代嗣）
4. 参加人数	9人（市民：3人、職員：6人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（2グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が少なく2グループで実施。 → クマ出没騒動も影響か？ ・会場が暗かった。 ・周知の方法については工夫が必要。
7. 改善点・ 気付いた点	

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

【テーマに関すること】

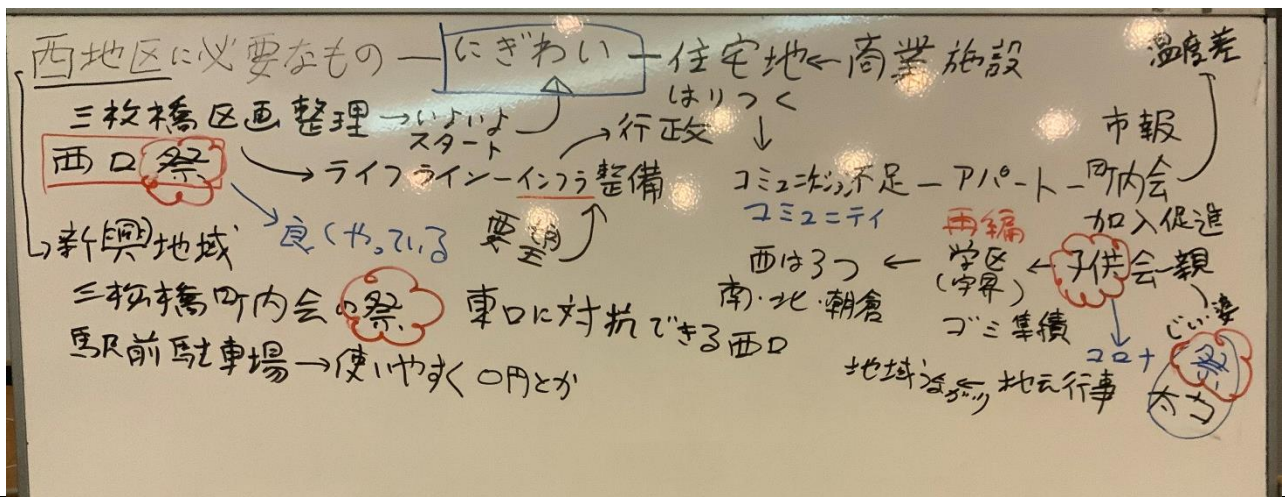
共通テーマ「横手西地区の将来について」

グループ①

- ・西地区に必要なのはまずはにぎわいづくり。西口祭りが非常に頑張っている。三枚橋の町内会でもお祭りをやっている。
- ・西地区は商業施設に住宅地が張り付くような新興地域にある。
- ・三枚橋地区の区画整理事業も終わりに向かい、いよいよにぎわいづくりへのスタートとなる。
- ・ライフライン、インフラの整備は行政側でしっかりとやってもらいたい。
- ・新興住宅街であるがゆえにコミュニケーション、コミュニティ不足。アパートが多いのがその一因。町内会への加入促進が必要。市報も町内会から渡すようなやり方が無いものか。（現在はアパートの大家が配布したりしている。）
- ・町内会毎に温度差がある。昔は町内会は子ども会から派生しているようなところもあり、子ども会は必要。子どもが来れば親も祖父母も来る。
- ・お祭りの太鼓など、コロナでなかなかやれなかったが今年はやったという話もあった。地元の行事が地域のつながりを強くする。
- ・西地区では学区割に問題がある。南小、北小、朝倉小学区の3つがある。一つの町内会で3つに分かれているところもある。学区の再編はなかなか難しい問題だが将来的には解決していかなければいけない。
- ・東口に対抗できるような西口を作りたい。駅前駐車場を無料にするとかはできるのではないか。

まとめ

- 賑わいづくりには、子ども、お祭りがキーワード。

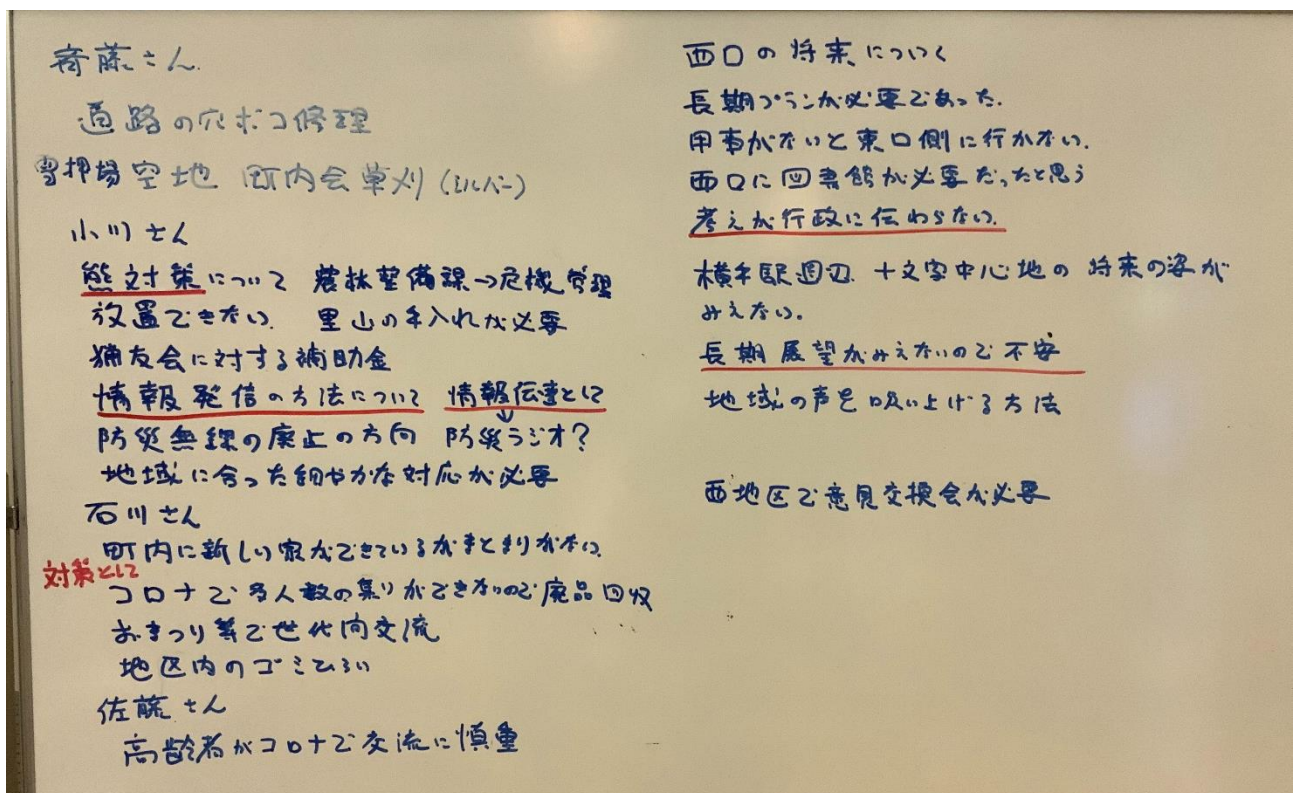


グループ②

- ・なかなか住民の考えが行政に伝わらない。実現につなげてもらえないため不安に思っている。
- ・西口（東口もそうだが）の長期展望が見えない。住民としては不安。
- ・用事が無いと西口の人も東口へは行かない。
- ・図書館は西口にあったほうが良かったのではないか。
- ・横手駅周辺、また十文字中心部の将来の姿が見えない。長期展望が見えない。もっと住民の声を吸い上げる方法を考える必要があるのではないか。

まとめ

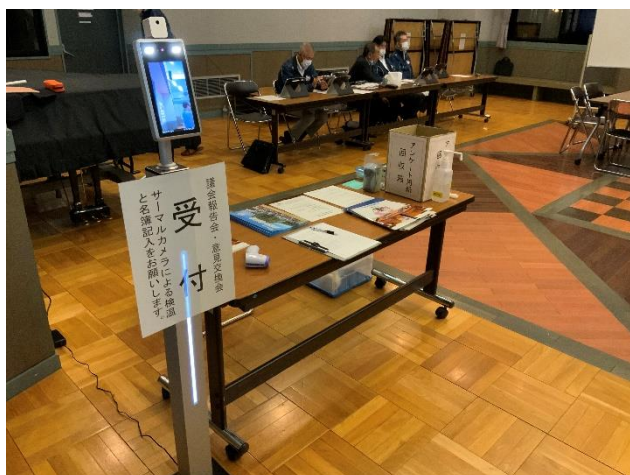
- ・西地区内の意見交換会が必要ではないか。



【テーマ以外に関すること】

- ・道路の穴埋めなど、地域局の対応は良い。
- ・町内会で雪押し場の空き地の草刈りをシルバーに頼んで行っている。自分たちの住む地域を自分たちで手をかけていこうという考えがある。
- ・熊対策についてはどこでやっているのか。いかに住民に早く情報を伝えるかが重要。里山の手入れも必要だ。また猟友会への補助金が少ないのではないか。
- ・情報発信の方法について。熊の情報などは防災ラジオでいち早く流したらどうか。
- ・防災ラジオの在り方、防災無線が廃止される方向だが地域に合った細やかな対応が必要。
- ・町内に新しい家がどんどん増えているためにまとまりが少ない。コロナで大人数の集まりは出来ないで、廃品回収を行っているところもあったし、お祭りで世代間交流をしているところ、また地区内でごみ拾いをしているというようなところもあった。いずれ交流を密に行うことで新しい、増えていく家との一体感を作っていこうという考えがあった。高齢者がコロナで交流に慎重になっているが、これからはそういった対応も必要になってくると思われる。

【参考写真】




令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

1 班代表 菅原 惠悦

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月14日（水） 18:00～ 20:00
2. 開催場所	前田公民館
3. 出席議員	6人（菅原 惠悦、小野正伸、立身万千子、佐藤 誠洋、奥山豊和、山形健二）
4. 参加人数	18人（市民：15人、職員：3人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<p>（事前打ち合わせ内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には阿気・田根森と同様に進行し、スムーズに終わることができた。 ・地域課長は地区住民ではないが、住民の要望もあり一緒に意見交換を行った。 ・発表は多目的室にて行ったが、広さの面からも、模造紙を貼り出すスペースの面からも交流室で行った方がスムーズだったかもしれない。ホワイトボードありとのことだったが、実際には黒板1台だった。（交流室には備え付けの大型黒板あり） ・第1部を多目的室で行う場合でも、机は教室式ではなく最初から車座にしておいたほうがよかったかもしれない。 

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

テーマ「人口減少が著しい当地区において、今改めて、隣人との付き合い方を考える」

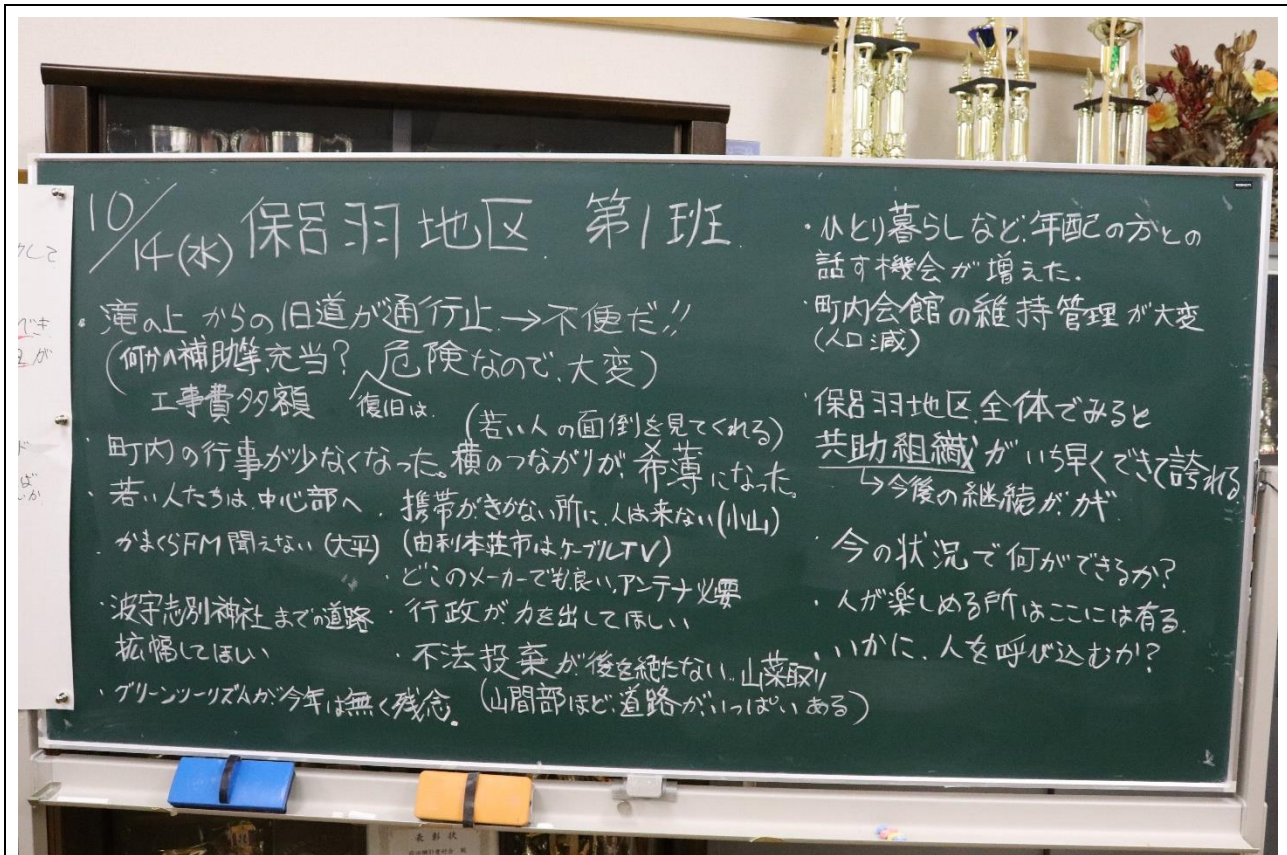
グループ① 進行：菅原恵悦議員、記録：小野正伸議員

- ・「滝の上」からの旧道が通行止めとなっており不便。工事費が多額となるため何かの補助等を充当できないか。復旧作業も危険なので大変。
- ・町内の行事が少なくなったことで、横の繋がりが希薄になった。
- ・若い人たちは中心部へ。
- ・横手かまくらFMが聴こえない（大平地区）。
- ・携帯電話が通じないところに人は来ない（小山地区）。どこのメーカーでもいいのでアンテナが必要。行政が力を出してほしい。
- ・波宇志別神社までの道路を拡幅してほしい。
- ・グリーンツーリズムが今年は無く残念。
- ・一人暮らしなど年配の方と話す機会が増えた。
- ・人口減少により、町内会館の維持管理が大変。
- ・保呂羽地区全体で見ると、共助組織がいち早くできたことが誇りだが、組織の今後の継続が鍵。
- ・今の状況で何ができるのか、人が楽しめる所がここにはある。いかに人を呼び込むかが課題。

まとめ

要望。「滝の上」からの旧道が通行止めになっている。直すにしても、工事自体が危険で多額の工事費がかかるだろうということで、市長も現場を見ているが今後何らかの補助事業充当できるのであれば考えたいとのこと。

町内の行事が少なくなり横の繋がりが気迫になってきているが、中には若い人の面倒を見てくれるおばあちゃんもいるそうだ。若い世帯は市の中心部の方へ家を建てている。特に大平地区はかまくらエフエムが通じない。小山地区は携帯電話が通じない。どこのメーカーでもいいので、携帯が繋がるようにしてほしい。今以上に行政が力を出して取り組んでほしい波宇志別神社までの道路を拡幅して欲しい。山の方への道路が良くなった反面、山菜採りに来た人が不法投棄して行くので困っている。今年はコロナの影響でグリーンツーリズムがなくなってしまって残念。人も少なくなってきたが、年配の方々と話す機会が増えてきているのはいいことだし、人が減ってきたが故に町内会館をあまり使わなくなっているのに維持管理費がかさんでいるのが課題。保呂羽地区全体で考えると、共助組織がいち早く立ち上がっており、他に誇れる組織の今後の継続が課題。人が少なくなった状況でどんなことができるのか、来た人達には楽しめるポテンシャルや素材がたくさんあるので、いかにして人を呼び込んでいくのかを考えていきたい。



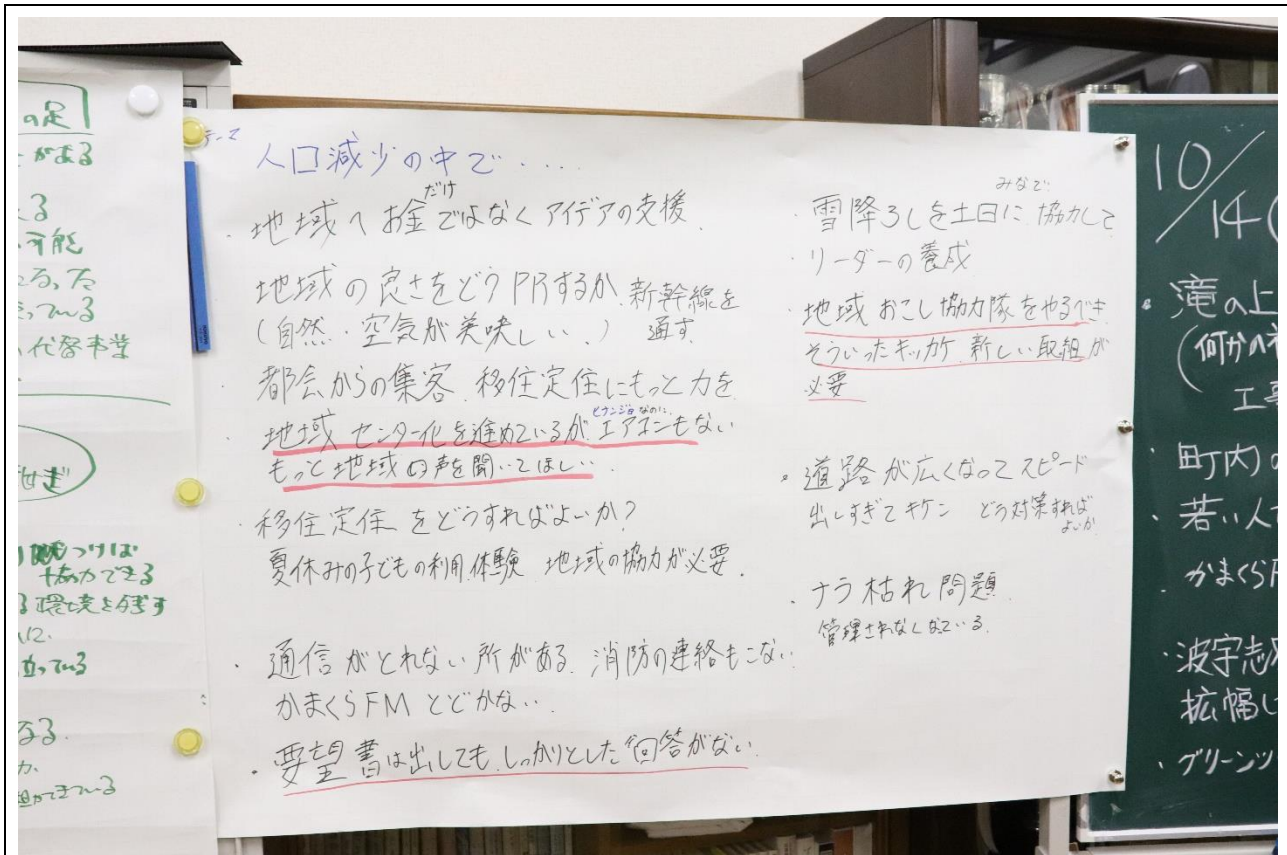
グループ② 進行：立身万千子議員、記録：山形健二議員

- ・地域に対し、お金だけでは無くアイデアの支援が必要。
- ・地域の良さ（自然、空気がおいしいなど）をどうPRするか。横手まで新幹線を通すことも必要。
- ・都会からの集客、移住定住にもっと力を入れて。夏休みの子ども体験などは地域の協力が必要。
- ・地区交流センター化を進めているが、前田公民館は避難所なのにエアコンもない。もっと地域の声を聴いてほしい。
- ・通信ができない地域がある。消防の連絡も来ないしかまくらFMも聞こえない。
- ・地区会議から要望書を出しても、しっかりとした回答がない。（添付資料参照）
- ・雪下ろしを土日にみんなで協力して。
- ・リーダーの養成が必要。
- ・地域おこし協力隊を受け入れるべき。そういった新しい取り組みやきっかけが地域には必要。
- ・道路が広がった分、車はスピードの出し過ぎで危険。どう対策すれば良いのか。ナラ枯れの問題が出てきている。山林が管理されなくなっている。

まとめ

行政の方から、地域へ予算だけではなく新しいアイデアの提案などの支援をしてほしい。移住定住について、地域の良さ、田舎の良さや自然をどうPRしていくかが重要。新幹線を横手まで通すことでまた流れが変わるのではないか。来た人に馴染んでもらうためには、地域の協力が必要。リーダーの養成について、横手市ではまだやっていないが地域おこし協力隊という国の制度を使って、この地域に新しいきっかけをつくる取り組みが必要。

通信が取れないところがある。以前火事があった時に消防署との連絡がうまくいかなかったこともあるようなので、防災の観点から早急になんとかしなければならぬ。要望書を出してもしっかりとした回答がない。ただ予算がないではなく、なぜだめなのかきちんと回答してほしい。道路が広く通りやすくなったことで、スピード出す車が増えた。



グループ③ 進行：佐藤誠洋議員、記録：奥山豊和議員

・人柄が良くいい地域、隣同士でトラブルがない。皆さん協力的で穏やかな関係性。先日の大森での火事でケーブルが燃えて、しばらくテレビが映らなくなった。1軒ずつ説明に訪問したが、高齢者宅が多く日常から特に声をかけ話すことが大切。集落内であれば、各家庭の状況を分かっている。

・顔の見える関係性を大事に集落同士と一緒に活動している。かつては、前田地区と坂部地区に分かれていたが、保呂羽小学校ができたことをきっかけに交流が始まった。現在、集落単独での催しは大変で、協力して行っている。お祭りの維持も課題で、やめた集落も出てきている。数珠念仏は中ノ又集落でしか行われていない。一通りの道具は公民館で保管しているので、子どもたちも一緒に集まって実演できないか。

・保呂羽地区では「異世代間交流」の事業を行っている。公民館事務員などの若い世代のネットワークで70～80人集まる。コロナ禍により今後どうするか課題。「お楽しみサロン」では、お坊さんの話を聴いたり地域にあるものを活用するなど、公民館と自治会が一緒になって行っている。

・共助組織の雪下ろしは、安全対策会議を必ず実施し、計画的に進めている。頼む人は固定化してきている。総務省事業で除雪機を購入済みでフル活用している。お揃いのジャンパーを着ると元気が出る。始めた頃は1軒ずつ訪問して注文を取っていたが、次第にお願いする人が増えていった。

・地域づくり活動補助金について。燃料代や機械代など雪下ろしをする上で助かっているが、人件費に使えないのは不便。毎年活用しているが、5年で終わりという縛りがあり、今後、この補助金が使えなくなるのは困る。

・雪下ろしにかかる赤字分は県道の草刈り作業を請けることで補填している。自分たちの道だから丁寧に作業する。公民館前のグラウンドや神楽殿資料館前もやっている。坂部地区の県道も請けたいが許可が出ない。請ける範囲を広げられないのであれば、年1回の契約を2回にしてもらえれば、共助組織の自主財源確保にとってありがたい。今後他にやれることは、お墓の維持管理などを考えている。

・共助組織の引き継ぎ、次世代の育成が課題。65歳で仕事に一区切りつけば、様々な地域活動に協力できると言っている人は多い。次に繋げるためには、いい条件でやれる環境を残していくことが大切。雪下ろしの会計は成り立っているが、課題は人。消防団は何かと頼りになっている。地域住民の地域活動への協力体制ができており、毎年の夏祭りは役割分担している。

・カモシカによる農作物の食害被害が深刻。天然記念物であることは理解するが、里に出たら駆除対象にするなど対策をお願いしたい。保呂羽山の道路沿いは全て40年間休猟区になっていることも問題。1～2週間程度山に入れるようにしなければ、そのために猟友会の人材も減ってきている。

・芦沢峠の通行止め箇所の改善について、毎年お願いしている。

まとめ

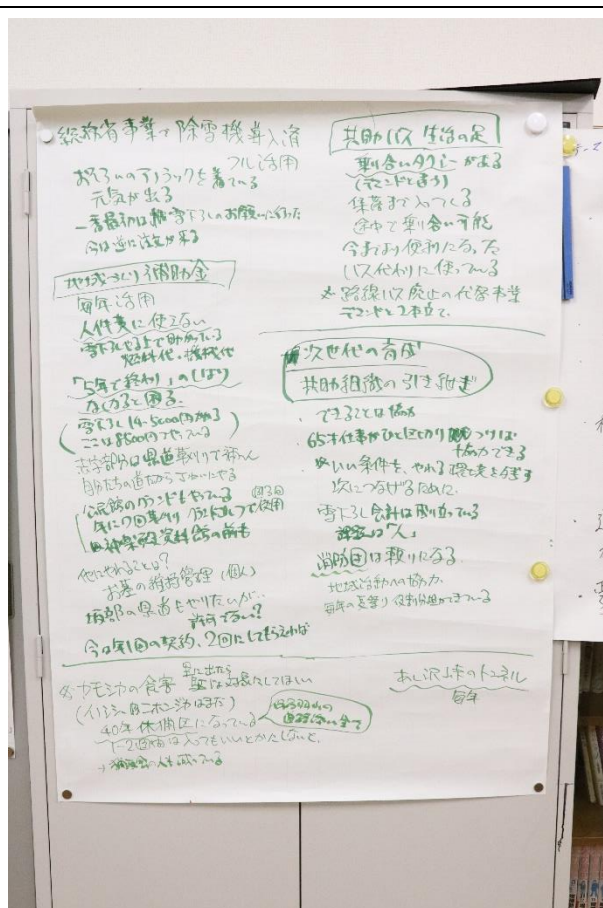
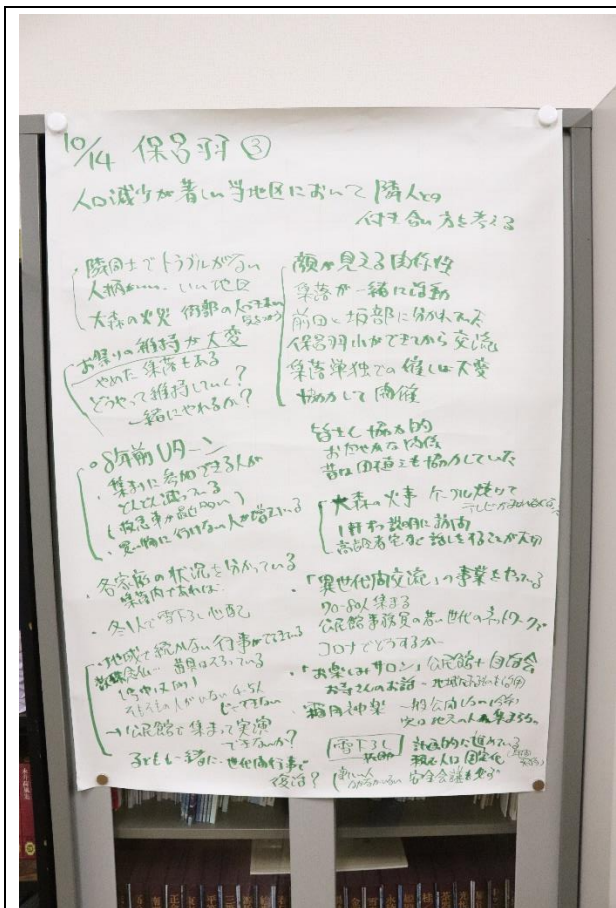
皆さん人柄がよくトラブルのない地域。顔の見える関係性を築いている。今後は、集落単体で色々なことが出来なくなってきたので、隣り合う集落と協力し合いながらやっていかなければいけない。実際にお祭りの維持も大変で、やめた集落も増えてきている。「数珠念仏」も中ノ又集落外はやめてしまっていて、道具は公民館で保管しているので、何かの機会に集まった時に異世代交流事業などでやれたらいいのではないかな。

共助組織の雪下ろしは、お揃いのジャンパーを着て作業していると一体感が出て元気が出る。ある程度この地域の雪下ろしのシステムが回るようになってきているが、今後屋根に上って雪を下せる人の確保が課題。

市の地域づくりへの補助金を毎年活用しているが、作業する人への人件費に補助金が使えないのは使い勝手が悪いという意見があった。この補助金制度は、1つの事業は5年で終わりという縛りがあるが、この補助金が使えなくなると活動が出来なくなるので大変だという指摘があった。共助組織で県道の草刈りを請け負っているが、回数を増やしたり他の場所をやるようにすることで、もう少し自主財源が増える。協力し合っているいろいろなことに取り組んでいる共助組織に対し、市としてもっと支援できるような形が必要ではないか。組織を次の世代へいかにして引き継いでいくのかという課題については、65歳で退職し仕事が一段落つけは協力できる方もいる。前田公民館を拠点にうまく回っている仕組みを残していくことで、次の世代が入って来れるようにして行きたい。

生活の足について。大森地区は、「乗合タクシー」というデマンド交通とは違う仕組みがある。集落をまわり途中で乗り合って、病院だけではなく役所や買い物など色々なところへ安い運賃で行けるので、共助バスのような仕組みは今のところ必要ない。このような便利な仕組みが広がっていけば、お年寄りの足の確保にも繋がっていくのではないかな。

カモシカの食害被害が深刻だというご意見があった。この地域は40年間休猟区になっていて駆除ができない。（対象が天然記念物ということもあり）議会としてどこまで出来るか分からないが、何かしらの対応が必要だと思う。



令和2年10月 日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

2班代表 高橋 和樹

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月14日（水） 18:00～ 20:00
2. 開催場所	福地コミュニティセンター
3. 出席議員	6人（高橋和樹、遠藤忠裕、齋藤光司、大日向香輝、土田百合子、佐藤忠久）
4. 参加人数	21人（市民：16人、職員：5人）
5. 実施内容	(1) 議会報告：昨年度の意見についての情報提供 (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<p>地域の課題は出来るだけ地域で解決しようとしている気持ちが伝わった。防災マップ作りなど楽しみながら交流センターの事業を行っており、議長・副議長たちも考え方が前向きであった。また、同地域（雄物川）内の他集落で行っている事業なども良いものは積極的に取り入れようとしていたのが印象的であった。</p> 

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

- 意見交換会テーマ ○買い物、通院など移動支援活動について
 ○高齢者の見守りなど生活支援活動について
 ○避難訓練や防災活動について

グループ① 進行：土田百合子議員、記録：佐藤忠久議員

テーマ「買い物、通院など移動支援活動について」

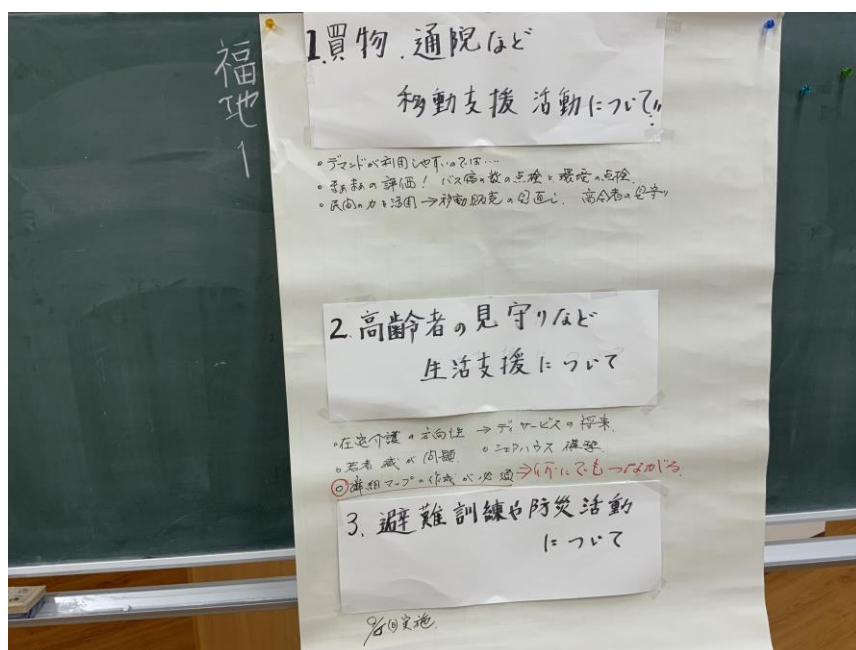
- ・ デマンドが利用しやすいのでは…
- ・ まあまあ評価！バス停の数の点検と環境の点検
- ・ 民間の力を活用→移動販売の見直し、高齢者の見守り

テーマ「高齢者の見守りなど生活支援活動について」

- ・ 在宅介護の方向性→デイサービスの将来
- ・ 若者減が問題
- ・ シェアハウス構想
- ・ 隣組マップの作成が必須⇒何にでもつながる

テーマ「避難訓練や防災活動について」

- ・ 9/6（日）実施



グループ② 進行：高橋和樹議員、記録：齋藤光司議員

テーマについて

- ・社協にささえあい事業を依頼されたが、なかなかドライバーも含め地域として難しい。福地共助組織にお願いをしたが、市としての支援もしてほしい
- ・デマンド交通は月 300~400 回くらい利用されている。デマンドは維持してほしい。朝方に予約が集中する等の問題もあるので現状を調査し、もっと使い勝手をよくしてほしい
- ・現在は運転しているが、将来の通院、買い物に対して不安がある。現在は利用者が少ないが、予算もあるけれども継続してほしい
- ・避難時に高齢者宅等に対しての声掛けを民生委員だけでなく地域の消防団がしてくれており、民生委員としてはありがたい（民生委員の負担の軽減を図ってほしい）
- ・要支援者名簿に入っていない方について地域独自の名簿作成をしている。もれのないように地域で頑張っている
- ・デマンド、コミュニティバスは継続してほしい。利用人数が少なくてもこれからの生活に不可欠だ。デマンドは夜、使えるようにしてほしい
- ・コロナで困っている人の支援と、テレワークの時代を好機ととらえ地域づくりに生かすべき。都会からの人を呼び寄せ空き家等の対策に生かすようにしてほしい
- ・人口問題。出会いの場を作ってほしい
- ・雄物川高校を特色ある学校として存続させてほしい
- ・交流センターのさらなる活性化で地域の見守りも含めての活動をしていくためにも市のさらなる支援をお願いする
- ・福地共助組織に市からの支援をしてもらい、地域維持にさらなる活動をお願いする

- ① 社協に支えぬ事業を依頼されたが、そのほかドライバーも含め地域として頑張りたい。福祉共助組織にお願いをしながら、市としての支援もしてほしい。
- ② テマンド交通は月300〜400回位利用されている。テマンドは維持をしてほしい。朝晩予約が集中等の問題もあるので現状を調査。もっと使い勝手を良くしてほしい。
- ③ 現在は運転しているが、将来の通院、買い物に不安がある。現在は利用者の少なさや予約の取れなさも継続してほしい。
- ④ 避難時に高齢者等に対する声かけを民生委員だけでなく地域の消防団も声かけをしてほしい。民生委員としてはありがたい。(民生委員の負担の軽減を計りたい。)
- ⑤ 要支援者名簿に入っていない方について独自の名簿作成をしている。おれのおれに地域もさんかしている。
- ⑥ テマンド、コミュニティバスは継続してほしい。テマンド利用人数の減少も、これからの生活に不可欠な夜間便を早くしてほしい。

- ⑦ コロナで困っている人の支援と、テレワークの時代を好期ととらえ、地域づくりに頑張るべき。都会からの人を呼び寄せ、空き屋等の対策に生かすようにしてほしい。
- ⑧ 人口問題、虫歯いの場をつくらしてほしい。
- ⑨ 雄物川高校を特色の女子学校として存続をさせたい。
- ⑩ 交流センターのさらなる活性化と、地域の見守りも含めた活動をしていくために市のさらなる支援をお願いする。
- ⑪ 福祉共助組織に市からの支援をもらい、地域維持にさらなる活動をお願いする。

グループ③ 進行：遠藤忠裕議員、記録：大日向香輝議員

テーマ「避難訓練や防災活動について」

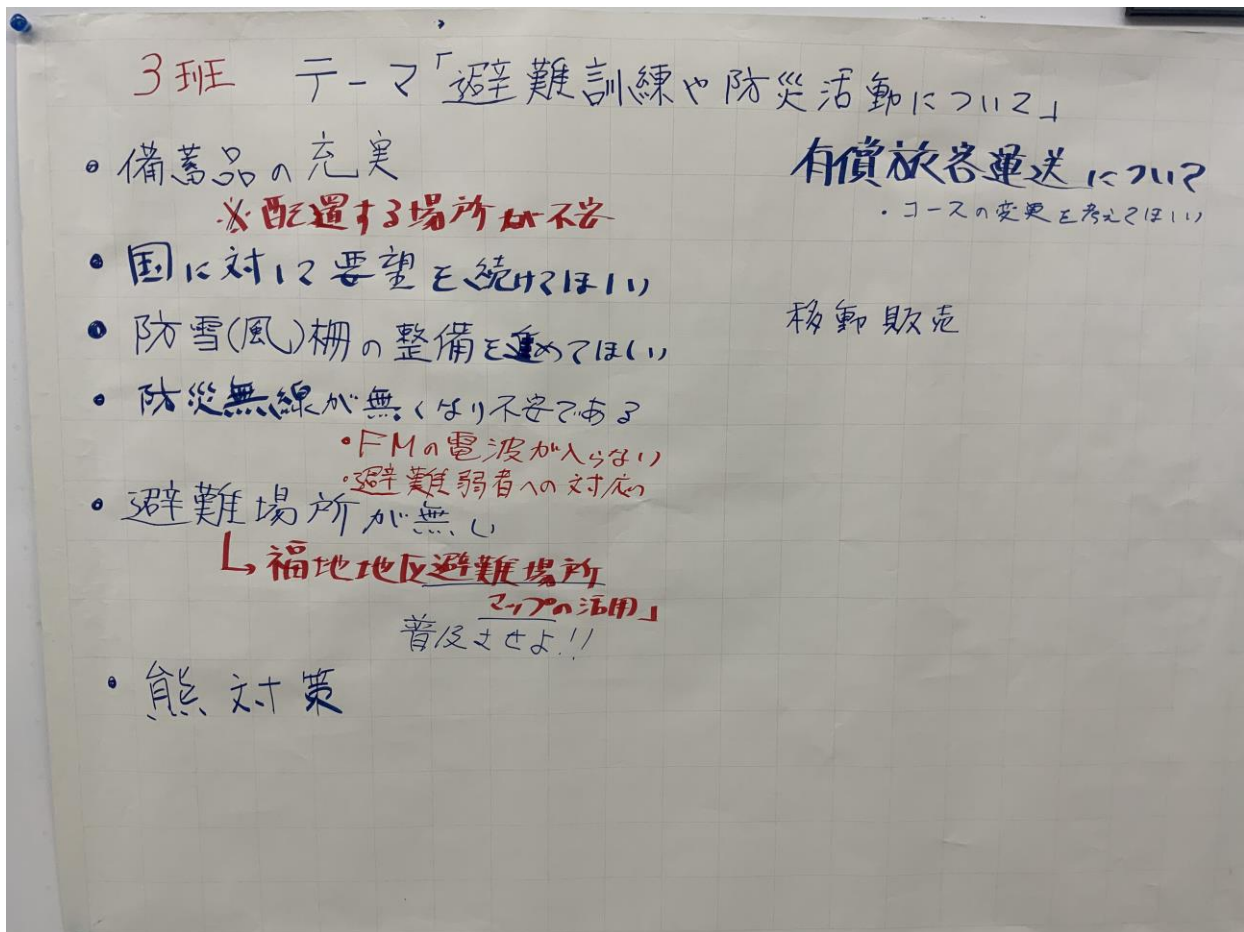
- ・ 備蓄品の充実 ※配置する場所が不安
- ・ 国に対して要望を続けてほしい
- ・ 防雪（風）柵の整備を進めてほしい
- ・ 防災無線が無くなり不安である→FMの電波が入らない。避難弱者への多雨王
- ・ 避難場所が無い→福地地区避難場所マップの活用。普及させよ！！
- ・ 熊対策

テーマ「買い物、通院など移動支援活動について」

- ・ 有償旅客運送について、コースの変更を考えてほしい
- ・ 移動販売

テーマ以外について

- ・ 熊対策



令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

3班代表 菅原 正志

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月14日（水） 18:30～ 19:48
2. 開催場所	館合地区交流センター
3. 出席議員	5人（菅原正志、鈴木勝雄、佐々木喜一、佐藤清春、寿松木孝）＋播磨議長
4. 参加人数	18人（市民：15人、職員：3人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・会場で押し花の展示会をやっており、そのパーテーションを活用して3グループに分かれることができた（逆に、若干密であった） ・常任委員会のテーマは不要ということで、第一部ではコロナ対策について市の対策や地域として意思統一したいとのことであった

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

【テーマに関すること】

○第1部テーマ「コロナ対策について」

[説明]

寿松木孝議員より説明

[質疑・意見]

- ・今回テーマとしたのは、コロナに感染した方が誹謗中傷を受け、大変な目に合っている。気の毒である。そういったことをなくすためにどうしたらよいか話し合いたかった
- ・近場でいつ発生してもおかしくない。感染した人も被害者であり、加害者ではない。見守るためにどうしたらよいか
- ・秋田市の例。高校生と中学生の子ども、退学した例もある。子どもは悪くない。なりたくてなっているわけではないというのが共通認識だと思うが、興味本位でバッシングするという集団心理が起きている悲しい事例である。気を付けなければならない、非常に難しい問題
- ・地域でケアしていく必要。議会としても気持ちを共有して対応したい
- ・まだまだ長く続く問題であり、それぞれが意識しながら考えていきたい

○第2部テーマ

- 1) 環境美化・地域づくり
- 2) 災害対策
- 3) 高齢者の足の確保

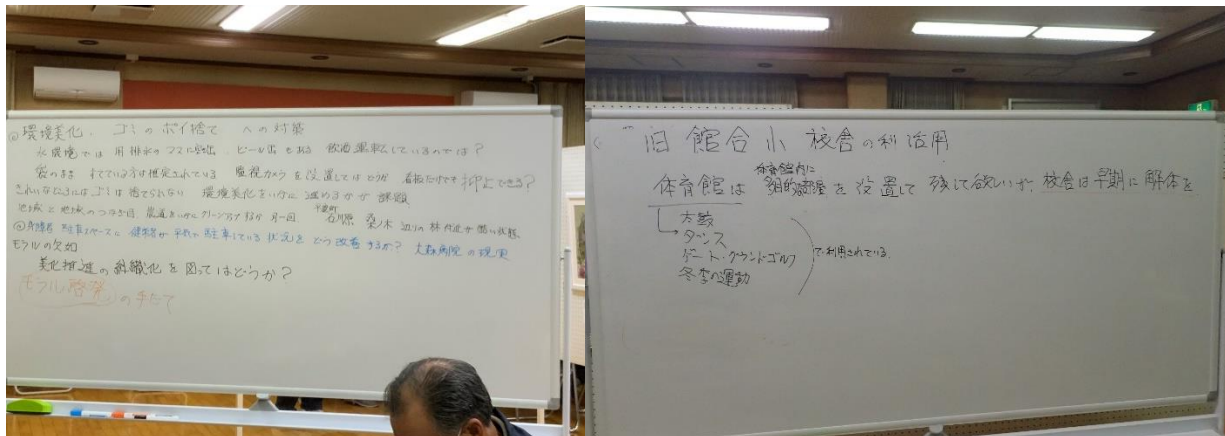
グループ①

1) 環境美化について（路肩のゴミ投棄等）

- ・地域で行動を起こすことが大事。それを市がいかにして後押しするか。館合地区単独ではなく、関係のある地区が連携して組織化を図ってはどうか
- ・ゴミ投棄の問題は、看板だけでなく監視カメラの設置も必要ではないか
- ・駐車場で身体障がい者用スペース利用のモラルの欠如問題が話題になった
- ・市民の皆さんにどうやって啓発していくか宿題をいただいた

まとめ ⇒ モラル啓発の手立てを！



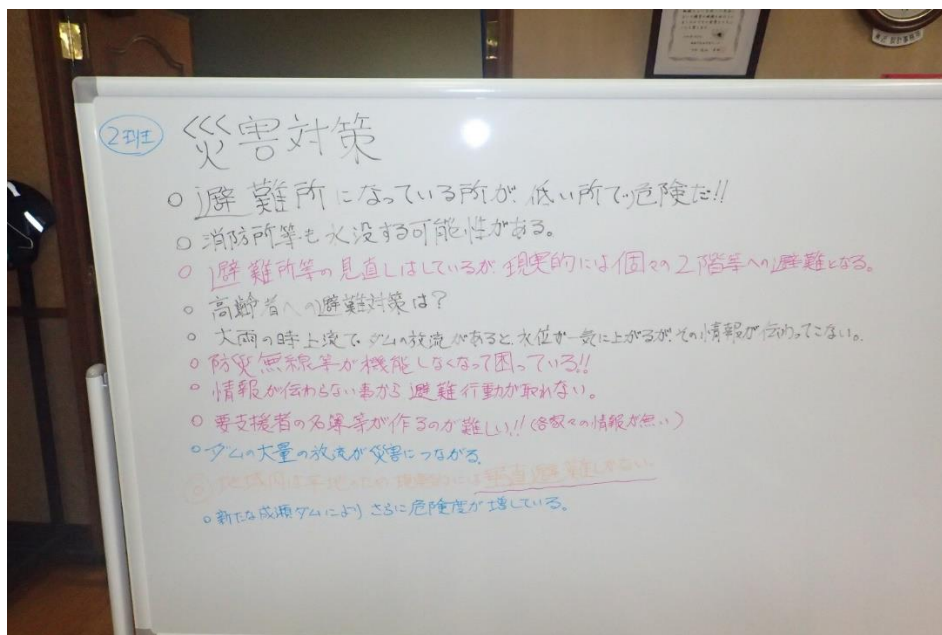


グループ②

2) 災害対策について

- ・第一に、地区交流センターが避難所になっているが低い場所であり、地域が浸水した際の避難所になり得る場所がないのでは
- ・消防署（分署）も場所的に水害にあう可能性がある。例えば、中の機器、燃料等、重要なものについては2階に設置しており、簡単には機能が失われなくなっているが、車両は水の中を走れな
- ・避難の形として、現実的には垂直避難しかない場合もある。平場では、一気に何メートルも水位が上がるわけではないため、水が引くまで時間をかせぐ必要
- ・問題になるのは、高齢者の対策。若い人と同居していればいいが単独世帯だと、自分で登れない状況も想定される。要支援者の名簿の作成が必要になると考える
- ・最も想定される災害は大雨であり、地域での問題は、ダム放流による水位の上昇。浸水の危険が非常に高まる中で、ダム情報の伝達が機能しなければ危険度がより高くなる
- ・防災無線がなくなることが決定している中で、防災ラジオでは代用にならない。情報伝達が十分でない中での避難の仕方、逃げ遅れが困る状況になるのではないか
- ・成瀬ダムが作られているが、ダム放流の問題が増え、水位がさらに増すことも想定される。相当注意して見守る必要があるし、迅速に情報を伝達する手段を確保してほしい
- ・その他
高齢者の足対策で、バスを使う身になると停車する場所の工夫があると、より使いやすくなる

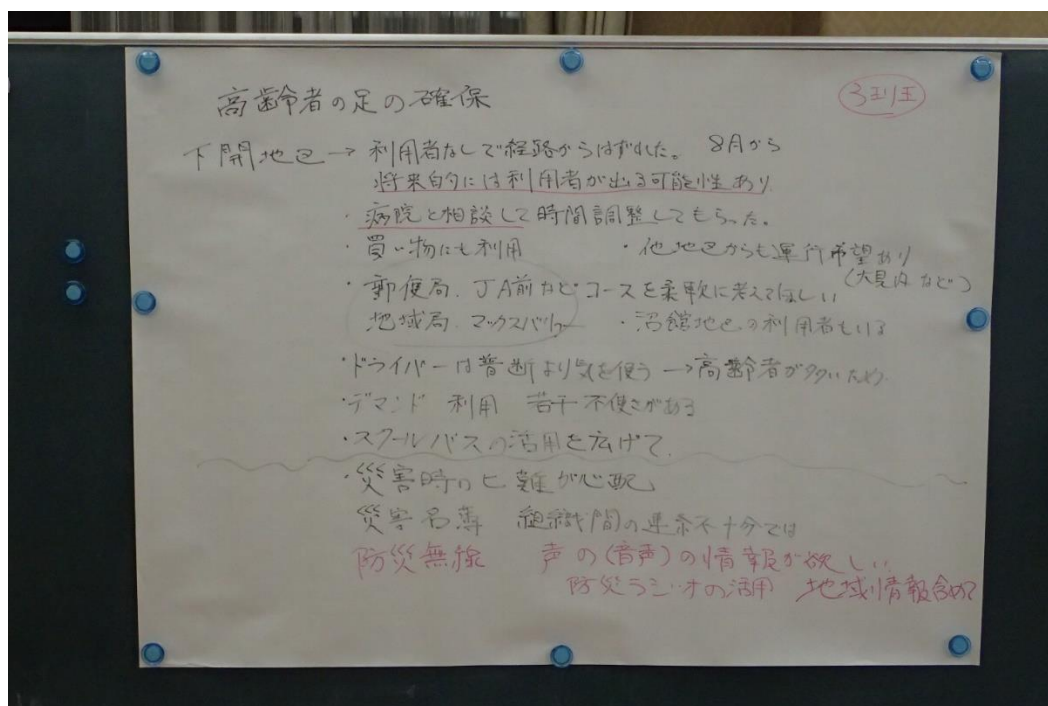




グループ③

3) 高齢者の足の確保

- ・スクールバスを活用した実証実験で8月から下開集落を通らなくなったが、将来的に利用希望があった時には対応してもらいたい
- ・大森病院側がバス利用者に対し、配慮して下さるのでありがたい
- ・大見内方面から要望あり
- ・ルートの見直しをしてほしい。例えば、JAおものがわ、雄物川郵便局、マックスバリュ等を経由する。また、行きと帰りのコースを変えるのも一方法ではないか
- ・デマンドを利用する場合、行きは良いが帰りの予約（特に病院利用）が難しい
- ・免許返納者の増加に伴い利用希望者が増えることが予想されるので、スクールバスの活用を幅広く考えて欲しい
- ・災害の場合の足の確保について、要支援者を誰がどういうルートで避難所に連れていくのか、集落内で確認しておく必要がある
- ・要支援者の名簿づくりについては、担当課と社協の連携が重要。民生委員だけでは無理があるので町内会等の協力が不可欠
- ・防災ラジオの広い活用を考えて欲しい。試験放送だけでなく、市民への情報伝達として活用する方法があるのではないか



【テーマ以外に関すること】

○旧館合小学校の利活用について

- ・ 基本的に校舎は早く解体していただき、危険がないようにしていただきたい。その後徐々に進めたい

令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

1 班代表 菅原 惠悦

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月15日（木） 18:00～ 20:00
2. 開催場所	大森コミュニティーセンター
3. 出席議員	6人（菅原 惠悦、小野正伸、立身万千子、佐藤 誠洋、奥山豊和、山形健二）
4. 参加人数	10人（ 市民：5人、職員：5人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（2グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<p>昨年は白山地区と合同で開催したが、今回は大森地域単独での開催となった。</p> <p>（事前打ち合わせ内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度開催した時の意見（要望）に対する回答が欲しい ・議会だよりを持ってきてほしい ・テニスコートやさくら荘の現状など、大森地区に関することをいろいろと聞きたい <ul style="list-style-type: none"> ●大森地区の課題と思われることについてまとめておいた方がよい ●班内で情報共有をした方がよい <p>（改善点など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の要望に答えられるように、班内で打合せを行い、また、当日はさまざまな資料を準備して臨んだほか、議会報告でも地域の課題についてしっかりと報告したところもあり、事前に予測していたよりも落ち着いた雰囲気での意見交換を行うことができた。 ・机は教室式ではなく最初から車座にしておいたほうがよかったかもしれない。

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

グループ① 進行：菅原恵悦議員、小野正伸議員 記録：山形健二議員テーマ「防災について」

- ・河川改修の順序が悪い。（上溝川の復旧工事に時間がかかった）
- ・防災の情報発信について、防災行政無線が無くなったらどうなるのか。
- ・防災ラジオは機能していないのではないかと。3年前の大雨の時、大森地区には放送されなかった。
- ・各地域の防災意識をどう高めていくのか、町内ごとにやらなければならない。
- ・大森小学校は、大雨の時は避難所として使えないのではないかと。以前断られている。子どもたちだけでなく、地域住民も受け入れてもらえるのか。
- ・河川の中の土砂改修（浚渫）が課題。土砂をどこに持っていけば良いのか。やりとりの窓口を一本化してほしい。

テーマ「間口除雪について」

- ・除雪と排雪のトラックと一緒に動いてほしい。
- ・消雪パイプやロードヒーティングも現実的ではない。こまめに除雪排雪するしかない。
- ・よこて fun 通信で横手の雪の事情も伝えてほしい。東京にしながら実家の雪寄せをしている人や、地元で空き家などを見守ってくれている人がいる。
- ・融雪溝の水を確保してほしい。今は水が少なくほとんど流れていない。現在ポンプが1台でせめてもう1台稼働させれば。ポンプと井戸が必要。
- ・屋根の上の雪を公道にしか落とせない人もいる。一斉雪下ろしの日には作れないか。雪下ろしのために公道にトラックを止めると誘導員が必要。

テーマ「その他」

- ・北都銀行大森支店の閉店に伴い設置された、地域局前のATMが使いづらい。屋根のない外で待たなくてはならず、階段に手すりがなくバリアフリーでない。通帳の繰越や小銭の扱いがない。
- ・今まであったものがなくなると不便を感じる。
- ・議会（決算）関係資料（主要な施策の成果を説明する書類など）も議会HPに掲載してほしい。

まとめ

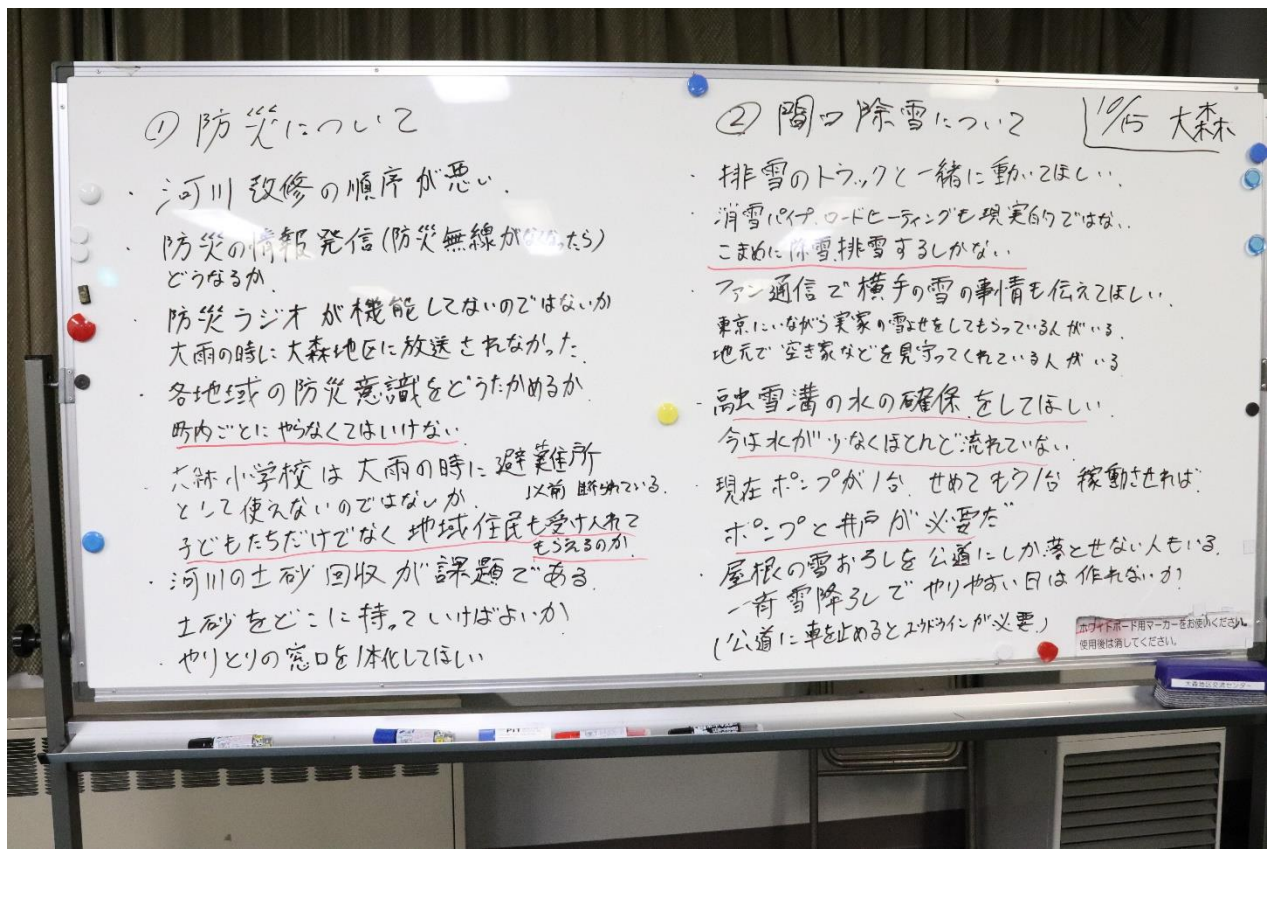
防災について。今使っている防災無線が無くなったらどうなるのかという不安の声があった。防災ラジオは3年前の大雨の際、大森地区では放送されておらず、災害時に機能しないのであれば大変なこと。今後、防災ラジオや安心安全メール等でどうやって対応していくのが課題。地域ごとの防災意識をどうやって高めていくためには、全体へアナウンスしたところで伝わらないので、町内ごとの小さい単位で話し合いをしていくことが重要。大森小学校は、大雨に対応した避難所になっていないのではないかと。小学校は子ども達優先で地域住民は受け入れてもらえるの

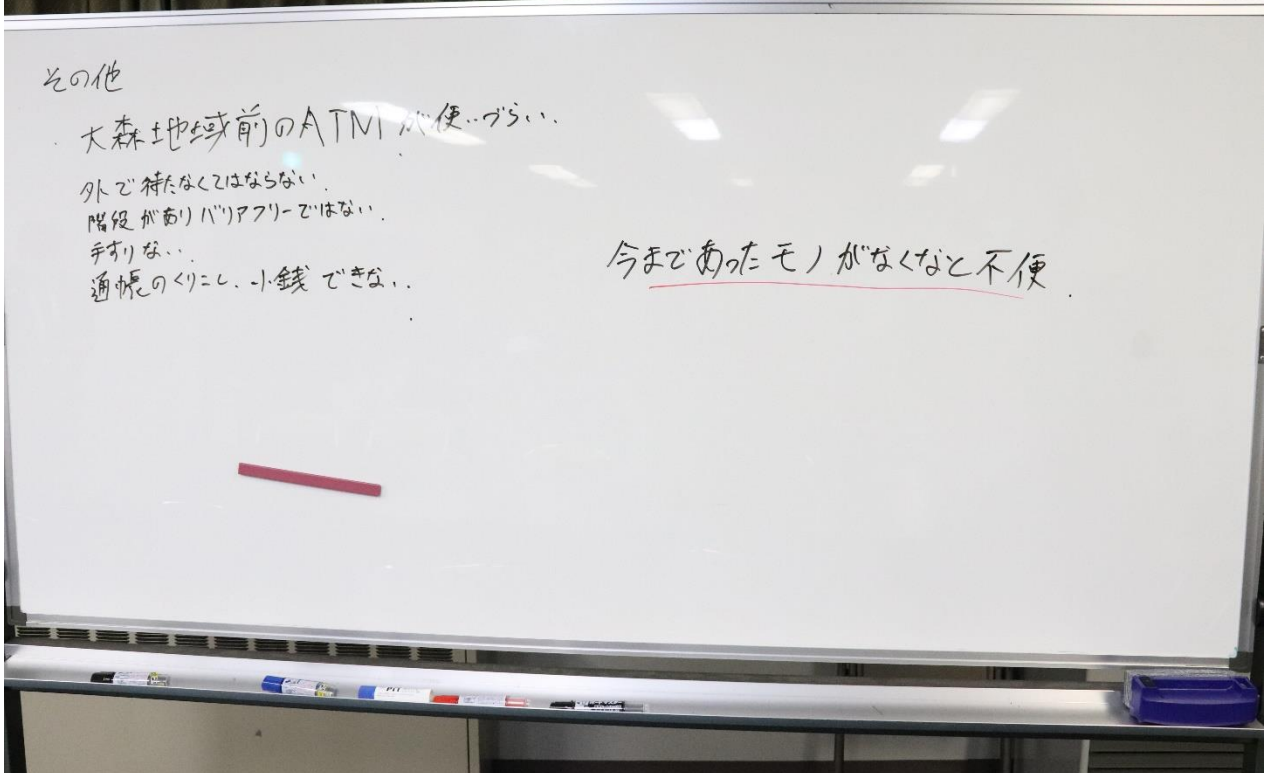
か不安がある。災害区分ごとに避難できる施設が異なるが、住民はそれを理解できていないのではないか。河川の中に溜まっている土砂の改修をきちんとしなければ、また同じことが繰り返される。土砂をどこに運んだらいいかわからないという子もあるので、行政は窓口を一本化にしてもらいたい。

間口除雪について。希望として、除雪車は排雪のトラックと常に一緒に動いてほしい。全てに消雪パイプやロードヒーティングを整備するのは現実的ではないので、こまめに除雪排雪をしていくしかないが、それができていないので皆さん苦勞している。他の方法としては流雪溝の水を確保してほしい。今は水がほとんど流れておらず、現状はポンプ1台で地下水を汲み上げているが、ポンプを増やす方法もあるのではないか。屋根の雪下ろしをする際、公道に誘導員をつけなければならないので、市で一斉雪下ろしの日をつくれれば、誘導員を置かずに進むのではないか。

その他。北都銀行大森支店が閉店したことにより、ATMが地域局局前に設置されたが使いづらいう意見があった。雨の日も外で待たなくてはならず、階段があつて手すりもなく、バリアフリーになっておらず危ない。通帳の繰越や小銭の扱いができないので不便。

今まであったものが無くなっていくのは今後もあると思う。そのような時、どう対策をしていくのが市として大きな課題になるのではないか。





グループ② 進行：立身万千子議員、佐藤誠洋議員 記録：山形健二議員テーマ「大森地区の課題について」

- ・大森病院の夕暮れ診療が無くなるという噂がある（今はコロナ禍で休んでいるが）。利用しやすいので無くされると困る。
 - ・国の病院再編方針について、他県はどのような動きをしているのか。市内に3つの病院があることは恵まれている。3つが2つにならなければ良いが。
 - ・さくら荘の存続を。
 - ・大森球場の有効活用を。小中学校の練習や大会で使用しているが、高校生の大会でも使えるようにしてほしい。外野のフェンスなどが痛んできている。
- 大森テニスコートの完成後、せっかくの施設を広く長く多くの世代に活用してもらえそうなアピールを。リゾート村の行事と合わせた活用を。

テーマ「防災について」

- ・高齢者一人暮らしの避難が課題。29年大雨の際、行政からの連絡が伝わっていない。大森地域局では、冬前に保健師や民生委員と一緒に高齢者宅を訪問している。
- ・避難する方法、手段について、誰がどう協力するか課題。
- ・29年大雨の際、大森コミュニティセンターに200名避難した。近くに庁舎があるので情報が逐一入ってきたが、避難所のハードソフト両面のケアが必要。バリアフリーになっているか（大森コミセンは入り口が階段になっている）。和室だと膝が痛くて長時間座ってられない。冷房がない。これまでは、避難所の環境まで想定していなかったのではないか。
- ・今後、「自助」ができない人が増えていく。支え合う余裕がなく、避難指示が出ても一人では動けない。
- ・地域でどこが安全な場所なのかを共有しておく必要がある。29年大雨の際、避難所（大森コミセン）まで来られなかった人もいる。（その後、マイタイムラインの訓練を実施）
- ・29年大雨の際、浸水地域では石油ボイラーが全部だめになった。市の助成手続きが非常に煩雑だった。住民にとって生活再建は急務で、被災者にはストレスもある。手続きは簡素化するべき。

テーマ「除雪について」

- ・シルバー人材への委託に対し助成しているが、人手不足。近所で助け合って間口除雪をしているケースがあるが、今後いつまで続けていけるのか、誰がそれをやるのか。
 - ・「除雪懇談会」の取り組みや地域づくり活動補助金の活用、市内の共助組織の事例などを取りまとめて市民に対し示してもらえたら、自分たちの地域にあったやり方の参考にできる。一から立ち上げようとしてもどうしたらいいのかイメージがわからない。
 - ・大森街部の融雪溝は、融けるのに時間がかかる。
- 早朝除雪について、最初に通ったルート左側は当然雪が多く残される。例えば1週間ごとに逆回りや別のルートにするなど平等にできないのか。いつもそれで問題になっている。

テーマ「その他」

- ・議員の多様性について。湯沢市議会では女性議員がないことが新聞で話題になっていた。横手市ももっと増えてほしい。
- ・能代市役所では、窓口での死亡手続きをワンストップで行うことが報道されていた。横手市でも検討してほしい。

まとめ

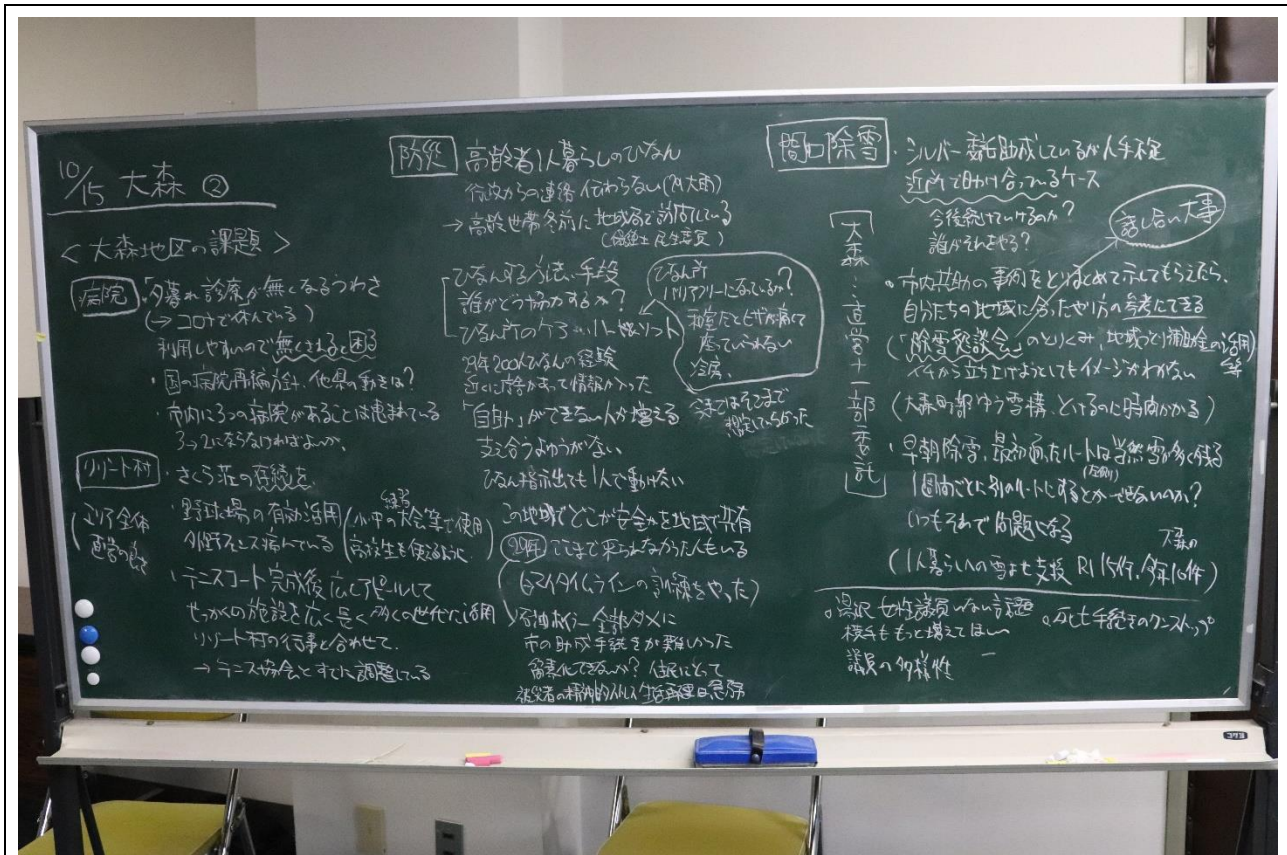
大森病院の夕暮れ診療がなくなるという噂があり、なくされると困る。仕事が終わった後に利用できるというのは大森病院の特徴であり良さでもある。

大森リゾート村は、核となるさくら荘の存続をお願いしたい。野球場は、高校生の試合ができるように修繕してほしい。テニスコートもせっかくいいものができるので、広く長く多くの世代に活用してもらえるようにアピールしてほしい。リゾート村の行事と合わせて広く有効活用してほしい。

防災について。高齢者の一人暮らしが増えてきているが、避難の連絡が十分に伝わっていない。大森地域局としては、毎年冬前に高齢者宅へ、民生委員や保健師と戸別訪問を行っているようだ。避難所のバリアフリー化や感染症対策など、ハードとソフト両面のケアがしっかりなされているのか。和室は寝転がることができるが、膝が痛くて座っているのが辛い。和室用の椅子や冷房、トイレの洋式化など、避難所をきちんと整備してほしい。避難所体制を良くしようというのは今まであまり想定されていなかったこと。教訓とて対応すべき。大森コミュニティセンターは、3年前の大雨の際200人が避難した。庁舎の隣で情報がタイムリー入ってきたが、入口が階段になっている。自助・共助・公助というが、高齢により自助ができない、支え合う余裕がない、避難指示が出ても一人で動けない人が増えてきている。実際に3年前の大雨の際、避難できなかった人も多かったようだ。地域でどこに避難することが安全なのかを事前に共有しておかなければならない。29年大雨の際、浸水した各家庭のボイラーが駄目になり、市の助成申請手続きが煩雑だった。被災者は精神的ストレスがあるし生活再建を早くしなければならないので、手続きはできるだけ簡素化していくことが必須。

間口除雪について。シルバー人材センターへ委託しているが、人手不足になってきている。近所での支え合いも、今後どこまで続けていけるのか、誰がそれをやっていくのが課題。共助組織で雪対策をしている事例や、冬前に地域の方が集まって雪の課題について話し合う「除雪懇談会」、地域づくり活動補助金を活用して除雪機械を共同購入するような、他地域で行っている良い取り組みを広く市民全体にお知らせして共有することで、自分たちの地域にあったやり方の参考にすることができる。一から立ち上げようとしても、イメージが湧かない。早朝除雪は、いつも決まったルートで、最初に通ったところの雪が多く残る。例えば一週間ごとに逆周りにするなどの配慮が必要ではないか。

その他、湯沢市は女性議員がないという新聞報道があった。横手市議会ももっと増えて欲しい。能代市では、死亡手続きが一つの窓口でワンストップでできるという報道があった。行政サービスとして横手市でやれないということはないと思う。



令和2年10月28日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

4班代表 塩田 勉

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月15日（木） 18:30～ 20:45
2. 開催場所	十文字庁舎
3. 出席議員	6人（塩田勉、木村清貴、加藤勝義、本間利博、青山豊、菅原亀代嗣）
4. 参加人数	51人（市民：35人、職員：16人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（4グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が予想以上に多く1グループあたりの人数が非常に多くなってしまった。 ・広めの会場だったが、人数が多すぎてうるさくなりすぎ、3会議室に分かれて実施した。 ・3グループ以上になる場合の事も考える必要があると思った。 

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

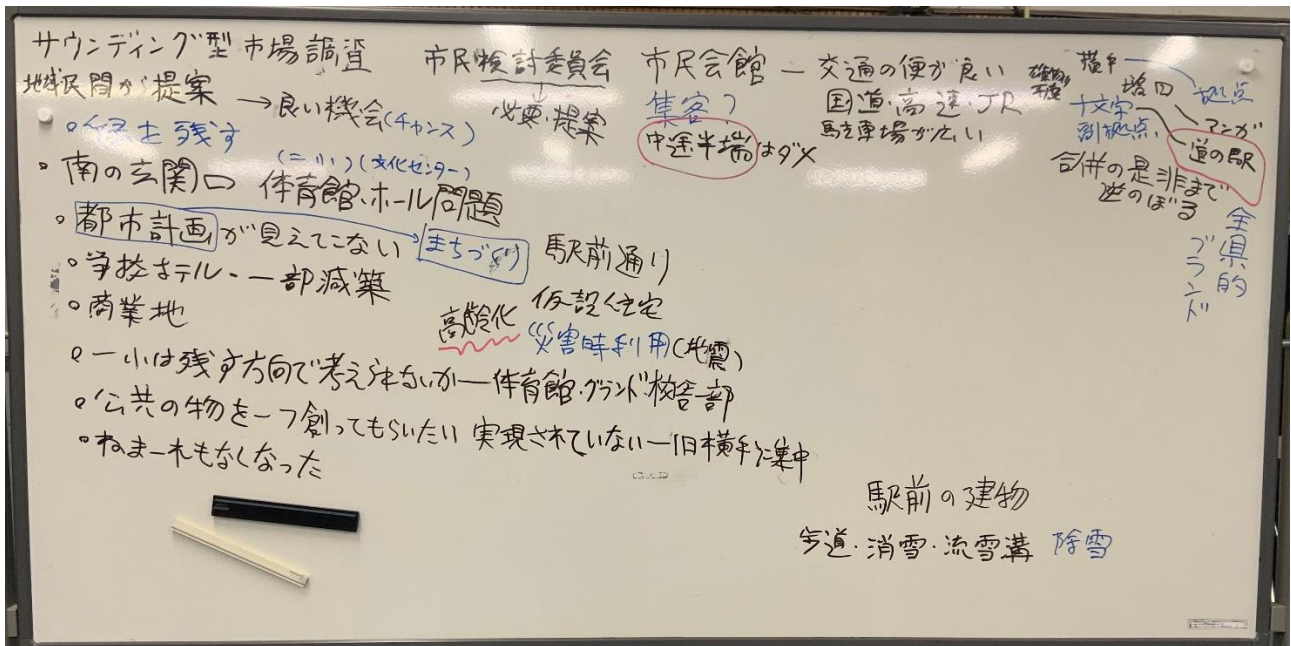
【テーマに関すること】

共通テーマ：

十文字4小学校の閉校後の跡地利用と、十文字地域多目的総合施設整備に伴う十文字庁舎周辺の一体的な利活用について

グループ① 十文字地区①

- サウンディング型市場調査については、先日の地元説明会に参加した人は分かっているが、参加していない人は全然分からないという状態である。
- 今回のサウンディング型市場調査は逆に言えば地域や民間の提案を示す良い機会（チャンス）である。
- 十文字では市民検討委員会があり、その中では市民会館が良いのではないかという意見が出た。十文字は交通の便が良い（国道・高速・JR等）。跡地利用を考えると新規に土地を購入しなくても良いし、駐車場も広くとれるなど利点がある。東にまんが館のある増田、西に平鹿、雄物川、北に横手、南に湯沢が位置し立地条件が非常に良い。横手が拠点であるのに対して十文字は副拠点ということで立地適正化計画でも位置付けられている。十文字には道の駅があり全県的にも有名で非常にブランド力が高い。
- 小学校跡地はせっかく樹木があるので、緑を残すような計画はどうか。
- 十文字は南の玄関口である。
- 体育館は二小の体育館を使って欲しいとか、文化センターのホール機能は新しい庁舎のホールで十分なのか。いずれにしても中途半端である。
- もし市民会館を作るのであれば集客も含めて中途半端なものではだめだ。
- 立地適正化計画は分かるが都市計画が見えてこない。どういうまちづくりをしたいのか。例えば合併協議会の時は駅前通りの道路をしっかりとやらせてもらうという計画もあったが全然進んでいない。
- 廃校舎を学校ホテルに出来ないか。全て使えないのであれば一部壊してテニスコートなども良いのではないか。
- 商業地として何か建物を建てるのが良いのではないか。
- 学校そのものを残す方向で考えられないか。体育館、グラウンドは使い方がある。校舎もサークルなどで使えるのではないか。
- 学校は災害時、特に地震の時の避難所に使えるのではないか。ますます高齢化していく中では避難所の位置付けは非常に大切だ。また、仮設住宅としても使えるのではないか。
- 民間ではなく公共の物を一つ作って欲しい。何一つ十文字としては実現されていない。旧横手市に集中している。ねまーれも無くなった。
- 駅前にも建物が欲しい。

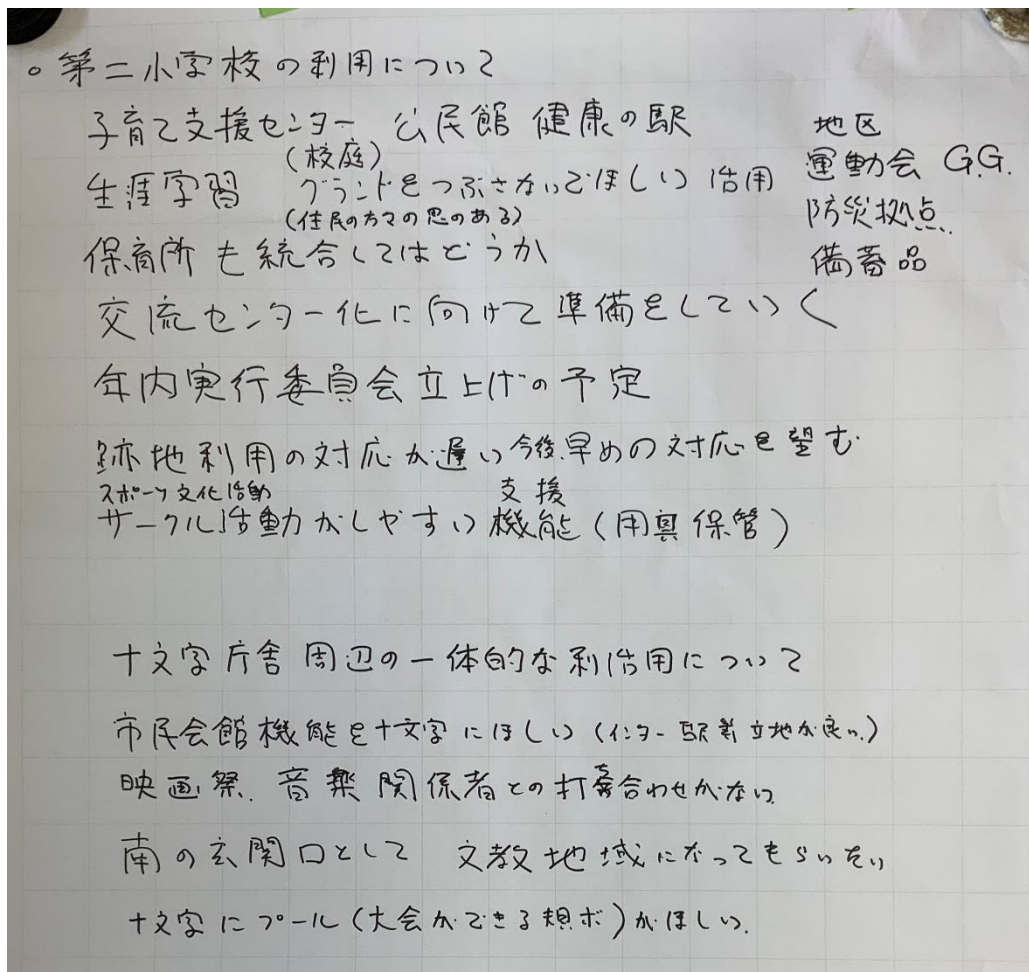


グループ② 三重地域

- 第二小学校の利用については既に行政からも情報が出ているように、一階は公民館、子育て支援センター、二階が健康の駅を想定しているそうなので、あとは具体的にどう活用していくかという話になっているとのこと。
- 地区の運動会をずっと継続して行って来た経緯がある。グラウンドを是非残して欲しい。
- 第二小学校は防災の拠点であったり、備蓄品の倉庫であったりというような機能が必要だと考えているようだ。今検討されている保育所も隣接したところに計画が出ているという話があった。
- 小学校跡地の再利用を考える上で、交流センター化は避けて通れない問題。実行委員会を年内に立ち上げて準備をしていく予定。
- 学校統合が決まっている中で、今更跡地のことを話をするというのは遅いのではないかと今後

の進め方について、行政には早めの対応、早めの説明を望む。

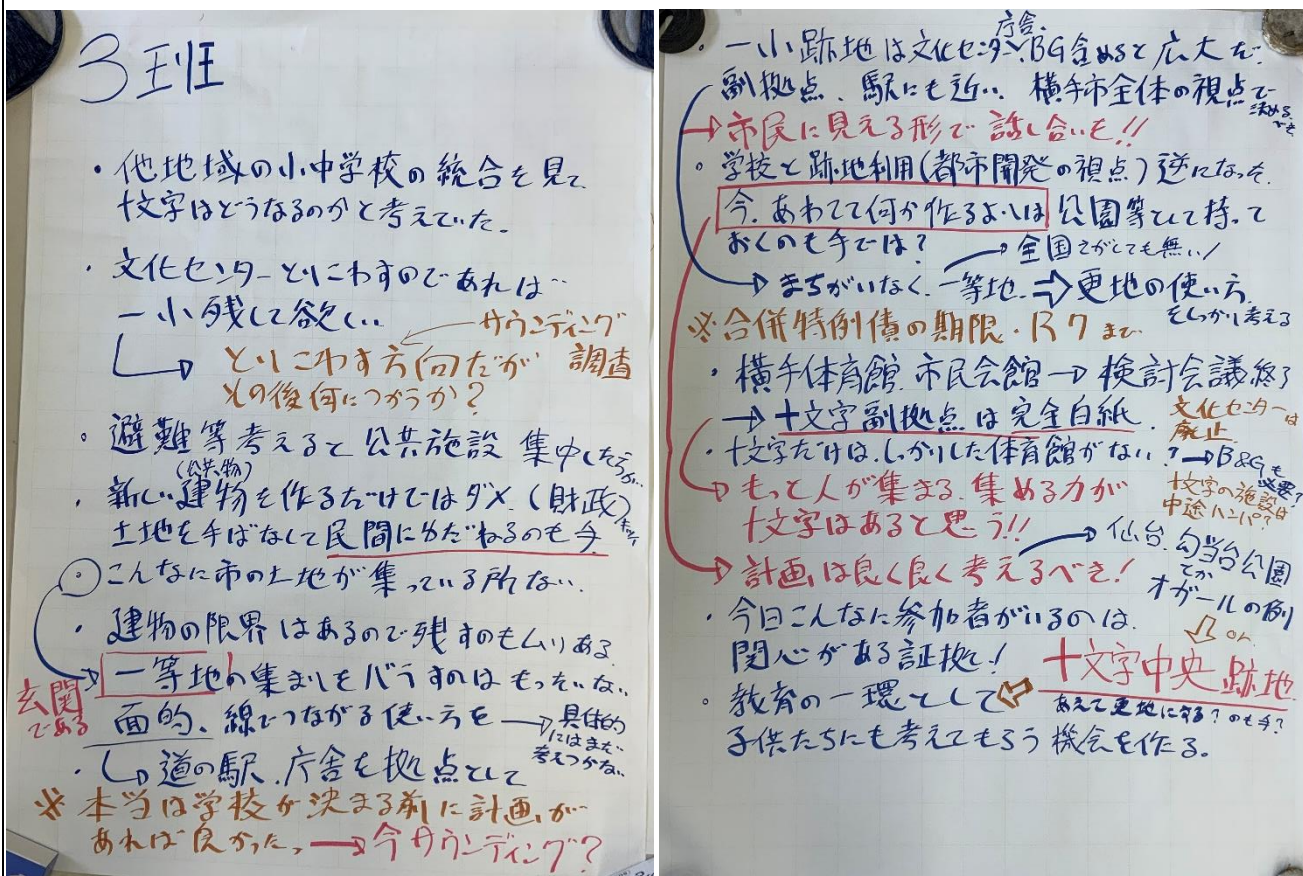
- 新しい施設に望む機能としてスポーツ、文化活動、サークル活動がしやすい機能、支援を望む（例えば用具の保管とか）。
- 十文字庁舎周辺の一体的な利活用について、映画祭、ホールとしての利用が非常に多い。市民会館の機能を十文字に作って欲しい。十文字の立地良いし、跡地の広さも多くとれる。
- 横手市の南の玄関口として、文教地域になってもらいたい。そういったまちづくりをして欲しい。
- 横手市内にプールが無い。十文字に大会が出来る規模のプールが欲しい。



グループ③ 十文字地域②

- できれば小学校校舎を残して欲しい。
- 災害時の避難所としてどこか利用できないか。
- 市の財政を考えると、民間の力を借りて分譲住宅地にしても良いのではないか。
- 跡地は非常に広大であり、しかも十文字の一等地でもある。バラバラに分譲するのは賛成できない。

- 今なぜサウンディング調査になるのか。最初に跡地利用計画があつてからの小学校移転でなければおかしかったのではないか。
- 駅、インター含めて非常に立地が良い。横手市全体の南の玄関口であるから、もう少しじっくりみんなで考えた方が良くはないか。あまり慌てて何かを作るというような話ではなく、将来的に横手市全体の視点で考えて、横手市の南の玄関口としての開発をどう進めるべきかをじっくり考えたほうが良い。（同様の意見が多くあり）
- 中学生に意見を聞いてみたらどうか。将来の自分のまちをどうしたいか、どういうことを夢見ているか。
- 十文字の「中央跡地」という考え方。十文字には人が集まる、集める力があるということを考えて、じっくり計画を作って欲しい。仙台の勾当台公園やオガールのような他市の例も参考にしながら考えて欲しい。
- B&Gが非常に老朽化しており、体育館が欲しい。卓球場も非常に老朽化しており、あわせて考えるべきではないか。
- 逆に、この広大な跡地を更地にするチャンス。どうやって新しいものを作り上げていくか、そのためにも一度リセットするチャンスという捉え方。



グループ④ 植田・睦合地域

【睦合小の跡地利用】

- 解体してもいい。グラウンドは不要。更地にしても良い。西中のグラウンドもある。
- 耐用、耐震はまだ大丈夫。
- グラウンドはあった方が良く。運動会も行っている。
- 柳の木は地域のシンボル。残して欲しい。
- 体育館と特別教室（音楽室）は比較的新しい。お年寄りの居場所、憩いの場になるように残して欲しい。
- 維持管理は共同の力でやらなければいけない。しかしそれではやり切れないと思うのでサポートも頂きたい。
- お茶のみ、図書、音楽鑑賞などの場として残して欲しい。そういうことについてアンケートを取って集約する予定。
- 地域では交流センターまつりというものが行われており、やはり人との触れ合いは大事。ハードよりソフト面の強化が大事になる。
- 市でも維持費を出してくれないものか。
- 共生が大事。

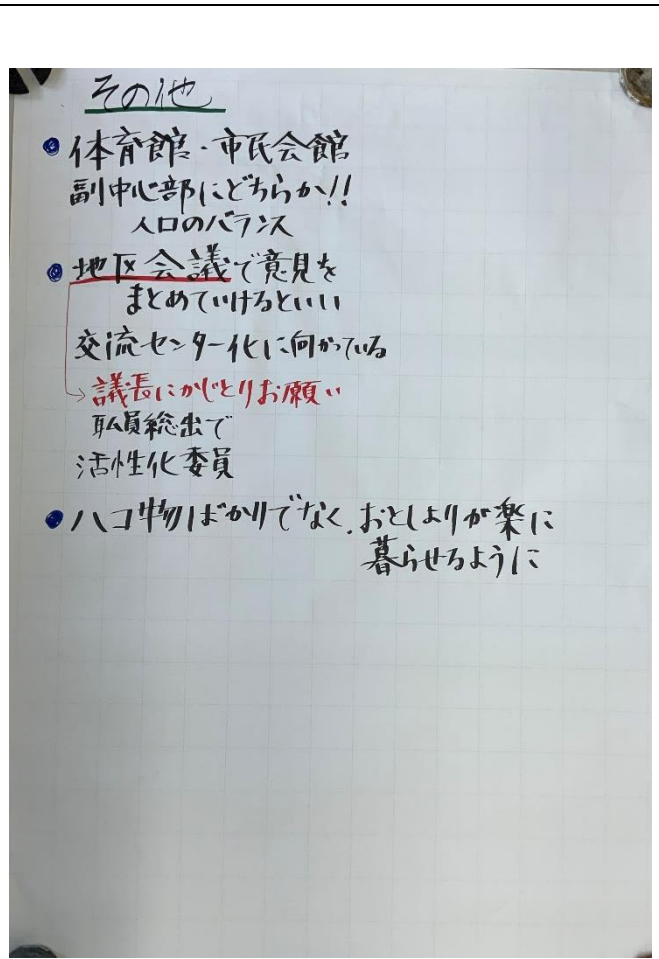
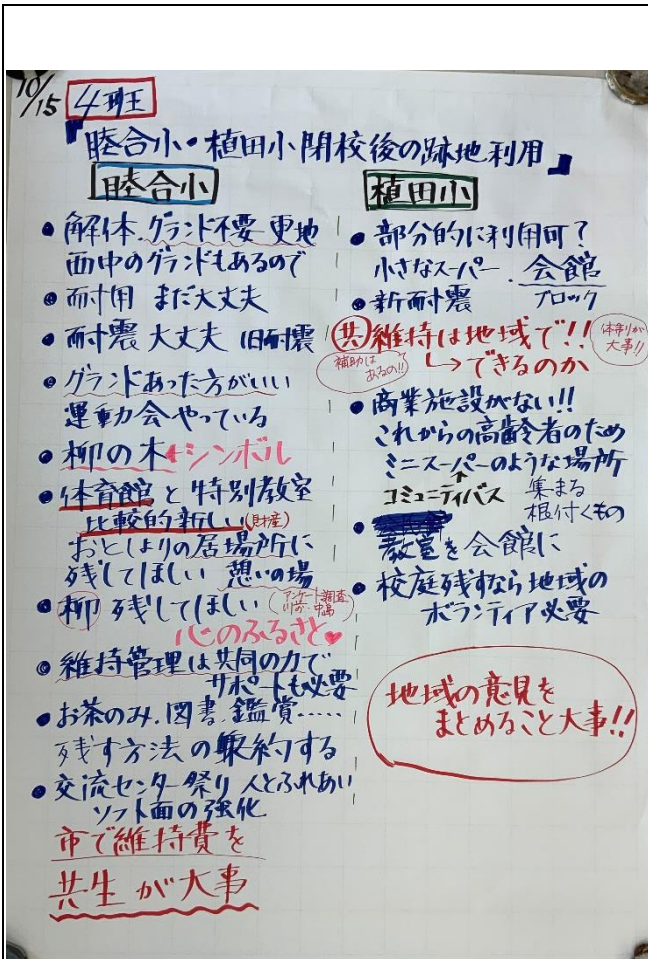
【植田小の跡地利用】

- 部分的に利用可能と考える。例えば地域に商業施設が無いので小さなスーパーのようなものを作ったらどうか。そこに行くためのコミュニティバスがあれば良い。
- 維持は地域でできるのか。補助はあるのか。
- 教室を各会館にしたらどうか。
- 校庭を残すなら地域のボランティアが必要。
- 地域の意見をまとめていくことが大事である。

【その他】

- 横手市はこれから体育館、市民会館を作る計画がある。人口のバランスを考えてどちらかを副拠点である十文字に作るべきだ。（賛成者多数）
- 地区会議が大事。意見をちゃんとまとめていけると良い。交流センター化に向かっている。議長にしっかりとかじ取りをお願いしたい。地区の職員も総出でやってくれている。活性化委員という方もおり協力してくれている。
- 箱物ばかりでなく、お年寄りが楽に暮らせるようにしていきたい。





【テーマ以外に関すること】

・ 十文字地区の将来について、中学生と意見交換してはどうかという意見については、是非実現に向けて広聴分科会で検討して欲しい。

令和2年10月28日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

4班代表 塩田 勉

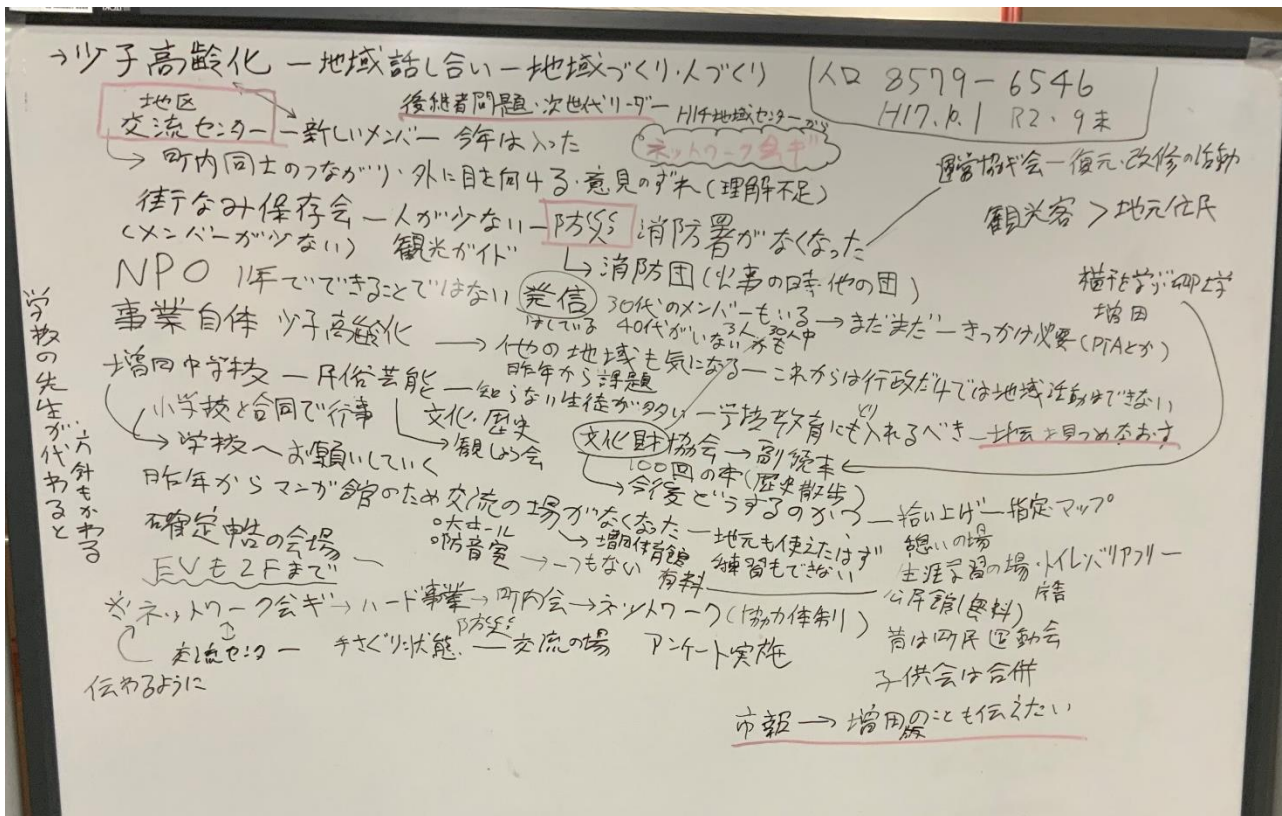
第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月16日（金） 18:30～ 20:50
2. 開催場所	増田地区多目的研修センター
3. 出席議員	6人（塩田勉、木村清貴、加藤勝義、本間利博、青山豊、菅原亀代嗣）
4. 参加人数	32人（市民：26人、職員：6人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（4グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課が調整役となって、各地区会議からの参加者を人数調整してくれたおかげで、4グループちょうど良い感じで分かれることができた。 ・反面、広く参加者を募るという意味では、自由参加でない、制限があるというのはどうだろうかとも思った。 ・4地区合同というのも一つの手だが、個別にやる良さもあると思った。 ・各センターが日頃非常に良く機能していることが分かるくらいに、地元の問題についての意識が高かった。 ・交流センター関連の以外の人をどうやって議会報告会に参加させるかが課題だと言っていた人がいた。

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容
<p>【テーマに関すること】※4地区の課題をそれぞれ設定</p> <p>グループ① 増田地区</p> <p>テーマ：地域づくりと人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 少子高齢化に伴い、地域の話し合いの場も少なくなっている。平成17年に8,579人いた人口が令和2年9月では6,546人になっている。 ■ 地区交流センターとして地域づくり人づくりという考え方を推し進める中で、なかなか新しいメンバーが入らない。ただ今年は数名入ってくれた。 ■ 町内会同士のつながりというのはなかなかできない。またそこに目を向けていない現状がある。意見のずれや、理解不足からくる意見のずれもある。これを打破するためにネットワーク会議を作っている。これはハード事業をやるために町内会を集めて協力体制を作って、これと地区交流センターとタイアップし交流センターの事業がネットワーク会議に伝わるようなつながりを持とうとしている。 ■ まちなみ保存会も人が少ない、メンバーが少ない。観光ガイドもやっているけれどもなかなか難しくなっている。 ■ 防災についても消防署は増田から無くなってしまった。この前の火事の時も地元の消防団ではなく違う消防団が来られたりしていて問題がある。 ■ NPOの活動もやっているがなかなか1～2年ではできることではない。発信はしているが実を結んでいない。 ■ 交流センターの中には若い人もいて、30人中、30代のメンバーが3人くらいいる。ただ中抜けしていて40代がいない。入るきっかけづくりが大事だと思う。PTAだとか、そういうところからも募っていく必要があるのではないか。 ■ 交流センター事業自体も少子高齢化になっている。他の地区交流センターはどうなっているのかなど、去年からの課題だが、なかなか見に行けてはいない状況。これからは行政だけではなく、地域活動は地域でというような方向性ができるので非常に大切。 ■ 学校との連携について、今年民俗芸能の関係で増田中学校と連携したが、民俗芸能について知らない生徒が多かった。学校の授業の中で取り上げるべきではないか。今年は鑑賞会を行った。 ■ 横手を学ぶ郷土学というものを横手全体で冊子で出しているが、増田地域独自の物を勉強していただいた方が良いのではないか。増田歴史散歩も出ており、こういったものを学校の副読本として活用してはどうか。 ■ 学校は先生がかわると方針が変わることも問題ではないか。 ■ 昨年からの課題だがまんが館のために交流の場がなくなってしまった。もともと地元でまんが館の大ホールが使えるといったような約束ではなかったのか。 ■ 昔は町民運動会や子ども会などで地域のつながりがあったが、今は少子になってきているので子ども会は隣部落と合併したりなどがあり、子ども会の中でのネットワークというのはなかなか難しい。

■ 市報について、是非増田のことも伝えるような取り組みが欲しい。



グループ② 西成瀬地区

テーマ：過疎化の進行による後継者問題

- 10年前と比べ世帯数で 290 軒から 255 軒 (▲12%)、住民数で 987 人から 680 人 (▲31%)。
- 若者が少ない。若者が少ないと地域の行事ができなくなる。
- 50代で若い方であるというのが現実。
- 多くの会で同じ人が役員になっている。
- 施設の老朽化が進行しており、将来への不安が非常に大きくなっている。
- 最低賃金が安い。若い人が就職しづらい。

- 子育てしやすいように子育て支援の充実を望む。
- 一人、二人世帯が非常に多くなってきている。
- 若い人は自分の生活でいっぱいになっている状況があるのではないか。
- 文化財保存への補助ができないか。（地区の神社の屋根の修理など）
- 兼業農家が多く後継者がいない。農政にも責任があるのではないか。
- 切実な話として、子どもたちがいないのでさびしい。
- 市町村合併によって地方が廃れている現状がある。ふるさと創生の考え方が必要ではないか。
- 就職先の確保や賃金の確保が必要。
- 若い人たちが遊ぶところが少ないから、自分たちで作る工夫も必要ではないか。
- 増田のまんが館、蔵だけでなく西成瀬地区にも観光資源がたくさんあるので観光行政として資源を生かす工夫をしていただきたい。
- 自然を生かした移住を促進することも必要。
- 若い人を巻き込んだ全体の話し合いが必要。

西成瀬地区「過疎化の進行に伴う後継者問題」について

10年前と比べ	世帯数	290 → 255 (-12%)	対応策は？
	住民数	987 → 680 (-31%)	

若者が少ない
若い人がいないと行事ができなくなる
50代で若いほうである
多くの会と同じ人が役員になっている
設備が老朽化している
最低賃金が安い
子育て支援の充実も望む
一人二人世帯が多い
若い人は自分の生活でいっぱいになっている
文化財保存への補助（神社の屋根の修理）
兼業農家が多く後継者がいない
大勢に任せて農政
子供連が少なくなっているのがさびしい

要望
湯の尻考案の除雪
交流センター平等。使い方を自由にしたい（食費等）
菅生地区の橋の補修について
テレワークなど職場転換の確保

合併によって地方がすたれる。ふるさと創生が必要
就職先の確保 賃金の確保
遊ぶところを自ら造る
観光資源を生かす観光行政
移住を促進させる
若い人を巻き込んだ全体の話し合いが必要

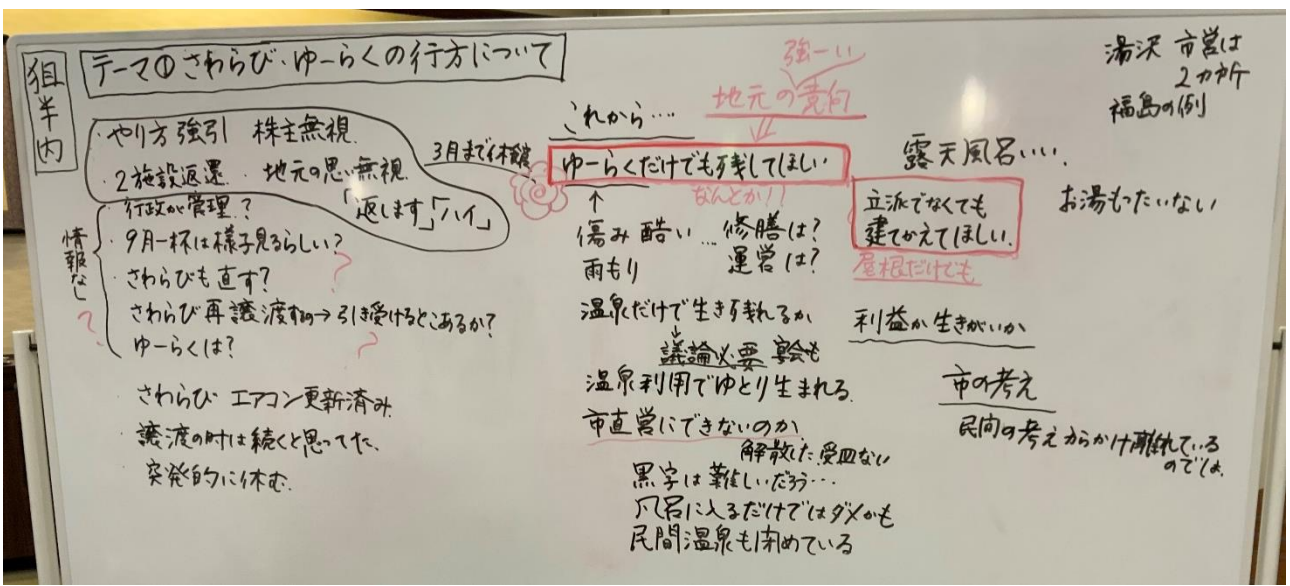


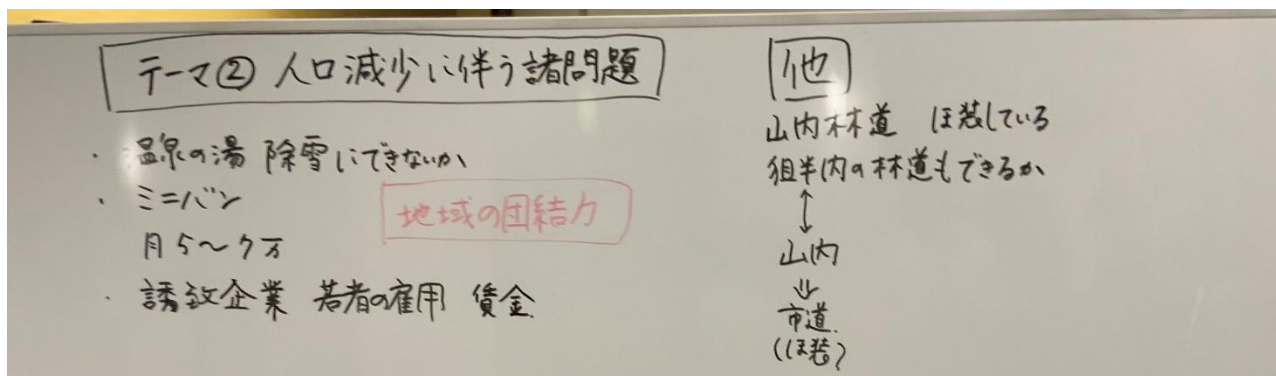
グループ③ 狙半内地域

テーマ：①さわらび・ゆーらくの行方について

②人口減少に伴う諸問題について過疎化の進行による後継者問題

- 公社の解散のやり方が強引であった。株主を無視していた。
- ただで譲渡したのに、「やれない、返します」になぜ「はい」と言えるのか。（お叱りを受けた）
- 地域局がさわらび、ゆーらくを管理している状態である。
- さわらびを将来的にどうするのかについては譲渡先を探すということになっているが、果たしてコロナ禍の中で引き受けてくれるところがあるのかどうか。これ以上情報が無い。
- ゆーらくだけでも残してもらいたい。地元の強い意向。
- ゆーらくは傷みがひどい。修繕はどうするのか。その後の運営はどうするのか。問題が多い。日帰り温泉だけで生き残れるのかという現実的な問題がある。温泉は宴会をやって宿泊をして利益を稼いでいる面が大きい。
- 地元としては温泉利用していることで住民の心のゆとりが生まれている。そういう部分も無視できないのではないか。
- 一部に市直営ではできないのかという話もあったが受け皿であった公社が解散しているので受け皿がない。単独で黒字化するのは難しいだろう。
- 風呂に入るだけではだめかもという意見もあった。民間温泉も閉めている。
- 立派でなくても良いから温泉施設を建て替えてもらえないか。
- 市の考えはそもそも民間の考えからかけ離れている部分がある。少し考えて欲しい。
- 温泉の湯を除雪に使えないか。
- 共助組織のミニバンは非常に良かった。利用客も多くなっている。月5～7万円。地域の団結力が大前提に合った。
- 誘致企業、若者の雇用、最低賃金の問題。





グループ④ 亀田地域

テーマ：雇用の確保 ※担い手研修部会で果樹の雇用に研究している。

- 廃園した樹園地が目立ってきたので何とかしたい。また、リンゴの摘果作業など、作業する方が不足している。この二点について解決策を考えている。
- 関係人口ならぬ関係雇用の考え。手伝いに来てもらう人は親戚縁者だったり、りんごのことが好きな人に頼んで、作業を手伝ってもらっているのが現状。
- すでの労働力が不足している状況にあるが、後継者の問題がある。若い人はいるが兼業では果樹の作業は無理である。専業農家も多いが、家族総出でかからないとこの作業は無理。
- 担い手研修部会では人任せではなく「自分事」として物事を考えていこうという取り決めをしたということだった。
- 現在アンケートを取っている。今後5年後に果樹園をやれるとかか辞めるとか、内容も見せていただいた。その背景には、ある日突然廃園する樹園地があること。情報さえあれば引き受け手がいたかもしれないのといった例が実際にあった。隣近所が実際に継続していけるのかどうかといった情報が全く入ってこないの、ある日突然木が切られるというようなことがある。廃園の情報と人とのマッチングが必要だろうという話があった。
- アンケートはまさしくそういった情報を得ようということで始まったとのこと。また亀田地区の中でもそれぞれ集落がある。しかし違う集落の情報というのはなかなか入ってこない。そう

いう情報も入れようということでアンケートを取っている。

- 情報を取った後、その窓口を一本化して情報を出してやる位置付けも必要だという話であった。
- 手伝ってもらっている人は縁故関係や友達などいっぱいいるが高齢化が進んでいる。自分でやれる範囲の樹園地、作業を逆算して、やれない部分はやめるしかないという現実もある。
- 果樹は機械化がなじまない。摘果作業や収穫は全て人力。
- 今おじいちゃんががんばっているが、おじいちゃんが居なくなった時が問題。
- 前はシルバー人材センターの窓口が増田にもあったので、増田で頼めば増田の人が来る状況だった。今は横手になったので増田の人が来てくれるとは限らない。
- 茨城から移住してきて果樹をやっている人が一人いる。この人の場合、手が回らなくなった果樹農家の一部を借りて行っている。
- 増田のリンゴ、樹園地のPRが必要ではないか。去年の自転車のツーリングは非常に良かった。
- 果樹に魅力がないことには移住者も来ない。観光課をしてはどうか。
- 増田は観光課の意識が低い。山形、福島辺りは積極的に観光農園をやっている。仮に増田でやったとしても、観光の方に人を取られてまた労働力が減っていく。そのため生産に集中したほうが手っ取り早い。観光化すると暇だれが起きてくる。
- 雇用をしていくには経営的な感覚で物事を考えていかなければならない。人材の育成が必要である。
- 樹園地で直売をしている人もおり、結構車が止っている。そこにトイレもあればさらに良いのではないか。施設を整備していくことも必要。
- アンケートについては5年後の農業を考える内容となっている。記名式だが無記名でもOK。労働、雇用、廃園の情報を集めるためにやっている。廃園する家で木を切ってしまうとおしまいだ。もう一回植えても20年かかる。
- 山形で労力的に非常に大変な山の傾斜地の樹園地を田んぼのような平場に樹園地を持ってくる場合に補助する事業がある。1割負担9割補助というもの。これは横手市には無い。これが移動改植というそうだ。これからの労働力不足、高齢化を考えると非常に重要になってくる。
- 地域の課題は『自分事化』して解決する試みをモットーとしている。行政頼みではなく、まずは自分たちの現状を把握して、どうすればこれから果樹を継続していけるかという話し合い（勉強会）を4回行った。講師にも来ていただき、勉強している。しかし最後には農家だけでは解決できないことも出てくるだろうと思う。
- 労働環境の改善も必要になってくる。例えば社会保険をかけて上げるとか、そういうことまで考えないといけないのではないか。
- （仮称）亀田地区園地維持対策チームというものを作り、情報収集、園地マッチング、雇用マッチング、社会保険等の事



務などを担えないか検討をしている。

亀田地域 **◎雇用の確保**について

☆果樹地帯であるが**廃園**が見えてきた。なんとかしたい。

担い手研修部会

- 関係人口ならぬ関係雇用の考え（労働力の確保）
- アンケートも実施中。今後、取りきりめ予定（期待大）
- 手伝ってもらっている人の**高齢化**。→園地を減らしてもいいか？
- ↳機械化できない作業が多い（摘果など）
- 今の労働力（おじいちゃん）がいなくなった時が問題
- 廃園の情報がない → 分つていれは引き受けたい例アリ
- シルバー人材が横手にいってしまった。（地元の人に来ない）
- 茨城から移住して来て果樹をやっている人がいる。
- 増田の人ご、樹園地のPR必要？ → 昨年の自転車良。た → ともいまだい
- 雇用の流動化には経営者の人が調整した方がいい

→ 後継者の問題

- 若い人はいるが兼業ではムリ。
- 専業も多いが、家族でかからない。

→ 廃園情報と人とのマッチング必要

- アンケートは情報収集の意味もアリ
- ↳ 他集落の情報も入る。

☆ **窓口を一本化**したい。

- 果樹に**魅力**がある
- ↳ しか増田では観光化の考え低い。観光化するに更に労働者が必要
- ともいまだい
- 樹園地で直売していれば車を止める人が多い → トイレもあれば

☆実施中のアンケートについて

- 5年後の農業の状況が見える内容
- 記名式だが無記名もOK。 ← ちかていまは20年!!
- ↳ 労働・雇用・廃園の情報を集める。
- 山形で山の傾斜地の園を平場に持つ事業やっていた
- 移転改植** ※平場に田人は少ない
- 地域の果題は“自分事化”で解決する試み
- ↳ 農家だけでは解決できない。
- 労働環境の改善が必要。 → **社会保険**など

◎ (仮)

→ **亀田地区園地維持対策4-1**

- ↳ ここが担えないか?
- 情報収集
- 園地マッチング
- 雇用マッチング
- 社会保障等の事務

【テーマ以外に関すること】

- 湯の沢歩道の除雪を要望する。
- 地区交流センター運営費（補助金）について非常に融通が利かなく、使いづらいとの意見あり。お葬式に交流センターとして花を上げることもできなかったとのこと。食糧費についても。
- 菅生地区の橋の補修についてどうなっているか返事が欲しい。（継続案件）
→調べて返事をするとう発言あり
- テレワークなどの職場機会の確保がもっとできないか。
- 狙半内から東成瀬に抜ける林道を舗装できないか。

令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

1 班代表 菅原 惠悦

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月17日（土）14：00～ 16：00
2. 開催場所	さかえ館
3. 出席議員	7人（菅原惠悦、立身万千子、小野正伸、佐藤誠洋、奥山豊和、山形健二） ※オブザーバーで播磨博一議長
4. 参加人数	20人（市民：17人、職員：3人）
5. 実施内容	(1) 議会報告：高齢者の足の確保について (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ） 人口減少に伴う諸問題について (少子高齢化、高齢者対策、空き家対策、農業対策)
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・栄地区は小学校区が混在している。さらに、地区によって家族構成、農業地域とそうでない地域などの生活様式が異なるため、参加者間でも問題意識が異なっているように感じた。安田・八王寺地区と栄小学校区の地区を分けて開催するなどの方が地域課題の掘り起こしができるように思った。 ・議会日より発行日以前に議会報告会を開催した地区では、開催周知が十分でなく、他地域からさかえ地区の議会報告会に参加した方が複数いた。他地域からの参加を拒むものではないが、地域課題を話し合う場として捉えると他地域からの参加があると、地域ではなく全市的な話題となるので、議会報告会の在り方としてこれでよいのかは一考の余地がある。 ・事前では参加者が少ないとの予想だったが、実際には昨年と同等の参加があり、結局3班体制での実施となった。最初から3班体制で準備しておいた方がよい。 ・和室での開催は高齢者には立ったり座ったりが辛いとの参加者からの声があった。ただし、この会場でこの規模の会を行うとすれば和室で行うしかないが…

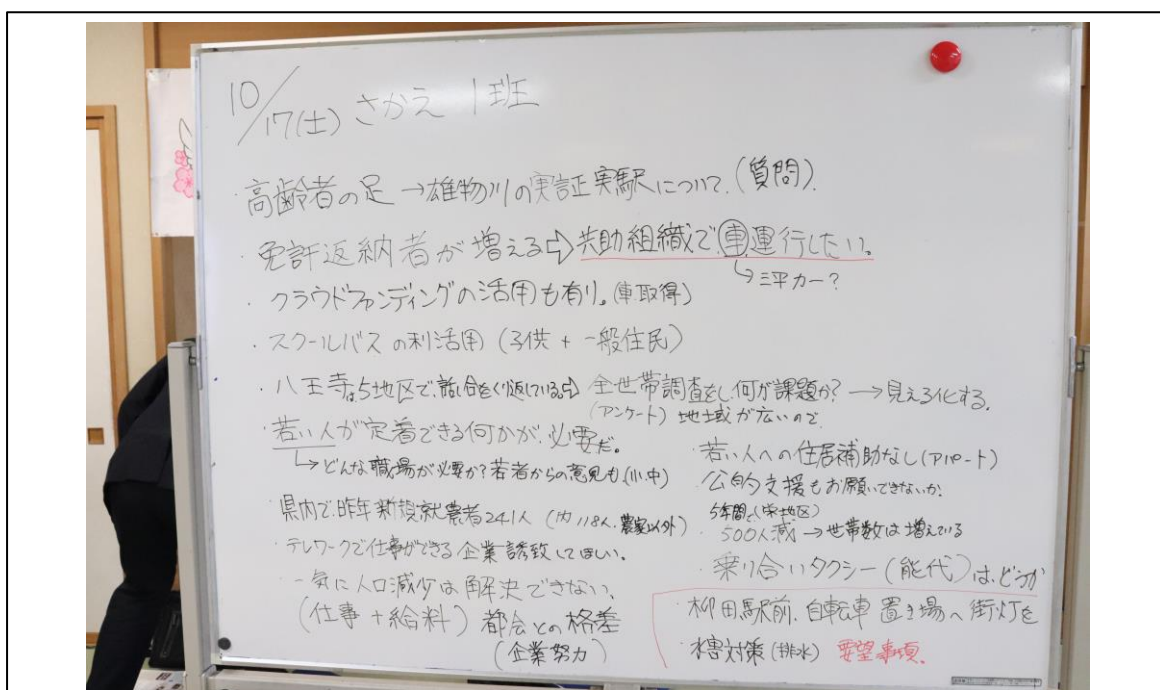
■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容
<p>【テーマに関すること】</p> <p>グループ①</p> <p><u>テーマ「高齢者の足の確保について」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 免許証返納者が増えるので、共助組織で車を運行したい。車取得についてはクラウドファンディングを活用していくこともできる。。 ● スクールバスの活用について、空きがあるのであれば、子どもと住民が同乗することでコミュニケーションがとれるのではないか。 ● 八王寺は5地区で話し合いを繰り返している。地域が広いので全世帯対象のアンケート調査を実施し、見える化していく。 ● 能代市の乗り合いタクシーを参考に。 <p><u>テーマ「人口減少について」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若い人が定着できるための何かが必要。どんな職場が必要か、小中学生や若者から意見を聴くべき。 ● 県内で昨年の新規就農者は241人で内118人は農家以外から。 ● テレワークで仕事ができる企業を誘致してほしい。 ● 一気に人口減少は解決できない。仕事＋給料で都会との格差があることから、企業努力に加え行政の支援も必要。 ● 若い人への住居補助がない（アパート）。公的支援をお願いしたい。栄地区では5年間で500人減っているが、世帯数は増えている。 <p>【テーマ以外に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 柳田駅前の自転車置き場に街灯の設置を要望。水害対策、特に排水について要望（JR脇の水路）。 <p>まとめ</p> <p>高齢者の足の確保について。スクールバス活用事例についてのお問い合わせを頂いた。今後、運転免許証を返納する人が増えてくると思うので、共助組織でバスの運行をしていきたいという前向きな意見があった。車の取得は、クラウドファンディングの活用も考えられるのではないかという話があった。スクールバスは、朝に子ども達が乗る時間帯に空きがあるのであれば、一般住民も一緒に乗せてくればコミュニケーションもとれるし良いことではないか。八王寺地区では、5地区で毎年話し合いをしているが栄地区全体だと要望事項も課題も違って来る。地区ごとに全世帯へのアンケート調査を行って、何が問題で課題なのかを見える化していただければいいのではないか。</p> <p>人口減少について。若い人が定着できる何かが必要。働く場所の確保は、高校生になると進路が大体決まってしまうので、小中学生の段階から話を聞く機会があっても良いのではない。昨年、県</p>

内の新規就農者は241人で農家以外が118人。定着する人が少なくなっているようだ。テレワークができるような企業を誘致してはどうか。市では人口減少対策を行っているが一気に解決できないので、仕事や給料の面など都会との格差があるので、企業努力に加え行政の支援も必要。栄地区は、人口が減っているが世帯数が増えているので核家族化が進んでいる。若い世帯が低い所得でアパートに入っているの、住居に補助してもいいのではないかな。

能代では乗合タクシーの実験をしているので、横手市もデマンド交通の他にやり方があるのではないかな。

要望。柳田駅前の自転車置き場が真っ暗なので街灯をつけてほしい。JR脇の水路は排水が飲み込めない。雨が降るとあふれてしまうので対応してほしい。



グループ②

テーマ「高齢者の足の確保について」

- 循環バスについて、現在のルートでよいかアンケート調査を実施してみても。利用者が少なく、コースの変更を。

テーマ「人口減少について」

- 福祉を良くしなければ人は来ないし残らない。子育て支援策として給食費を無料にしたらどうか。
- 若者が遊べる場所が必要。
- 大曲の花火のような目玉が横手にはない。テーマを決めて先進地から学んでほしい。
- なぜ地域おこし協力隊制度に取り組まないのか。ぜひやってほしい。
- 移住者や移住予定者と地元の交流の場をつくるべき。楽しければ定住するだろう。

【テーマ以外に関すること】

- 雪寄せは地域での見守り効果もある。除雪対策がしっかりしてさえすれば、雪は良いものだ（かまくら）。
- 公衆トイレの洋式化を早急に。和式トイレは使えない人が増えている。
- 増田まんが美術館はどうなっているのか。観光客は通過するだけだと聞いている。増田地区に宿泊施設が必要ではないか。
- 最近、横手公園の管理がされていない。増田への投資が落ち着いたら整備してほしい。公園のSLを街中に移動させたらどうか。
- 要望。人が集まる施設は椅子にしてほしい。

まとめ

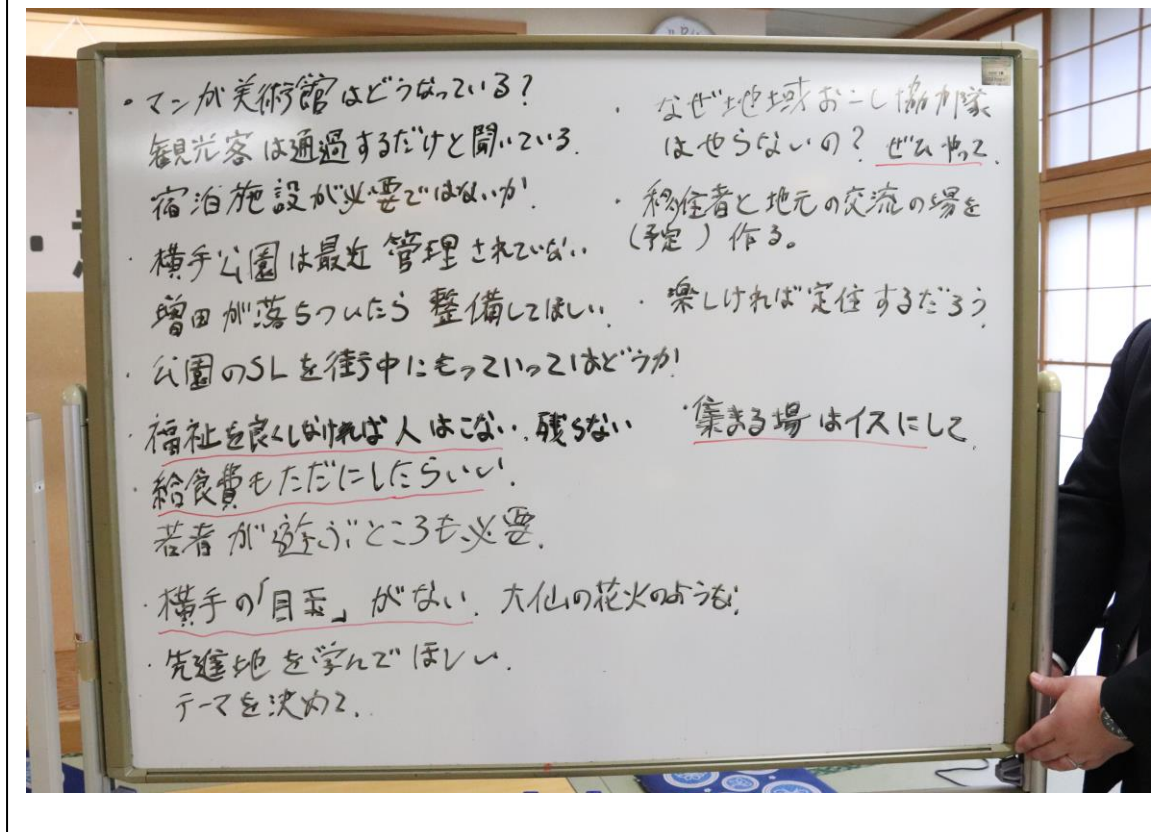
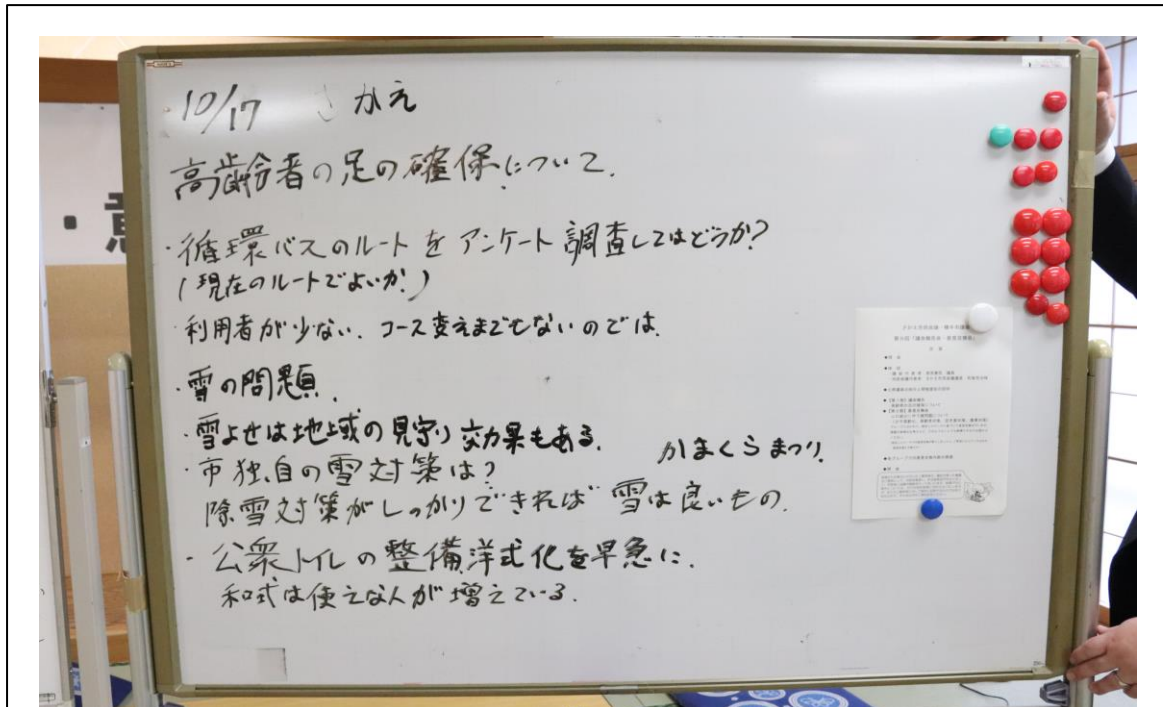
高齢者の足の確保について。循環バスのルートは今のままで良いのか。新しいルートを提案するようなアンケート調査をしてみてもどうか。また、利用者は少ないが良い所を走っているので変える必要はないという意見もあった。

雪寄せは、流雪溝の時間になると普段見かけない人が出てきて挨拶を交わしたりするので、地域の見守り効果もある。市独自の雪の対策がしっかりできていれば、かまくらのように雪のある景色は良いものなので、生活に不便のないように除雪体制がしっかりしていれば、雪があってもいい。

観光の視点から、市民利用も含めて公衆トイレの洋式化を早急に行ってほしい。和式は使えない人が多い。増田まんが美術館は盛況のようだが、観光客が通過しているだけだと聞いている。増田に宿泊施設が必要ではないか。横手公園は立派な公園だが、管理が行き届いていないのではないかと。増田地区にお金がかかっているようなので、落ち着いたらしっかり横手公園を整備して欲しい。SLを市街地に移動させたらどうか。

人口減少について。福祉を良くしなければ人は来ない。子育て支援をしっかりと、給食費を無料にしたらどうか。若者が遊ぶところも必要。横手市として、大曲の花火のような目玉がない。隠れているものをしっかりPRしていくことが必要。地域おこし協力隊をなぜやらないのか。移住者と地元の人との交流の場をつくることで、楽しければ、定住にもつながるだろう。

要望。人が集まる公共施設は、足が痛いので椅子にしてほしい。



グループ③

テーマ「高齢者の足の確保について」

- 循環バスの停留所について、便利なエリアだけ通っているように感じる。交通が不便な地域にも来てほしい。
- デマンドタクシーは、エリアを越えれば料金が上がるため使いにくい。
- 公共交通を使えば病院へ行くのにも1日がかかり（安田原）。もっと便利な路線、乗り継ぎができるよう見直してほしい。
- 免許証返納後、自転車での買い物やデマンド利用で通院したり工夫している。タクシー券の配布は一時的なので、継続的な手当が必要。
- 「地元の総意」がなくても支援できること、乗り合いなど地域で助け合う手法を考えていきたい。

【テーマ以外に関すること】

- 核家族化により、高齢者とのつながりが薄くなっている。困っていることを言い合える地域にしたい。栄地区の婦人会では、学童保育と一緒に世代間交流事業に取り組んでいる。
- 大屋寺内熊の沢へ養豚場ができるという話がある。環境問題が心配で町内で反対しているが、市内の他の地域では問題になっているのか。臭い対策など近代的な養豚施設整備への支援は行っているのか。
- 公民館有料化により、市民活動に使いにくくなっている。市民が良く利用している施設が前ぶれなく値上げされた。「生涯学習」の位置づけや無料となる線引きが分からない。子どもからも一人ずるお金を集めているようだ。事前に説明会があったことを知らない。
- こういう機会でないと言員と話ができない。選挙公報で公約を並べられても分からない。一つ一つの政策に賛成か反対かを示してほしい。高齢者はインターネットを使えない。
- 危険空き家に対する市の対応は、今後増えることが心配。
- ライスセンター・カントリーエレベーターが混雑していると聞く。刈り取りが遅れることで米どころの品質が低下しないか心配。
- 雪下ろしの補助は一律なのか、高齢者だけか。申請の案内はいつ出たのか、市報に載ったのか、チラシは見逃す人が多い。
- 雪対策に限らず様々な支援策が市民に伝わっていないし、高齢者に理解されていない。議会報告会のような話し合いの場が大切。

まとめ

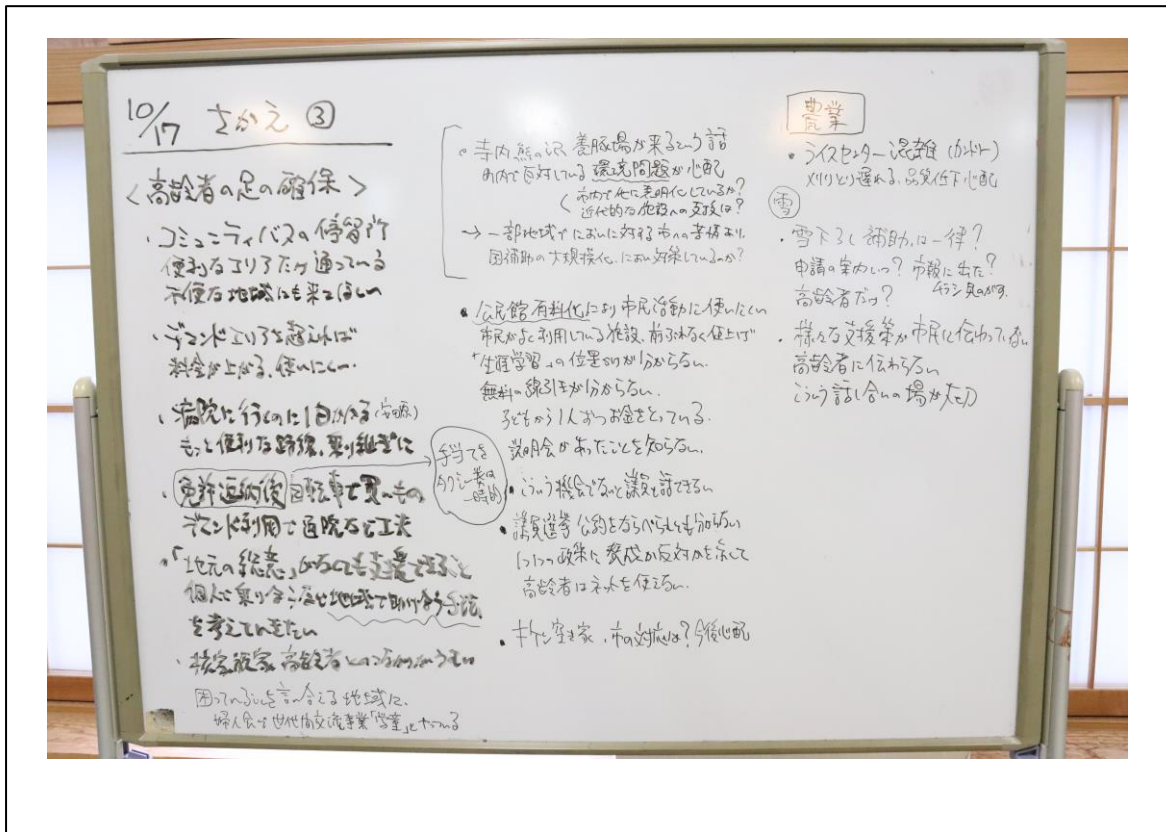
高齢者の足の確保について。循環バスが中心部の便利なところだけを通っているの、不便なところもきめ細やかに通ってほしい。デマンド交通は、エリアを超えるとタクシーのメーターがどんどん上がってしまうので、病院に行くと普通のタクシーと同じような料金になってしまう。また、路線バスで病院に行くのにも、路線と乗り継ぎが不便なため時間がかかる。議会から、バス停の位置の変更は、地域の創意という形でお願ひしたいと申し上げた。民間のバス路線を変えるのは地域

でまとまって頂きたいが、コミュニティバスや公共交通のようなものは、皆さんからどんどんご意見を出して頂いて良いものを作っていければと思うので、地域でまとまった意見でなければ動けないという性質ではない。毎年話が出る課題なので、意見交換を重ねることによって、使い勝手の良い市民満足度の高いものに変えていければいいと思う。運転免許証の返納について。年齢で考える場合もあれば体の具合で突発的に発生する場合もあり得る。タクシー券が1回限りというのは、その時はまだ家族が送迎してくれるので申請しなくても、その後必要になる場合もあるので、免許証返納後手当ては使い勝手の良いものにしてほしい。乗合について、個人でできることや地域で助け合う手法をみんなで考えていく必要がある。高齢者世帯が増えているからこそ、地域ぐるみで繋がりを深め、困ったことお互いに言い合える社会地域社会にしていくことによって、住みよいまちになるのではないかと。婦人会の皆さんは、学童保育と連携して多世代交流事業を行っている。今後も繋がりを大事にして頂きたい。

大屋寺内熊の沢地域に養豚場ができる話があり、大屋寺内町内会で反対する陳情を議会に頂いている。議会としては、まだ具体的に動ける状況にないということから継続審査という取り扱いをしており、12月議会で審査させて頂くことになっている。地元の不安や問題提起をしっかりと議会に持ち帰りたい。市では、国や県の補助事業で豚舎を大規模化する事業があるが、近代的な施設として匂い対策がしっかり取れているのかということがあまりチェックできていなかったもので、持ち帰って議論したい。

この4月から公民館が有料になり、市民活動に使いにくいという意見があった。なぜ全市一律の料金体系になったのかということが広く市民の皆様には伝わりきれていないように感じた。よく分からないままに突然値上がりになった、生涯学習の位置づけが分からない、なぜ有料と無料の団体があるのかという声や、実際に子ども達からお金を集めているケースもあると伺った。市が行った説明会では、生涯学習団体が多く集まる傾向で、団体の減免措置に関する質問が多かったと聞いている。制度の趣旨について、なぜ値上げになったのかという辺りが丁寧に市民の皆様には伝わってなかったように感じている。

こういう機会があることで、議員と話をすることができて良かったというありがたい言葉があった。議員の選挙は公約を書かれても分からないので、一つ一つの政策に賛成か反対かを分かるようにしたらどうかというご意見があった。議会だよりでは、賛否が別れた議案について一覧を載せているので、この議員はどういう考えなのかということはある程度ご理解頂けるものと思う。空き家の問題についてのご心配、市の対応についての質問があった。農業問題について。カントリーエレベーターやライスセンターが混雑していて、刈り取りが遅れることによってせっかくの米どころ秋田の品質が低下するのではないかとのご意見があった。雪対策について。高齢者世帯向けに市の補助事業はあるが、継続して利用している方には毎回確認が入っているものの、毎年の制度の案内について、市報にいつ載ったのか、チラシがいつ入ったか分からないというご意見があった。丁寧な周知が必要だと感じた。



令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

3班代表 菅原 正志

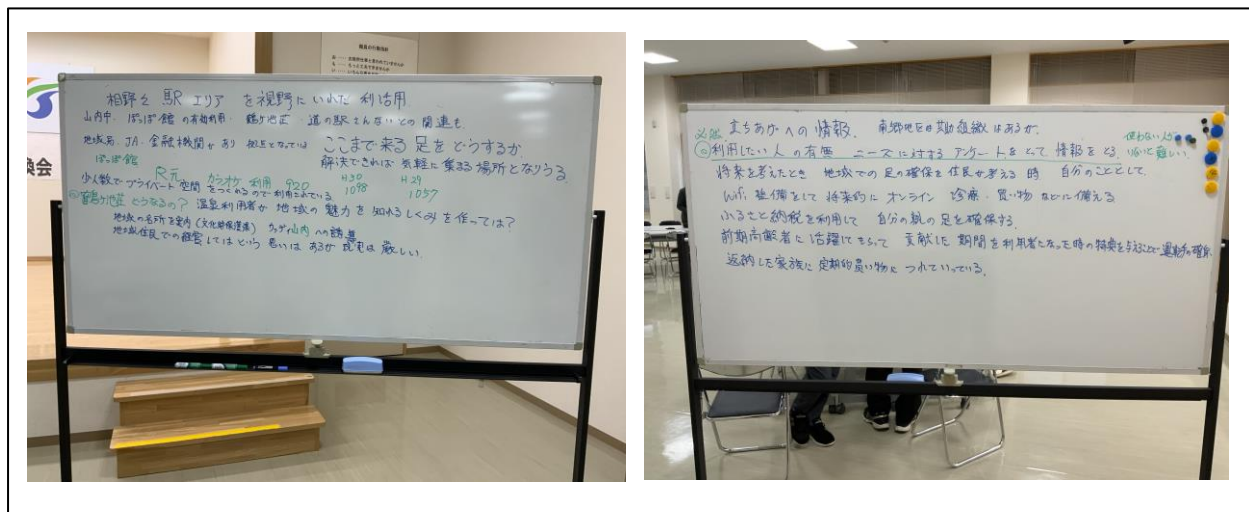
第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月17日（土） 14:00～
2. 開催場所	山内公民館
3. 出席議員	2人（菅原正志、高橋聖悟、佐藤清春、鈴木勝雄、佐々木喜一、寿松木孝） オブザーバー（木村清貴議員、大日向香輝議員）
4. 参加人数	19人（市民：14人、職員：5人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容
<p>【テーマに関すること】</p> <p>グループ①</p> <p><u>テーマ「交通弱者対策としてのコミュニティバス運行を」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用したい人のニーズ調査が必要 <p>⇒あればいいのは確か。だが、住民アンケート調査を行い、実際に使う人がどれだけ見込めるか確認することが必要では？（共助組織がアンケートを行うことで意識の向上にもつながる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通の仕組みを理解していない（理解しようとしていない？） ・羽後交通のバスをJRで呼んだと思うが、実際利用者は少ない ・サービスの提供方法と住民が利用したい方法のマッチングができていない→使わない ・地区の総会などみんながあつまる場で説明会を何年かかけて意見収集して作っていないと ・無理して作っても存続できない ・JR北上線は日中は駅に電車が停まらない、デマンド交通だと小松川から片道2,400円位かかるし、地域に商店もないし冬季間の移動も困難なので、あると助かる ・実際に使っている人は通院や買い物などに利用→オンラインで対応が進んでいる <p>⇒Wi-fiの整備なども進めて行ってはどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転手の確保が課題（生活できるだけの給与を払えるか） ・会費制（サブスクリプション）にすれば、利用者も増えるし収入も安定するのではないか <p>⇒会費は親元を離れた子どもなどが負担できる仕組みも検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車の維持費を考えるとデマンド交通も利用料は決して高いわけではないのではないか ・有償ボランティア制度や行政からの支援制度などの整備 ・前期高齢者の方に運転してもらい、貢献度によって特典を受けられる仕組みなども ・高齢者のひきこもり解消にもつながっている例もある ・定期的に買い物に連れて行っている ・狙半内でのミニバン運行には、市から昨年280万円補助している <p><u>テーマ「ポッポあいののの再開発を第三者機関で検討を」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポッポあいののだけを考えても片手落ち <p>⇒道の駅さんない、鶴ヶ池荘、山内中跡地利用も含めエリアで考える必要がある</p> <p>⇒ポッポあいのの周辺には地域局、金融機関、診療所などもある人の集まるエリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気楽に集まれる場所はあるといい ・そこまで来る交通手段をどうするか <p>⇒コミュニティバスの停留所とすることで立ち寄りやすくすれば利用者が増える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別の業者が入るとなれば新たな費用が発生する ・カラオケルームの利用者→R01 920人、H30 1098人、H29 1057人

- ・2階にはカラオケルームと談話室がある→利用者はそれなりにいる※優くんのの聖地訪問も
テーマ「鶴ヶ池荘はどうなっているのか」
- ・温泉からのガスで、学校の中まで臭いが届く
⇒ハスが腐ってしまっている？池の水を抜いて対処するなどにはできないか（以前も同様の話があったが見送った経緯があるようだ）
- ・利用者が地域の回遊する仕組みづくりを
⇒地域資源（ウッディさんない、いぶし小屋、文化財関連など）と結び付けてツアーの開催などはできないか（以前やったことはある）
⇒やるかどうかは経営者の考え次第
- ・3施設中2施設が返還されるとなった際に住民に説明があってもよかったのではないか
- ・地域住民で民間会社を作り運営することはできないのか
⇒山内村で経営していた時は利用者が20万人、譲渡前は半減し、今はさらに落ち込んでいる
⇒地域住民で運営するには規模が大きすぎ。プロの運営でないと難しいと思う。
- ・行政での運営であれば総合的に地域を売り込む拠点として活用ができていた
⇒今は地域住民と一緒に取り組もうとする姿勢は見られない
- ・譲渡前の株主には出資金は返還されていない
- ・温泉が多いがどこも苦境。ライバルが少なくなれば需要は増えるかもしれない
- ・魅力はある施設。利用者が増えれば周辺のにぎわいにもつながる



グループ②

テーマ「交通弱者対策としてのコミュニティバス運行を」

- ・共助組織立ち上げまでが大変
- ・自らの組織を作っていくことが難しい状況
- ・将来の民間バス運行に不安がある
- ・公共交通を運行できる条件のハードルが高い（バス会社との交渉による）
- ⇒今走っている民間の路線バスはいつまで運行できるのか
⇒ポッポあいのの再開発にも影響する

テーマ「ポッポあいののの再開発を第三者機関で検討を」

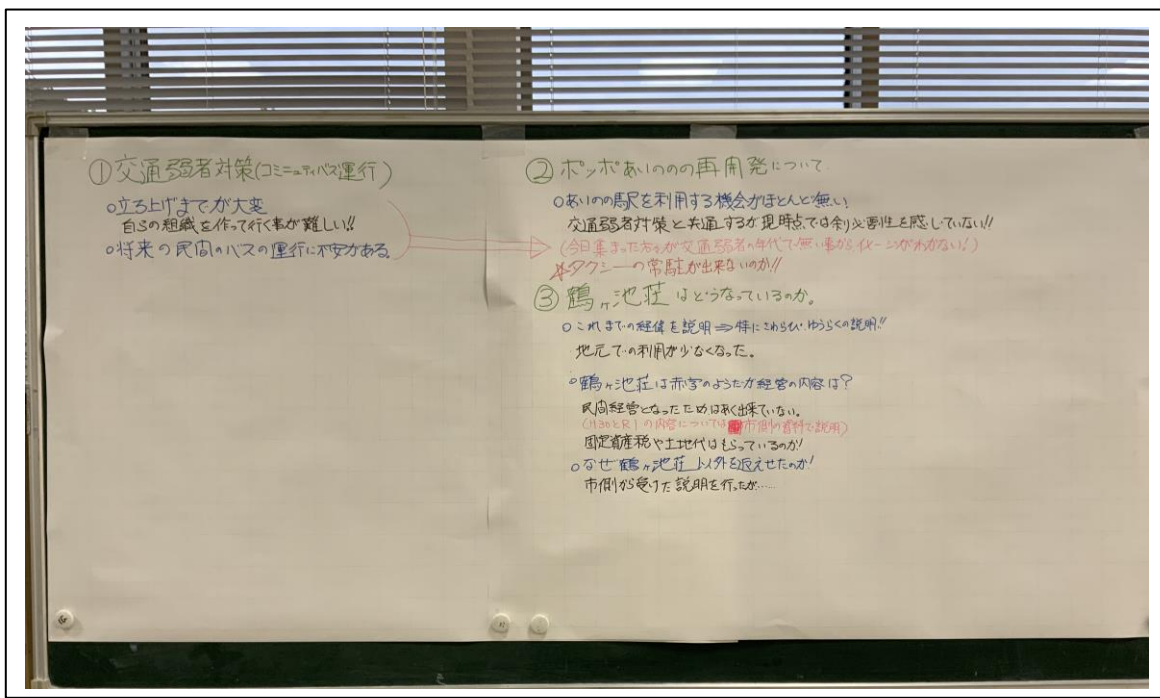
- ・あいのの駅を利用する機会がほとんどない
- ⇒現時点ではあまり必要性は感じていない（交通弱者対策とのテーマと共通）
（内部の組織を組み立てるのに時間がかかる。リーダーをどうするか。範囲が非常に広い。まだ運転できる世代には他人事の問題になってしまう。交通手段がないのは主に黒沢地区の住民。）
- ・タクシーの常駐ができないか

テーマ「鶴ヶ池荘はどうなっているのか」

- ・これまでの経緯を説明→特にさわらび・ゆーらくの返還について説明
- ・地元での利用が少なくなった（集落の集まりなどの宴会の費用が高くなった）
- ・経営の内容はどうなっているのか（赤字のようだが…）→（H30、R01年度についての市側から出された資料で説明）民間での経営のため十分に把握できていない
- ・固定資産税や土地代などは支払われているのか→土地は無料で貸与している。固定資産税は一旦支払われたが、同額を運営補助金として回している（実質的に減免している）
- ・おらだの鶴ヶ池という感覚だったのに…いつの間にか人の手に渡ってしまっていた
- ・譲渡先はプロの経営と思っていたが、あのような経営だったらだれでもできる
- ・なぜ鶴ヶ池荘以外は返還できたのか、契約違反でないのか→これまで市側から受けた説明を行ったが十分な説明はできなかった→のちほど十分な説明をする機会を設ける必要あり
- ・市で行った説明会では、5年間は譲渡できないことになっているなど未来のある話だったので信用していた

テーマ「その他」

- ・決壊し通行止めになっている道路の補修について、市側に問い合わせたところ「検討していません」との回答しか返ってこない→県道なので市では対応できない。決壊状況も大変。



グループ③

テーマ「交通弱者対策としてのコミュニティバス運行を」

- ・バス路線のない地区からバス路線・駅までコミュニティバス運行をしても中途半端ではないか
- ・路線沿いに住む人は便利だが、そうでない人（特に高齢者）にはやはり不便
- ・あいのの駅～軽井沢を運行し、その後はバス路線となるので横手駅までノンストップ運行？
- ・公共交通機関（電車・バス等）との調整は難しい
- ・スクールバスの活用は考えられないか

⇒スクールバスの運行により、北上線の廃止につながるのではないかと心配（JR側に廃止の理由を与えることになりかねない）※狙半内とはこの部分で事情は異なる

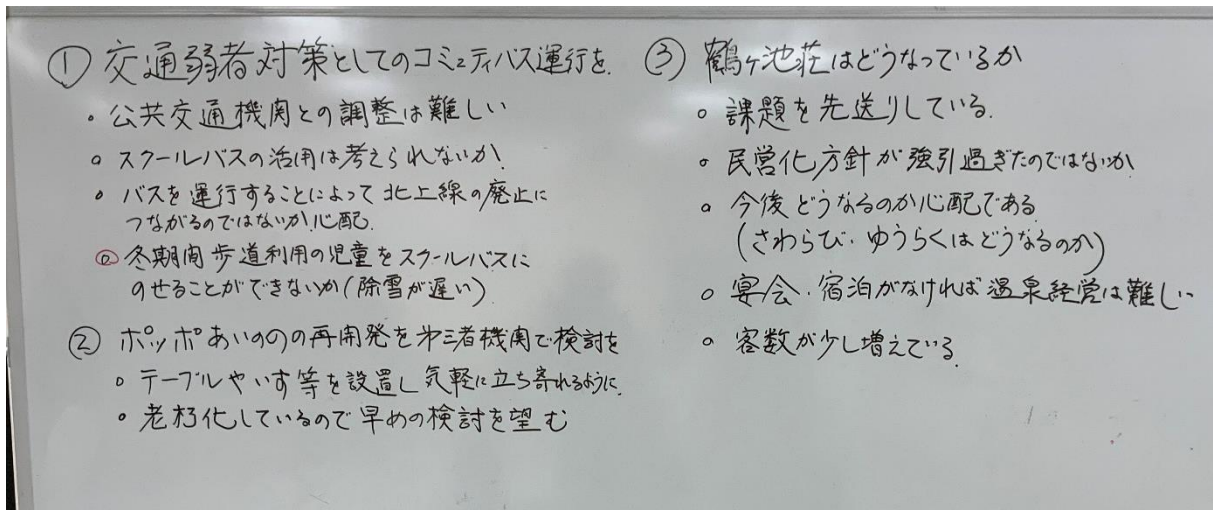
- ・JR北上線の利活用につながる運行の検討も必要
- ・スクールバスを活用できる時間には制約がある
- ・歩道を利用して通学している児童を冬季間スクールバスに乗せられないか（除雪が遅く間に合わない）

テーマ「ポッポあいののの再開発を第三者機関で検討を」

- ・立ち寄りやすい場所で利用している人は結構多い
- ⇒もう少しテーブルやイス等を設置すればさらに立ち寄りやすくなる→地区会議からも要望を
- ・老朽化しているので、関係者の早めの検討を望む

テーマ「鶴ヶ池荘はどうなっているのか」

- ・場当たり的な対応。課題を先送りしている
- ・市の温泉施設の民間譲渡の方針は拙速かつ強引
- ・返還された温泉施設について新しい譲渡先を探すとの報道があったが、本当にできるのか
- ・ただでさえ大変な状況なのに、コロナ禍もある中、今後どうなるのか心配
- ・今後改修などの費用がかかったらどうなるのか
- ・温泉施設の経営には宴会・宿泊がないと厳しい
- ・国、県、自治体のキャンペーンの成果もあり、市外からの客数は少し伸びている




令和2年10月 日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

2班代表 高橋 和樹

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月18日（日） 15:00～ 17:00
2. 開催場所	山内公民館 ホールA・B
3. 出席議員	6人（高橋和樹、遠藤忠裕、齋藤光司、大日向香輝、土田百合子、佐藤忠久）
4. 参加人数	10人（市民：7人、職員：3人）
5. 実施内容	(1) 議会報告：昨年度の意見についての情報提供 (2) 意見交換：小グループ形式（2グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<p>山内地域の中の中心部であるが故なのか、参加者が極めて少なかった。開催の曜日や時間等、改めて考えるべき。（日曜だから、日中の時間帯だから…等）合わせて、正副議長さんたちによる開催の声掛けはほとんど無かったのではないかと。地区会議に頼った方式も地域によっては再考すべきと思う。</p> 

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

意見交換会テーマ ①集会施設の負担軽減化について ②人口減少

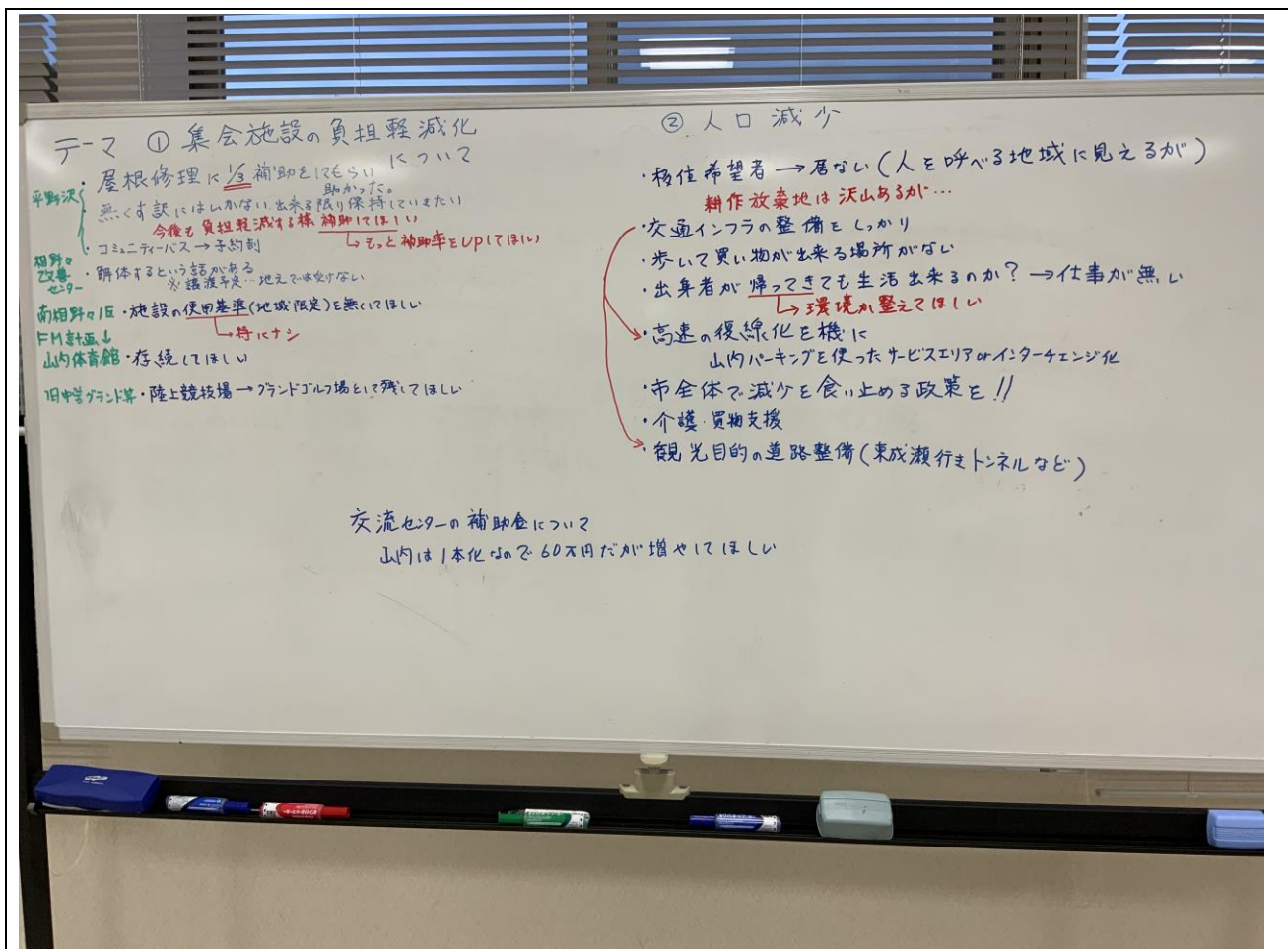
グループ① 進行：高橋和樹議員、記録：大日向香輝議員

テーマ ①集会施設の負担軽減化について

- ・交流センターの補助金について、山内は一本化なので60万円だが増やしてほしい
- 平野沢
 - ・屋根修理に3分の1補助をしてもらい助かった
 - ・無くすわけにはいかない。できる限り保持していきたい→今後も負担軽減するよう補助してほしい。もっと補助率をUPしてほしい
 - ・コミュニティバスは予約制
 - ・相野々改善センターを解体するという話がある ※譲渡予定→地元では受けない
 - ・南相野々1区の施設の使用基準（地域限定）をなくしてほしい→（回答）使用基準は特になし
 - ・FM計画について、山内体育館は存続、陸上競技場をグラウンドゴルフ場として残してほしい

テーマ ②人口減少について

- ・移住希望者はいない（人を呼べる地域に見えるが）。耕作放棄地はたくさんあるが…
- ・交通インフラの整備をしっかりと
- ・高速の複線化を機に山内パーキングを使ったサービスエリアまたはインターチェンジ化
- ・観光目的の道路整備（東成瀬行きトンネルなど）
- ・歩いて買い物ができる場所がない
- ・出身者が帰ってきて生活できるのか？仕事がない。帰って来れる環境を整えてほしい
- ・市全体で減少を食い止める政策を！！
- ・介護、買い物支援



グループ② 進行：土田百合子議員、記録：佐藤忠久議員

テーマ ①集会施設の負担軽減化について

- ・集会施設は自治会所有 26 カ所、市営 8 カ所。地域で公共施設のあり方を検討すべき
- ・改修の補助率が 3 分の 1 しかなく、1 戸あたりの負担が多くなる。メンテナンスは 100% 助成を望む
- ・空き家を会館に利用する方法に支援はないのか

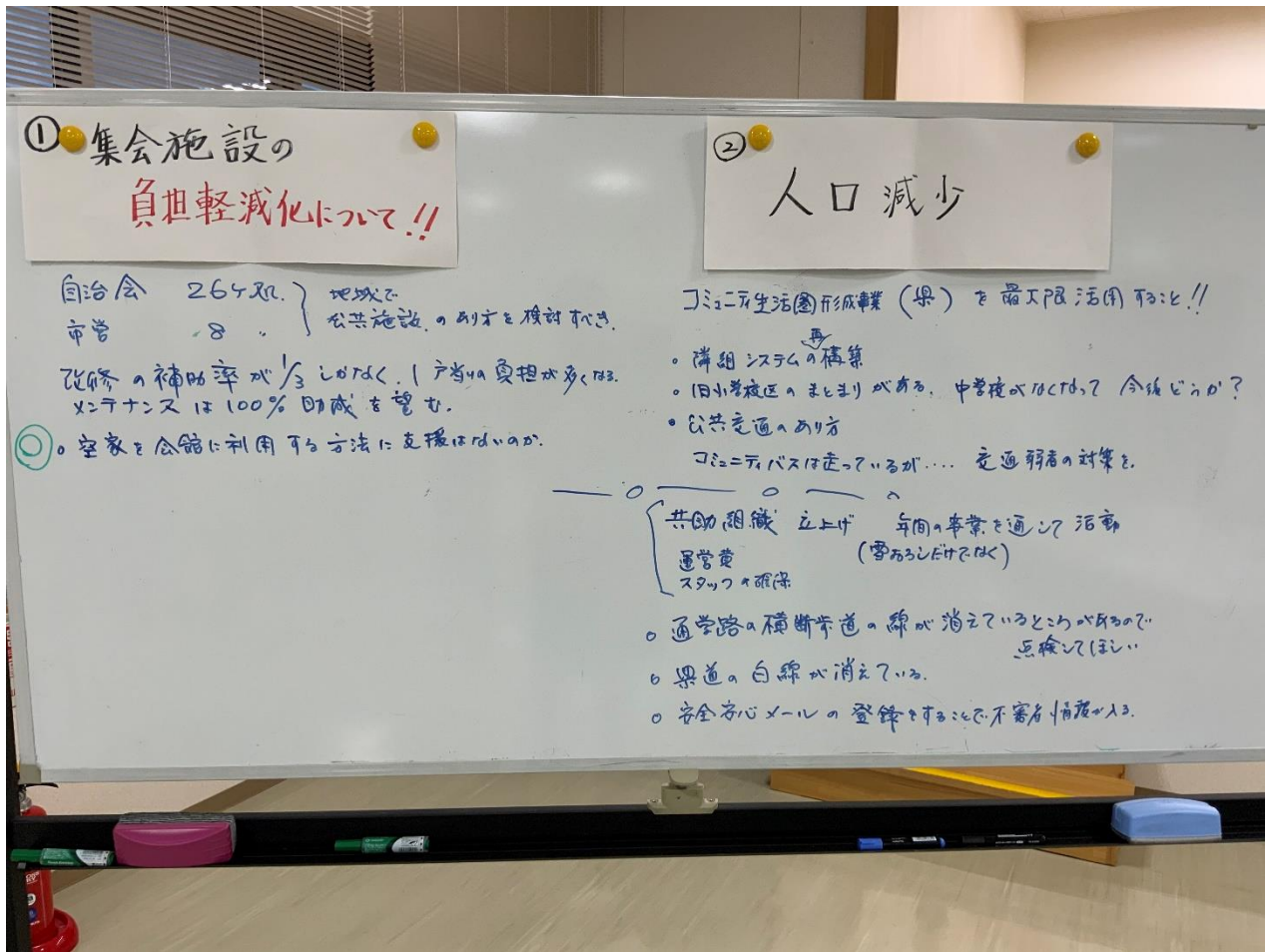
テーマ ②人口減少について

- ・県のコミュニティ生活圏形成事業を最大限活用すること！！
- ・隣組システムの再構築
- ・旧小学校区のまとまりがある。中学校がなくなって今後どうか？
- ・公共交通のあり方について、コミュニティバスは走っているが…。交通弱者への対策を

テーマ以外について

- ・共助組織立ち上げ（雪おろしだけでなく）年間事業を通して活動。運営費、スタッフの確保
- ・通学路の横断歩道の線が消えているところがあるので点検してほしい
- ・剣道の白線が消えている

・安全安心メールの登録をすることで不審者情報が入る



令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

3班代表 菅原 正志

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月19日（月） 13:30～15:20
2. 開催場所	川西地区交流センター
3. 出席議員	6人（菅原正志、鈴木勝雄、佐々木喜一、寿松木孝、高橋聖悟、小野正伸）
4. 参加人数	15人（市民：14人、職員：1人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	・佐藤清春議員の代理で小野正伸議員が出席

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

【テーマに関すること】

○第1部テーマ「高齢者の足の確保」

[説明]

寿松木孝議員より説明

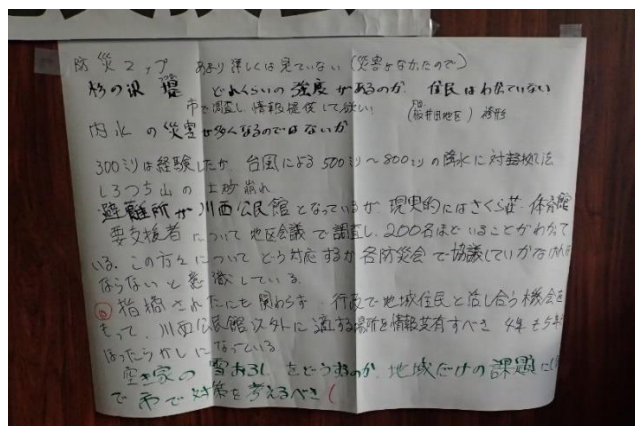
[質疑・意見]

- ・特になし

○第2部テーマ「洪水対策とこれまでの議会報告会での要望」

グループ①

- ・川西地区では組織化を図り、いろいろな取り組みをされていることが分かったが、課題となる点がいくつかある
- ・300ミリの雨量は経験しているが、他地域で見られる500～800ミリの雨量があった場合にこの地域がどのようになるかという不安がある。市としても対策をお願いしたい
- ・川西公民館が避難所になっていることが現実的ではない、4、5年前から同じ話をしているのに、一向に変わらない。市としては、地域住民を交えてこれからの避難所を話し合っていたきたい。そして、地域全体で共有してほしい
- ・要支援者が200人ほどいることが分かっている。災害時にどう対応するか、各防災会で協議する必要がある



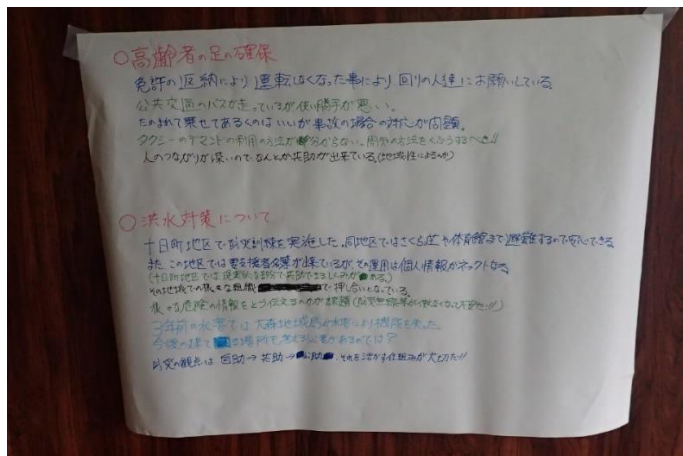
グループ②

○高齢者の足の確保について

- ・免許返納により運転しなくなった方が増えた。周りの方において足の代わりを果たしている現実がある。万が一、事故を起こした場合の対応が心配だし課題である
- ・公共交通のバスは走ってはいるが、実際は使い勝手があまり良くない
- ・タクシーのデマンド交通の利用方法が分かりにくく、周知の方法を工夫すべき
- ・人のつながりが深い地域なので、共助が何とかかんとか成り立っているが、いつまでも続くわけではない。近い将来の課題として、しっかりとした考え方を進めていく必要がある

○洪水対策について

- ・十日町地区で避難訓練を実施した。同地区はさくら荘や大森体育館に避難できる地区であり、安心はできる。自助、共助という部分では、進んでいる地区である
- ・要支援者名簿はできているが、運用上個人情報にネックになっているのではないかと
- ・集落の中で要支援者名簿を作る際、情報提供時の混乱が見られるので考えるべき
- ・雄物川沿線、さまざまな危険情報があっても、市民にどのように伝わるのか心配である
- ・防災無線が使用できなくなることが分かっており、代替の対策が必要
- ・3年前の水害で大森地域局が機能を失った。立て替えが発生するとすればその点も十分に加味、検証が必要である
- ・自助から共助、最後に公助となるが、どうやってその連携を生かしていくか、仕組み作りが大切である



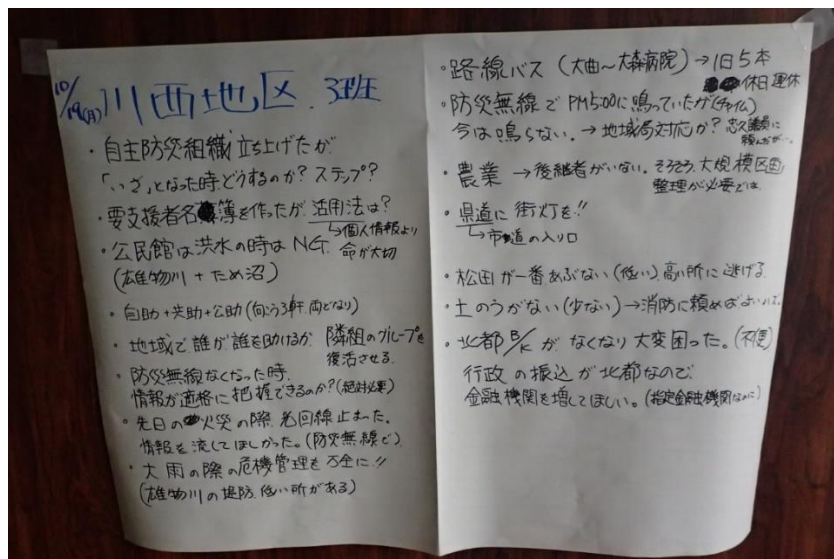
グループ③

○足の確保について

- ・大森～大曲の路線バスが1日5往復あるが、休日はない。利用者も少ない

○防災対策について

- ・自主防災組織を立ち上げたが、いざとなったらどのようなステップで行動するかはまだ明確になっていない
- ・要支援者名簿を作ったが、活用方法をどうするかが課題。個人情報よりも命が大切ではないか
- ・川西公民館は洪水の時は避難所として使用できない。雄物川のほか、ため池もあり心配
- ・自助、共助、公助とあるが、向こう三軒両隣、昔の隣組のグループを復活させ、誰が誰を助けるかをきちんと決めておく必要があるのでは
- ・防災無線について、今はあるが無くなると困る。必要である
- ・大森の町中で火災があったが、光回線が止まり慌てた。防災無線で流せば解決する話
- ・雄物川の堤防が低いところがある。危機管理を万全に！
- ・松田集落が一番危険
- ・土嚢が足りない



【テーマ以外に関すること】

- ・ 冬季間の雪下ろし、特に空き家をどうするかが課題
- ・ 西部斎場の煙に放射線が含有している可能性があり、市としてどのように対応するのか。建て替えの話もあるが、少し離れた場所に建てるのが賢明である
- ・ 大仙市では花火大会を中止したのに、横手市では種苗交換会を規模縮小で開催する。中身が乏しいが、本当にやるべきか疑問
- ・ 議会では、本会議だけでなく委員会も傍聴可能だと知った。傍聴してみたい
- ・ 防災無線で夕方にチャイムがなり、子どもたちに帰宅を促していたが、今はならなくなった。地域局の対応か？
- ・ 農業後継者がおらず、そろそろ大規模な区画整理が必要
- ・ 県道と市道が交わるところ、街灯がほしい
- ・ 北都銀行がなくなり、非常に困っている。市の指定金融機関で使う機会も多いはずなのに、なぜなくなったか

令和2年10月 日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

2班代表 高橋 和樹

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月20日（火） 18:00～ 19:50
2. 開催場所	醍醐公民館 2階 第2研修室
3. 出席議員	6人（高橋和樹、遠藤忠裕、齋藤光司、大日向香輝、土田百合子、佐藤忠久）
4. 参加人数	10人（市民：6人、職員：4人）
5. 実施内容	(1) 議会報告：産業建設委員会テーマ（インフラ） (2) 意見交換：小グループ形式（2グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・会場は1階のほうがよかったとの声あり（地区会議議長） ・山内同様、地区会議との開催について再考すべき地域であった。開催への周知方法も再考すべき。同地域出身の議員1名がオブザーバーで参加するも市民は話しづらかったように感じた。地元議員の傍聴参加のルールを決めるべきと思う。※「参加するな」と言うことではない。 

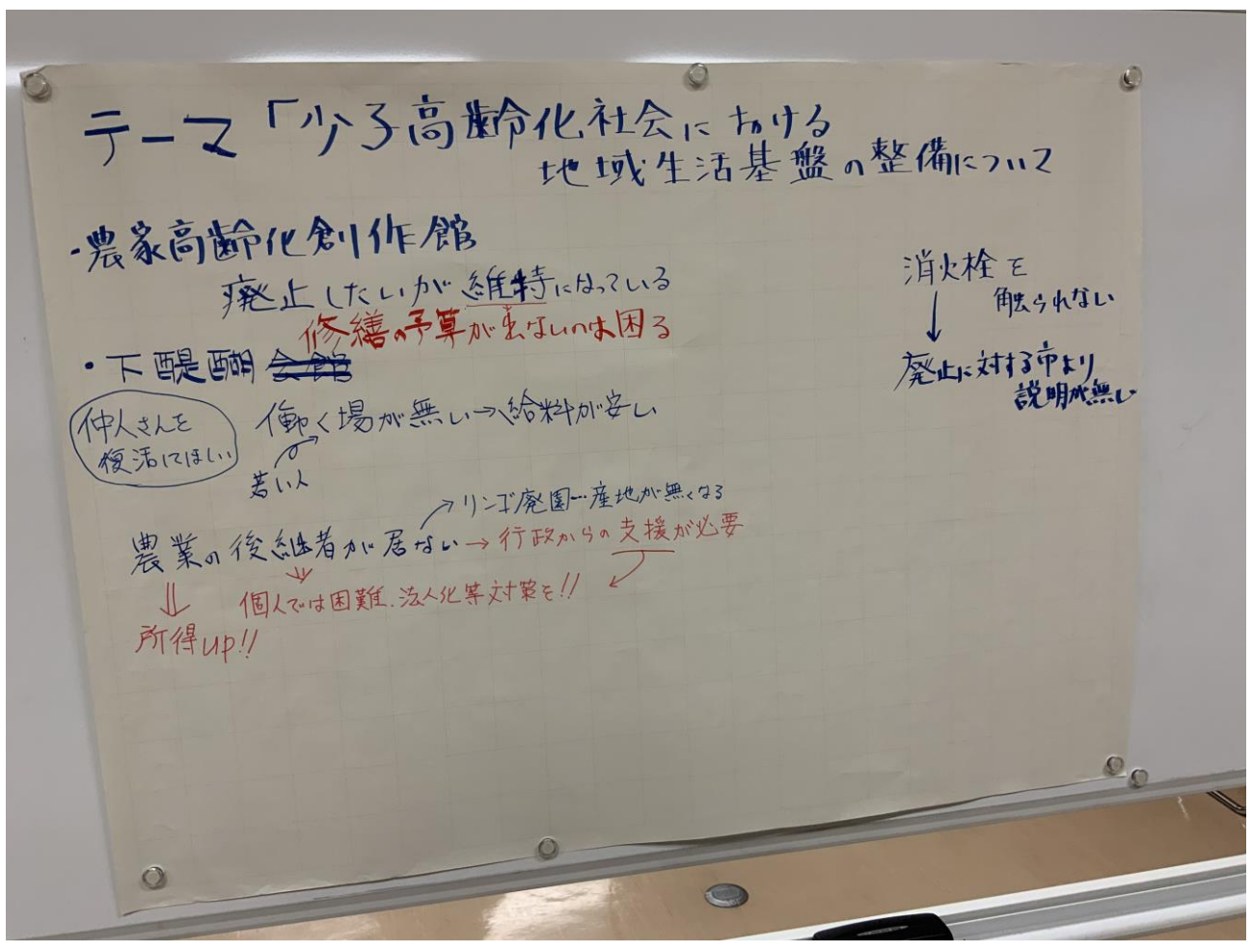
■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

意見交換会テーマ 少子高齢化社会における地域生活基盤の整備について

グループ① 進行：土田百合子議員、記録：遠藤忠裕議員・

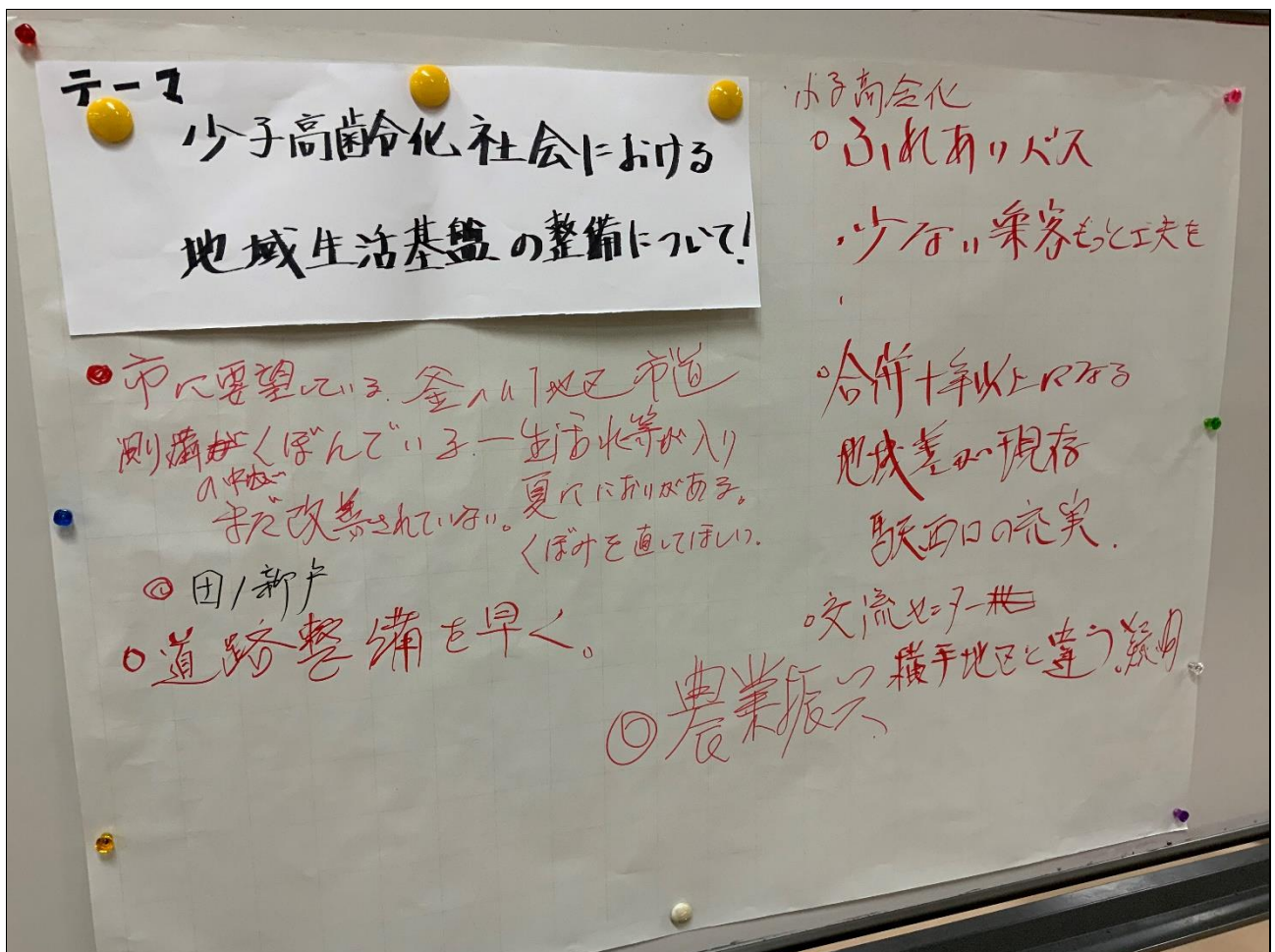
- ・釜ノ川の市道で側溝の中がくぼんでいる箇所がある。生活水等が入り、夏に臭いがある。市に要望しているがまだ改善されていない
- ・田ノ新戸の道路整備を早く
- ・ふれあいバスは乗客が少ないので、もっと工夫を
- ・合併10年以上になるが地域差が現存 横手駅周辺ばかり充実
- ・地区交流センター担当について、横手地区と他地区が違うことに疑問
- ・農業振興



グループ② 進行：高橋和樹議員、記録：大日向香輝議員

テーマについて

- ・農家高齢者創作館は廃止したいが、維持になっている。修繕の予算が出ないのは困る
- ・仲人さんを復活してほしい
- ・若い人の働く場がない。給料が安い
- ・農業の後継者がいないことでリンゴ畑は廃園になり、産地がなくなる。行政の支援が必要
- ・所得アップや後継者不足は個人では困難。法人化等対策を！！
- ・消火栓を触れられない。廃止に対して市から説明がない



令和2年10月28日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

4班代表 塩田 勉

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月20日（月） 19:00～ 20:40
2. 開催場所	雄物川庁舎
3. 出席議員	6人（塩田勉、木村清貴、加藤勝義、本間利博、青山豊、菅原亀代嗣）
4. 参加人数	28人（市民：12人、職員：16人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・議会報告会とグループテーマが同じだったが、導入部で議会より報告というか、現在の取り組み、課題、研究内容などを話すことによって、グループに分かれた時の取っ掛かりができて良かった。また地域課で防災マップのコピーを準備してくれており、話のタネになっていた。

■主な質疑・意見・要望等

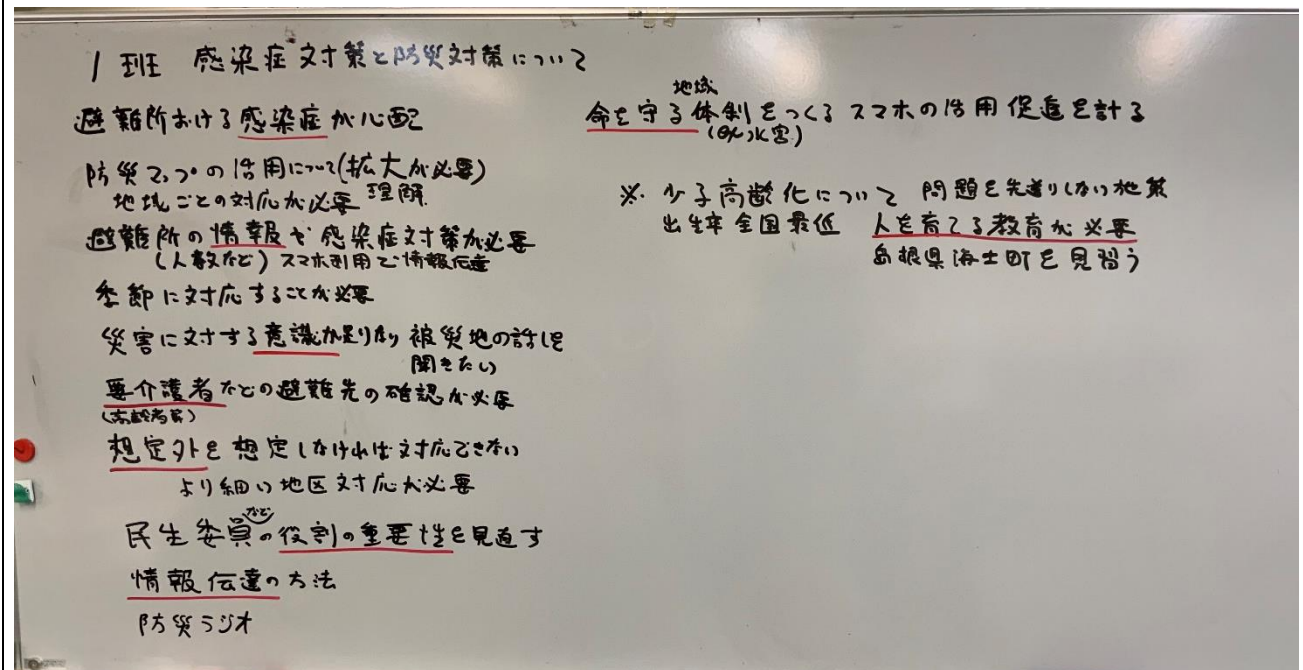
意見等の内容

【テーマに関すること】

共通テーマ：感染症対策と防災対策について

グループ①

- 避難所における感染症が心配。
- 防災マップはあるが、これだけではなかなか細かいところまでは分からない。地区の拡大したものがあれば地区ごとに対応できるのではないか。もっとその地区ごとに理解を深めることが必要だろう。
- 避難所が開設されたとすれば、その避難所の情報についてどのようにお知らせするかが課題。
- 避難所の人数や広さ、対応など、スマホを利用した情報伝達がこれからは必要。
- 避難所は夏とか冬とか、季節に対応することが必要。
- 災害に対する意識が足りない。これまでに被災されたところの生の声を聞く必要がある。
- 高齢者を含む要介護者について避難先の確保が必要。
- 想定外を想定しなければならない時代になった。より細かい地区の対応が必要になる。
- 民生委員などの役割の重要性を見直す必要がある。
- 情報伝達の方法について、雄物川地区は来月から防災無線が使えないということもあり、防災ラジオ等の別のもので置き換えられるのか。
- 命を守る体制を作ることが必要。例えば水害であればあらかじめ予想もできるので、予想がつくものについてはしっかりと命を守る地域の意識と体制を作っていくべきだ。

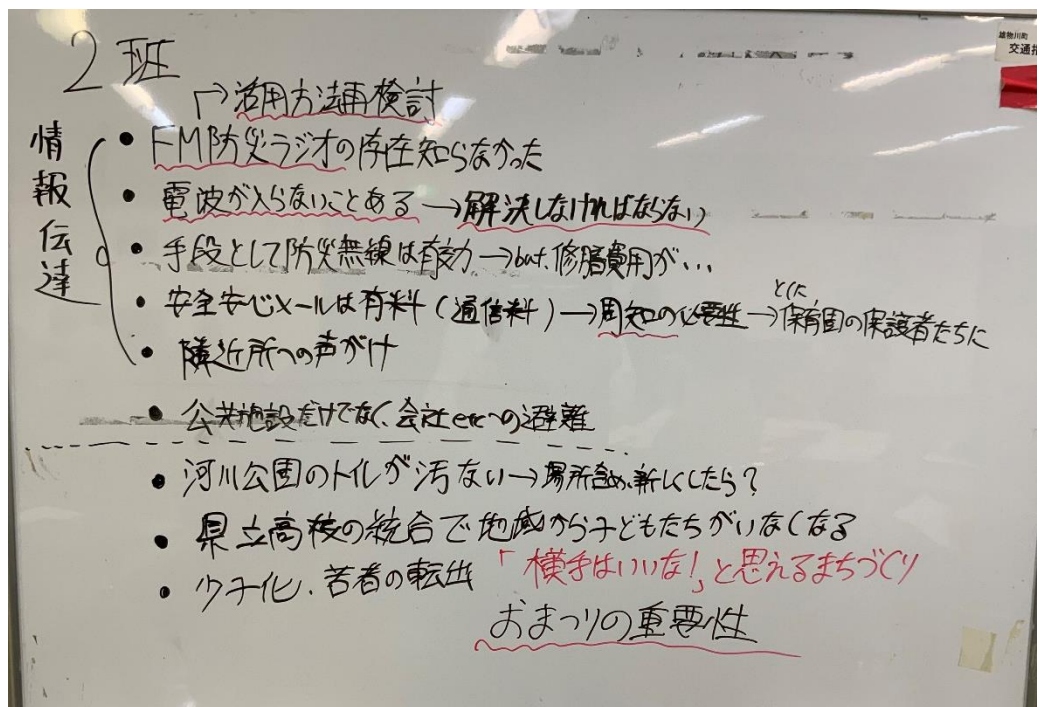




グループ②

- 情報伝達について、FM防災ラジオそのものの存在を知らなかった。
- 防災ラジオがあっても電波が入らないところがある。
- 11月から防災無線が無くなるが情報伝達の手段として防災無線は有効だ。修繕費用がかかる。
- 安全安心メールについて、登録無料だが通信費がかかる。なかなか登録が進まない。安全安心メールの存在自体知らない人がいる。もっと周知をする必要があるのではないか。特に保育園の保護者に登録してもらえれば、小学生や中学生にも伝わっていくのではないかと。
- 隣近所の声かけが必要。
- 横手市では防災ラジオを情報伝達手段の中心に置くということであれば、まずは電波が入らないところを解消することが必要。それを含め防災ラジオの活用方法を再検討する必要がある。

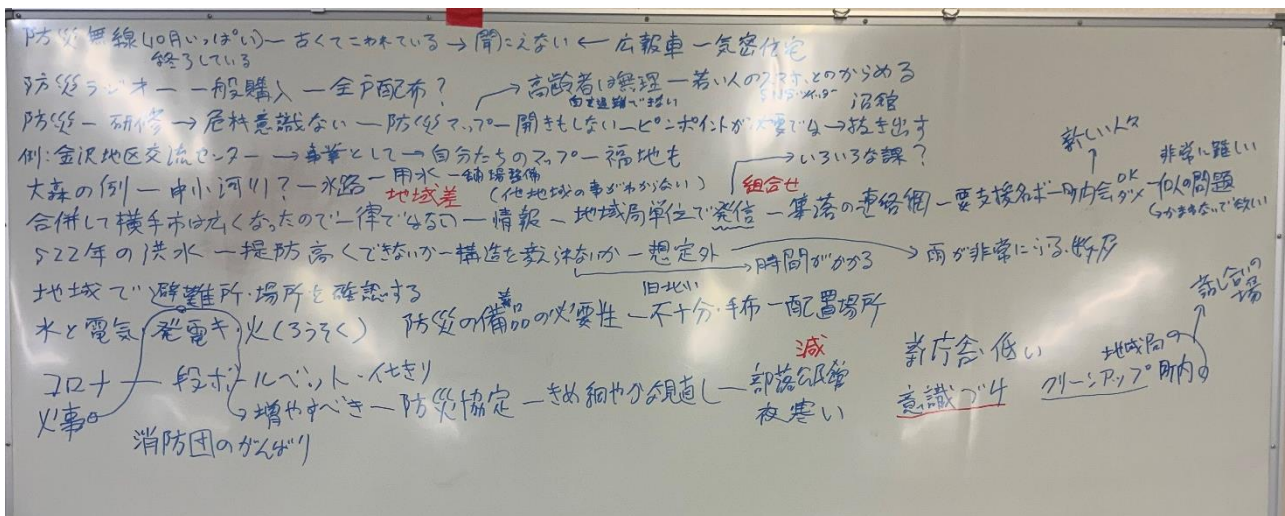
■ 避難行動について、市指定の公共施設の避難所だけではなく、地域によっては2階建ての会社などもあるので、本当に緊急を要するのであれば避難所に行くのではなく、地域の会社などへ避難というのも必要。



グループ③

- 防災無線が10月いっぱい、新庁舎移転に伴い廃止される。地域を回る広報車も出るが、最近の住宅は気密が良いためなかなか聞こえない。
- 防災ラジオは特定の方にはあるが、一般の方には無い。全戸配布は出来ないのか。
- 防災の研修もしているが、なかなか危機意識が無い。実際に災害に合っていないと実感がわかない。
- 防災マップはあるが一度も開いたことが無い。実際高齢者がこれを見て避難できるのかといえられないのではないか。
- 若い人とお年寄りのコラボが重要なのではないか。
- 大きな区域の防災マップではなく、沼館なら沼館のピンポイントの防災マップが必要。
- 金沢地区では交流センター事業としてマップを作っているが、福地も作っているらしい。
- この前の大森の河川の例もあるが、大きい河川だけではなく、やはり中小河川、用水路なども地域ごとに独自の話し合いが必要ではないか。
- 合併して横手市もかなり広くなったので、雨の状況や災害の状況は一律ではない。地域差がある。なかなか他の地域の情報は分からない。一番身近な地域局単位で発信していくのが一番良いのではないか、ただ発信の仕方も危機管理だけではなく農林などいろいろな課からの情報があって分かりにくい。
- 集落の連絡網など、アナログな物との組み合わせも必要。
- 要支援者名簿もあるが、なかなか町内会として受け入れられている町内会、手に余っている町内会、もしくは個人的に構わないで欲しいというような町内会、さまざまあるようだ。新しい団地だと特に難しくなっている。
- 過去の教訓を生かすのも大切。昭和22年の洪水などは忘れてはいけない。
- 堤防をしっかり作る事も防災になる。建設はなかなか難しいし時間がかかる。
- 地域で避難所、避難場所を確認することは非常に大切。
- 3.11の話もでた。停電の時に高齢者はろうそく（火）を使いたがる。危ない。
- 避難所に行った時に防災の備蓄品がどうなっているのか。旧北小に毛布などがあるが10人分くらいしかない。不十分ではないか。配置場所などの再検討が必要ではないか。

- コロナ禍で段ボールベットや仕切りなどはどうなっているのか。
- 防災マップについている今の避難所だけではなく、各町内などで増やすべきではないか。民間との防災協定などのきめ細やかな見直しが必要ではないか。集落会館は減ってきており、すごく寒い。
- 火事の場合も避難所に避難できるようにする体制が必要ではないか。
- 火事、水害含めて消防団のがんばりはすごい。
- 個々、各町内の意識付けが非常に大切だ。
- 来年はクリーンアップを是非実施して欲しい。それが話す良い機会になる。
- 新庁舎は低いのではないか。



【テーマ以外に関すること】

- ・ 少子高齢化について問題を先送りしない対策が必要。出生率が全国最低。人を育てる教育が必要。例えば島根県海士町の例など。
- ・ 河川公園がキャンパーが多く賑わっているが、トイレが汚い。場所含め新しくしたらどうか。
- ・ 高校の統合が検討されている。これが実現すれば地域から子どもたちがいなくなるのが心配。
- ・ 少子化、若者が転出してしまう。若い世代に「横手は良い場所だ」と思えるまちづくりが必要。
- ・ お祭りというのは重要である。

令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

3班代表 菅原 正志

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月21日（水） 19:00～20:52
2. 開催場所	平鹿生涯学習センター
3. 出席議員	6人（菅原正志、鈴木勝雄、佐々木喜一、寿松木孝、佐藤清春、高橋聖悟）
4. 参加人数	16人（市民：6人、職員：10人）
5. 実施内容	(1) 議会報告 (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<p>[各地区共通の改善点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の種類（年代等）、違う年代続けていかないとつながっていかない。青年部等にも声掛けをしていかないと。 ・地区会議との共催でずっとやってきた。メンバーもかわらない。 ・子ども会の会長とか ・若い人が参加しやすい時間帯 ・参加しやすい方策を ・情報伝達、地区単位の情報重要

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

【テーマに関すること】

○第1部テーマ「高齢者の足の確保」

[説明]

寿松木孝議員より説明

[質疑・意見]

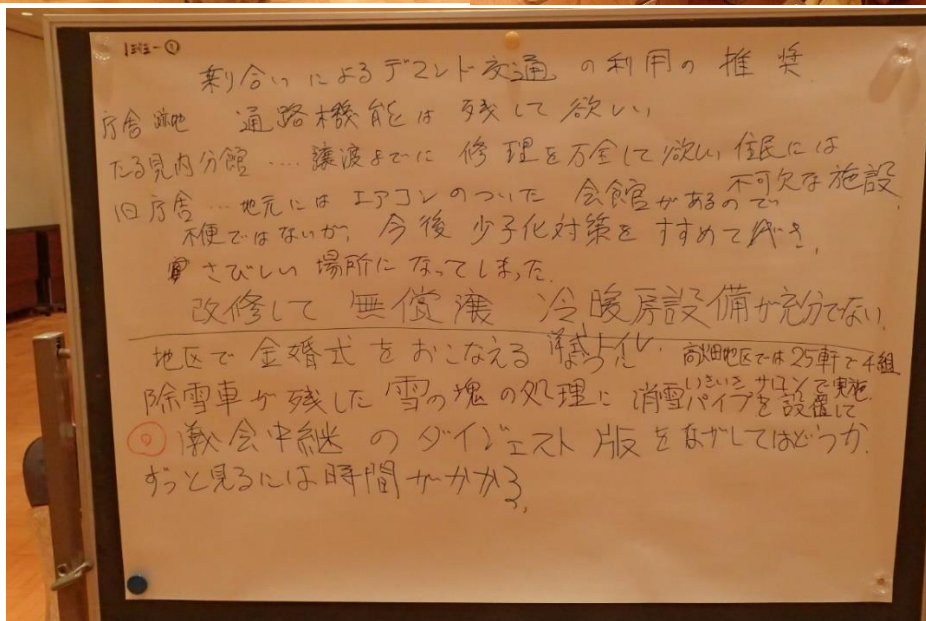
- ・特になし

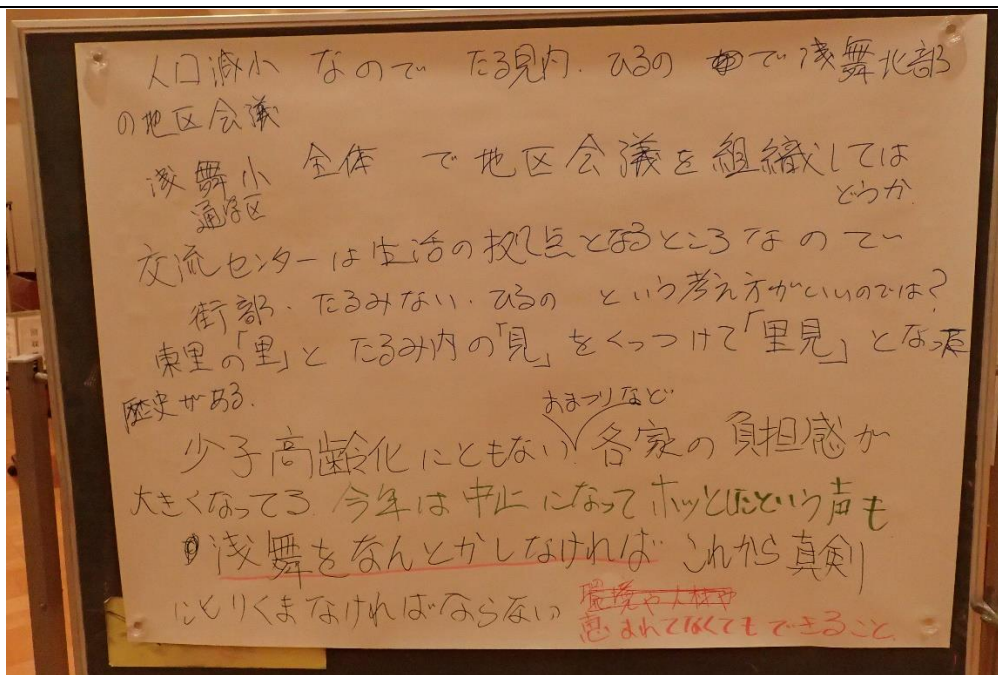
○第2部テーマ「公共施設等の利活用を皆で模索しよう」

(旧地域局跡地・旧消防分署跡地、蛭野分館、樽見内分館)

グループ①

- ・旧地域局跡地はもう少し明るくし、舗装されていない部分を舗装してもらいたい
- ・平鹿分署跡地は利活用が難しく、売却するしかないのでは
- ・樽見内分館は、譲渡するにしても修理を万全にしてからにしてほしい。特に、冷暖房、洋式トイレがない



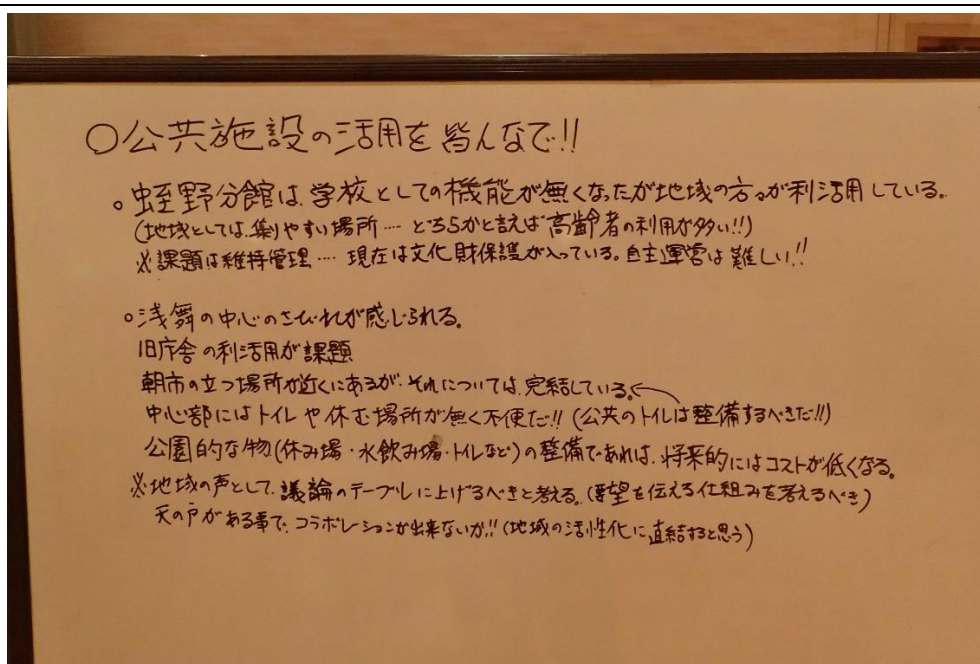


グループ②

- ・蛭野分館、学校機能はなくなったが、地域の皆さんが十分に利活用している。地域で集まりやすい場所。高齢者の利用が多い
- ・今後の維持管理が課題。文化財保護の機能があり維持できているが、なくなれば自主運営は難しいのでは。若い人の利活用は少ない
- ・浅舞中心部の寂れていくのを感じる。庁舎移転の関係もある
- ・中心部に公共の公園があってもよい。トイレや水飲み場等、管理コストもそれほどかからない
- ・浅舞酒造が近くにあり、コラボレーションによって地域の活性化が図られるのではないか

まとめ ⇒ これらの声を地域の声として議論のテーブルに上げるにはどうしたらよいか。市の課題として取り上げてもらう必要がある。また、議会でも課題として認識してもらえるよう積極的に行動しないと前に進まない





グループ③

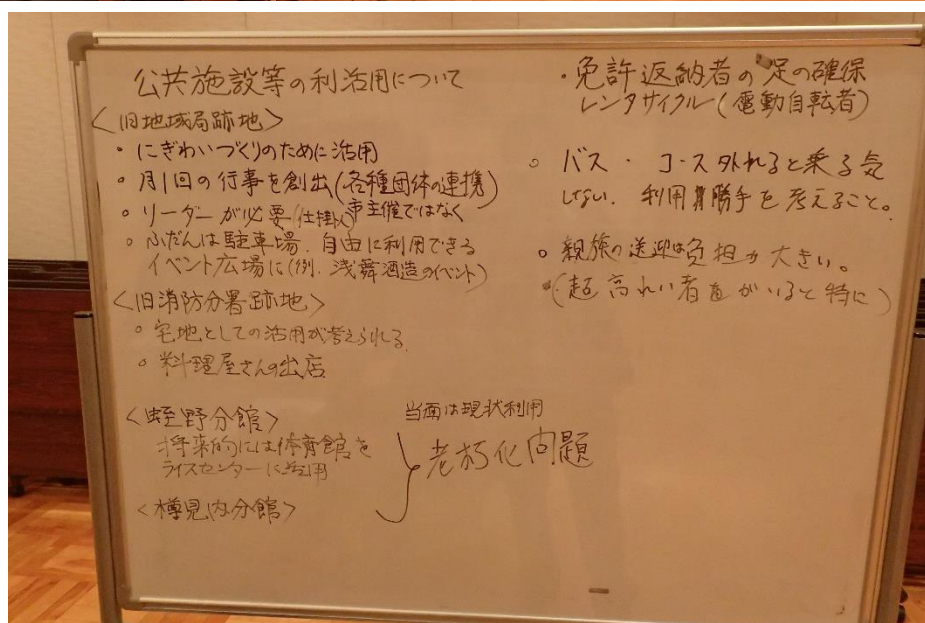
- ・協議時間が足りなかった

○高齢者の足の確保について

- ・免許返納者が増えている。電動自転車を活用したレンタサイクルの案
- ・バスが通っても、コースから外れる地区が必ず出てくる
- ・送迎できる家族は仕事を持っているため、高齢者の送迎を常にできるわけではない
- ・バスに乗り降りできない人、手助けが必要な高齢者、要支援者の対応は大きな課題

○公共施設の利活用について

- ・旧地域局跡地は、町の中心部であり、地元の賑わいづくりのために活用する方法が必要
- ・各種団体の話し合いにより、月1回できればいいが、できなくても年数回の行事を開催できないものか。それにより地域の活気も増す
- ・地域を引っ張る人、仕掛け人が必要である
- ・普段は駐車場や広場として利用、行事の際はイベント広場としての活用が考えられる
- ・地元企業との連携
- ・平鹿分署跡地は、宅地としての活用がよいと思う
- ・かつては浅舞に料理屋さんが多くあったが少なくなった。美味しいお酒と料理を提供してくれるお店があれば人出も増える
- ・蛭野分館は当面は利用者がいる。子どもたちが利用しなくなったら、ライスセンターとしての活用も一案
- ・両分館については、老朽化が激しく、どうするかがキーポイント



【テーマ以外に関すること】

- ・議会中継のダイジェスト版を流してほしい。議会だよりは短すぎて分からないし、録画中継をフルに見るのは長すぎる。ダイジェストは要旨が分かって非常によい
- ・浅舞を元気にするために何とかしなければいけない。できることを探らなければいけない。祭りは各家の負担も大きく、中止になりほっとしているという意見もある

令和2年10月 日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

2班代表 高橋 和樹

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月20日（火） 18:00～ 19:50
2. 開催場所	里見公民館 1階ホール
3. 出席議員	6人（高橋和樹、遠藤忠裕、齋藤光司、大日向香輝、土田百合子、佐藤忠久）
4. 参加人数	10人（市民：6人、職員：4人）
5. 実施内容	(1) 議会報告：産業建設委員会テーマ（インフラ） (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<p>昨年と同じ班が担当したためか、参加数が昨年より少ない。顔ぶれが同じだと話題も同じで、答えも同じに感じるのか、参加する期待感が少ないと思う。一部の市民の方は参加のための（質問や意見を）準備してまで来てくれていたのが印象に残った。里見地区については、昨年から大きな問題や課題が少ないと言われていたが、参加者だけの話なのでどうなのか。</p> 

■主な質疑・意見・要望等

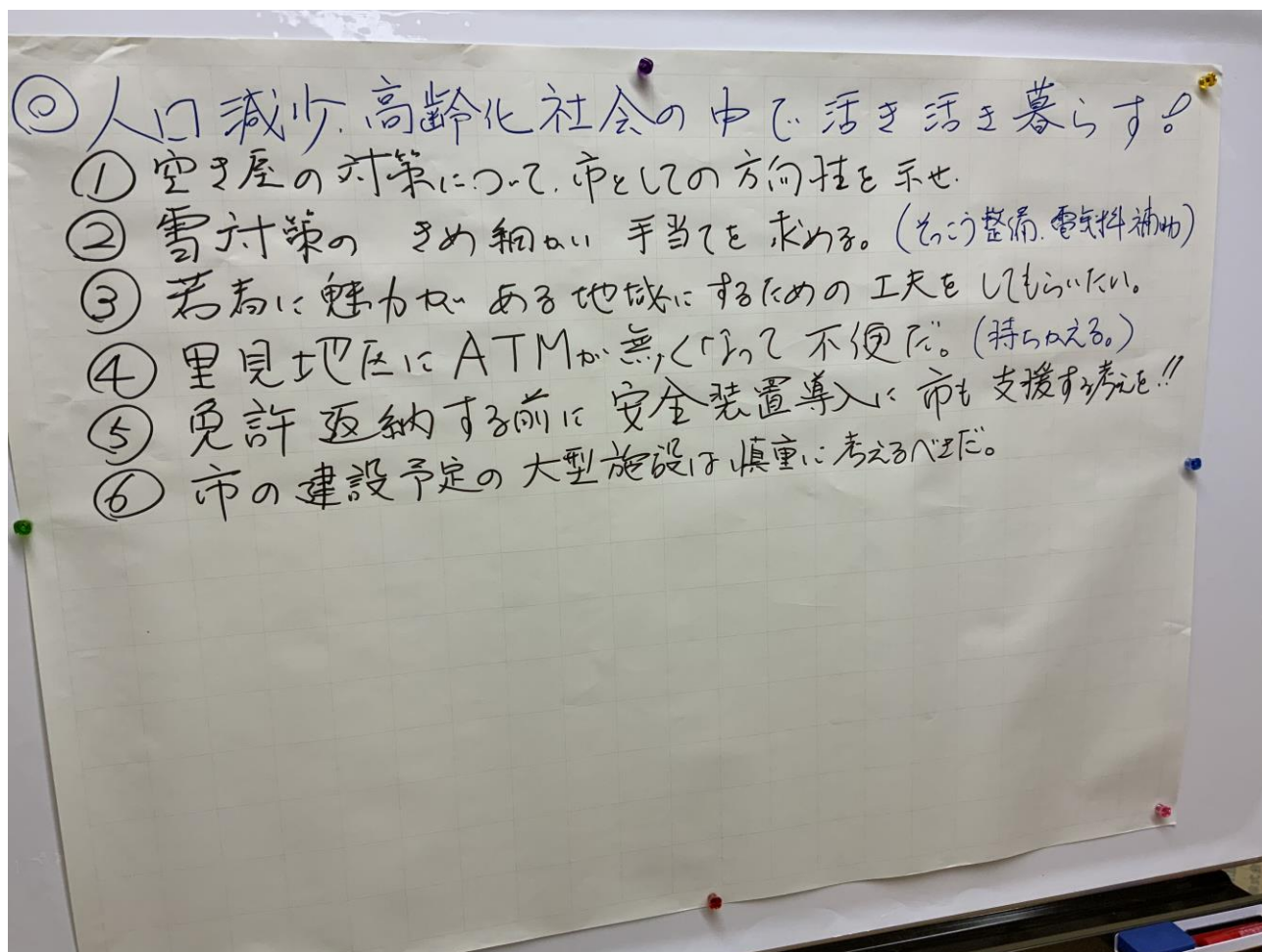
意見等の内容

意見交換会テーマ 人口減少、超高齢化社会の中で生き生き暮らす！

グループ① 進行：高橋和樹議員、記録：齋藤光司議員

テーマについて

- ・空き家の対策について市としての方向性を示せ→（議員）全国的にも空き家条例制定早い。空き家があると路線価が下がる（財産価値が下がる）まちづくりに影響。なかなか周知ができてない
- ・雪対策のきめ細かい手当を求める（側溝整備、電気料補助）
- ・若者に魅力がる地域にするための工夫をしてもらいたい
- ・里見地区にATMがなくなって不便だ（持ち帰る）
- ・免許返納する前に安全装置導入に市も支援する考えを！！
- ・市の建設予定の大型施設は慎重に考えるべきだ

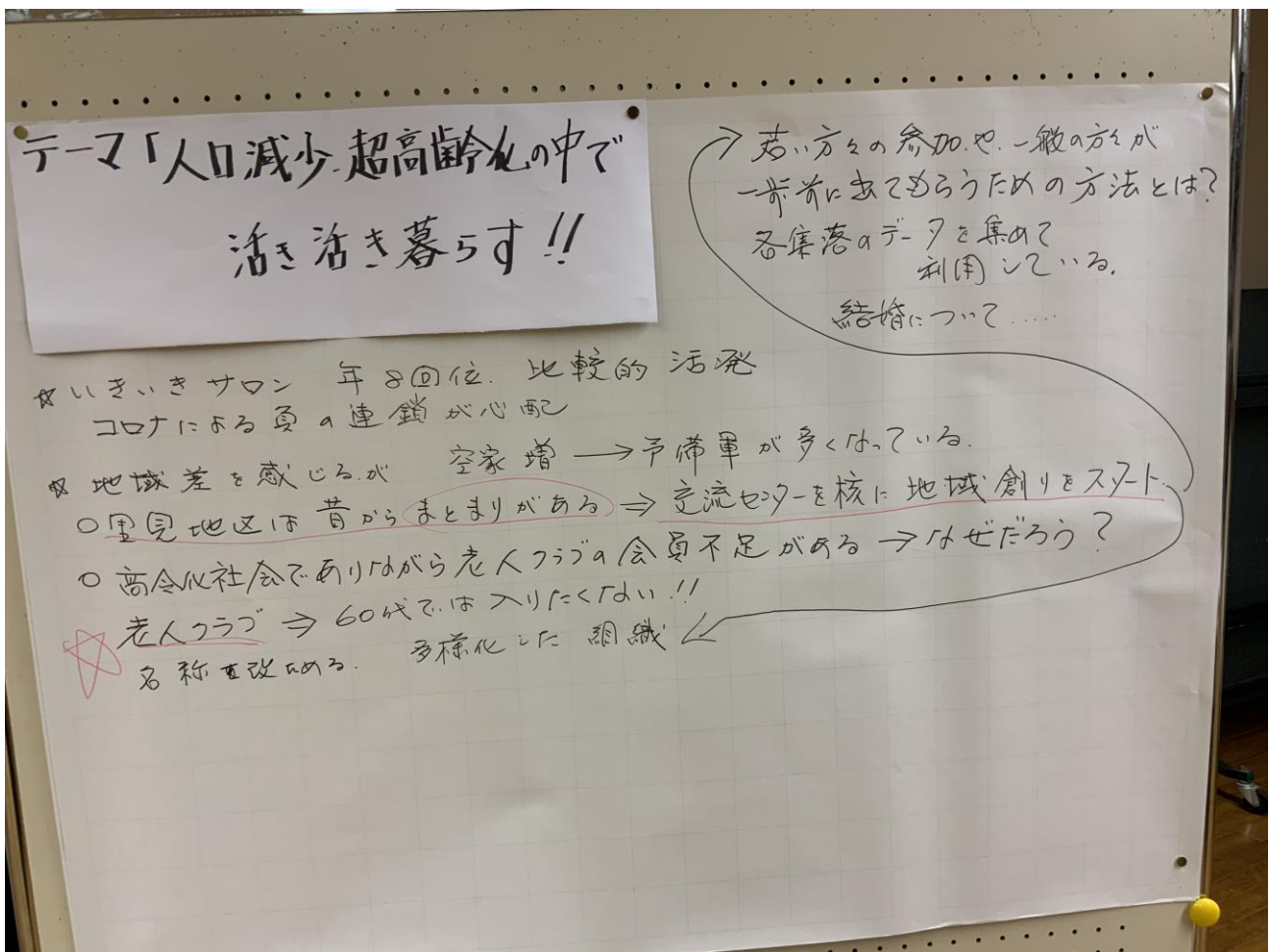


グループ② 進行：土田百合子議員、記録：佐藤忠久議員

テーマについて

- ・いきいきサロンは年8回くらいで比較的活発。コロナによる負の連鎖が心配
- ・地域差を感じるが空き家増。予備軍が多くなっている
- ・里見地区は昔からまとまりがある。交流センターを核に地域づくりをスタート
- ・若い方々の参加や一般の方々が一歩前に出てもらうための方法とは？
- ・各集落のデータを集めて利用している。結婚についてなど…
- ・高齢化社会でありながら老人クラブの会員不足があるのはなぜだろう
- ・老人クラブに60歳代で入りたくない！！
- ・老人クラブの名称を改める
- ・地域づくりとからめた多様化した組織に

まとめ

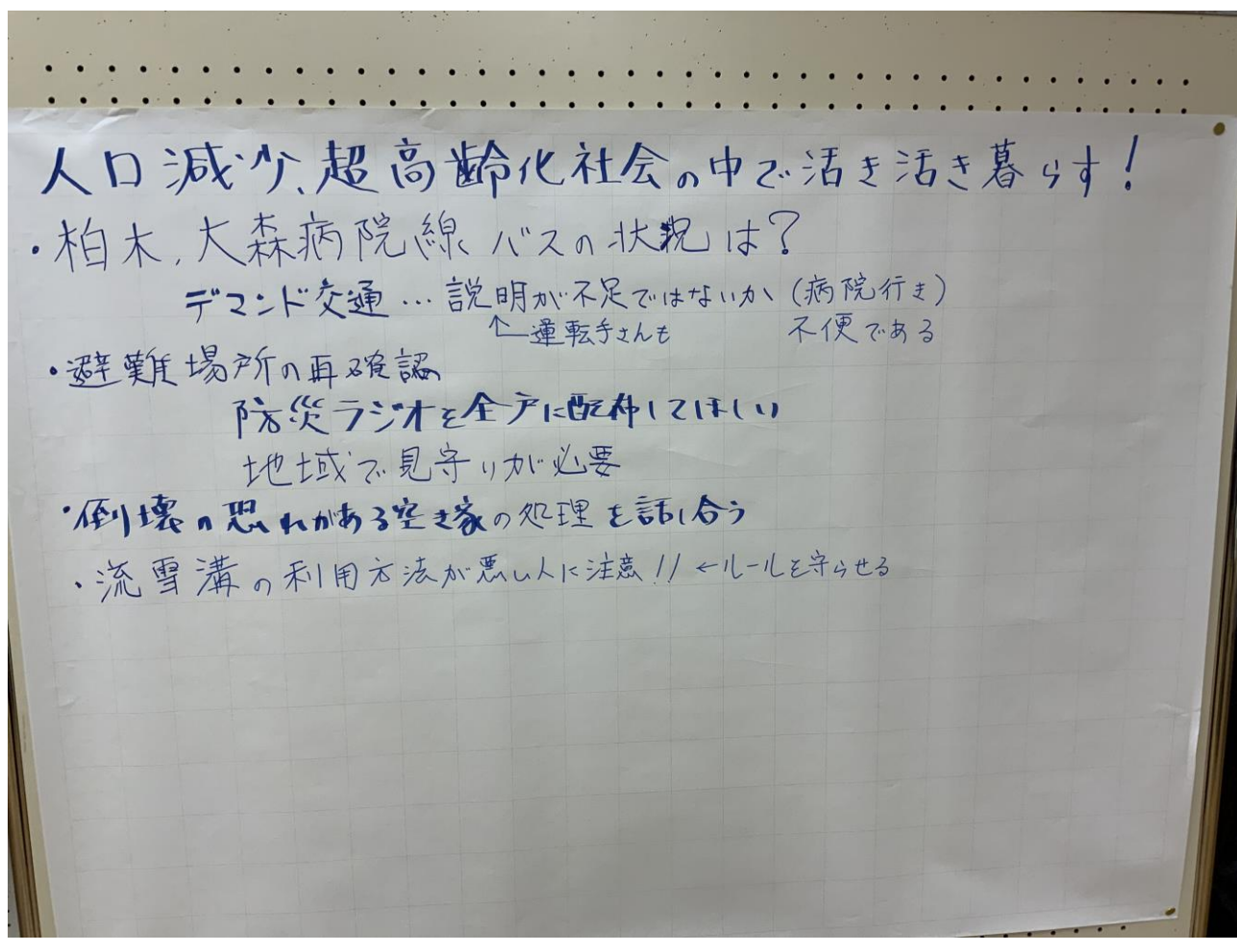


グループ③ 進行：遠藤忠裕議員、記録：大日向香輝議員

テーマについて

- ・ 柏木・大森病院線バスの状況は
- ・ デマンド交通は説明が不足ではないか（横手地域の病院行き）運転手さんも説明してくれない
- ・ 避難場所の再確認
- ・ 防災ラジオを全戸に配布してほしい
- ・ 地域見守りが必要
- ・ 倒壊の恐れがある空き家の処理を話し合う
- ・ 流雪溝の利用方法が悪い人に注意！！ルールを守らせる

まとめ



令和2年11月10日

広報広聴委員会 広聴分科会長 様

1班代表 菅原 惠悦

第9回『議会報告会・意見交換会』実施報告書

1. 開催日時	令和2年10月23日（金）18：00～ 20：00
2. 開催場所	吉田地区生涯学習センター
3. 出席議員	7人（菅原惠悦、立身万千子、小野正伸、佐藤誠洋、奥山豊和、山形健二） ※菅原正志議員はオブザーバー
4. 参加人数	31人（市民：24人、職員：7人）
5. 実施内容	(1) 議会報告：高齢者の足の確保について (2) 意見交換：小グループ形式（3グループ） 吉田地区の将来展望について（①農業・産業・インフラ ②高齢者・福祉 ③教育・防災消防）
6. 主な質疑、意見、要望（別紙のとおり）	
7. 改善点・ 気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・2階和室をメインに、意見交換会は会議室も使用する ・第2部は3テーブルに分かれて実施 ・ホワイトボード等ないため、模造紙に記入する（改善点など） ・地区会議側での声かけが非常に熱心で、多くの方に参加いただくことができた。特に、PTA会長などの協力もあり、中学生の参加があったことはとても刺激になった。 ・参加者の年齢構成は40代以下が40%弱となり、他会場と比較し若い世代の参加が多かった。 ・第2部は3つのテーマを設け、希望するテーマのグループに参加してもらったが、結果として教育・防災消防が非常に多くなり、グループの人数構成に偏りが出てしまった。（消防団員の参加が多かったことも要因） ・第1部と発表時には和室に集まってもらったが、会議室で意見交換をしていた人が座る場所が決まっていなかったため、部屋の後方に密集してしまった。

■主な質疑・意見・要望等

意見等の内容

【テーマに関すること】

グループ①

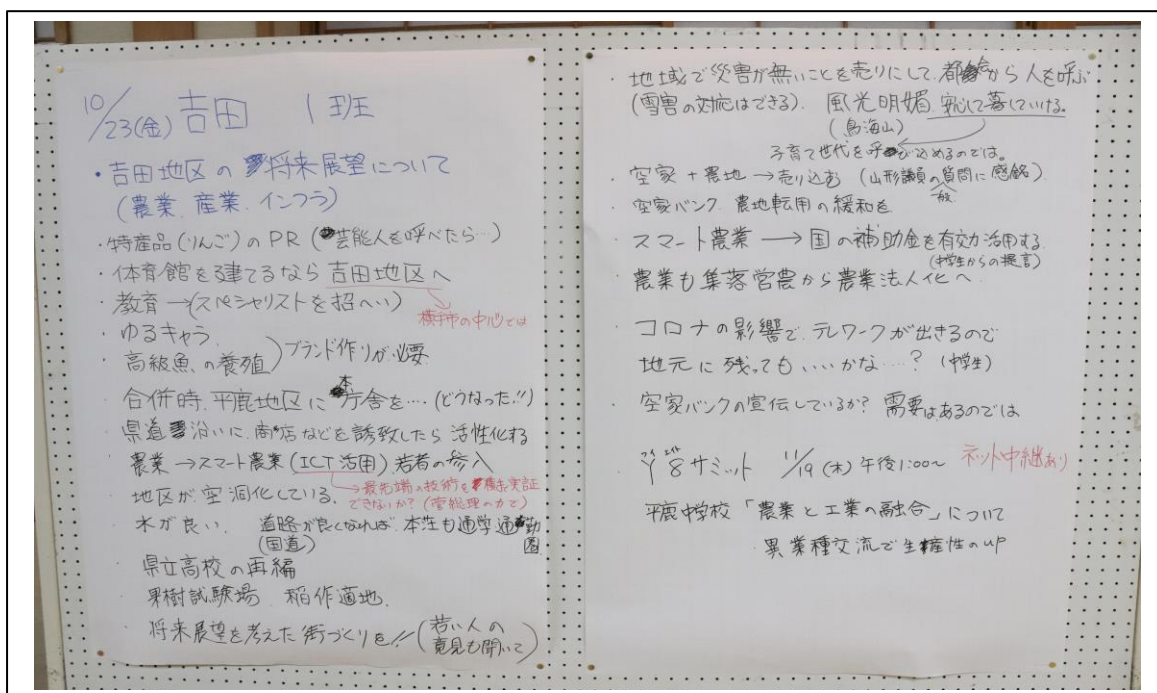
テーマ「吉田地区の将来展望（農業・産業・インフラなど）について」

- 特産品、りんごのPRを芸能人を呼んで。
- 新しい体育館を建てるのであれば、横手市の中心の吉田地区へ。
- 教育スペシャリストを招へい。
- ゆるキャラや高級魚の養殖など、ブランドづくりが必要。
- 市町村合併時、本庁舎を平鹿地区に建てる話はどうなったのか。
- 県道沿いに商店などを誘致すれば活性化する。
- ICTを活用したスマート農業への若者の参入。菅総理の力で横手で最先端の実証実験ができないか。
- 国の補助金を有効活用したスマート農業の推進を。（中学生の提言）
- 地区が空洞化している。水や空気が良い地域で人を呼べる財産がある。国道が良くなれば、本荘も通勤通学圏内となる。
- 県立高校の再編。
- 果樹試験場の有効活用、稲作適地。
- 若い人の意見も聴いて将来展望を考えたまちづくりを。
- 雪害への対応は可能なので、災害が無いことを売りにして都会から人を呼ぶ。安心して暮らしていけるので、子育て世代を呼び込めるのではないか。風光明媚な鳥海山も魅力。
- 空き家＋農地で売り込む。一般質問よかった。空き家バンクは農地転用の緩和を。空き家バンクの宣伝をしているか、もっと需要はあるはず。
- 集落営農から農業法人化への推進を。
- 新型コロナの影響によりテレワークが可能になってきているので、地元に残ってもいいかなと考えている。（中学生の意見）

まとめ

特産のりんごのPRを、芸能人を呼んでできないか。吉田地区は地図を見れば横手の中心なので、新しい体育館を建てるのであれば是非吉田地区に誘致したい。秋田の子どもは優秀なので、教育のスペシャリストを呼んでもっと研ぎ澄ませていけば良いのではないか。ゆるキャラや高級魚の養殖によるブランドづくりも必要。市町村合併時に平鹿地区に本庁舎を立てるという話があっただけ、その後どうなったのか。県道に商店を誘致したら活性化していけるのではないか。スマート農業、ICTの活用で若い人の参入。是非横手で最先端の実証実験を国の力でできないか。地域の空洞化。水や空気が良いので人を呼べる財産がある。道路がもっと良くなれば、本荘も通勤通学圏内になるのではないか。県立高校の再編。市の経済発展のためには農業科をはじめとした実業課程は存続してほしい。果樹試験場の有効活用。稲作には適した地域。何十年も先を考えたまちづくりを、若い人の意見を聞きながら進めて欲しい。この地域は、災害がないことを売りにすれば人を呼ぶことができ

るのではないかと。安心して暮らしていけるので、子育て世帯を呼び込めるのではないかと。空き家と農地のセットで振り込みを。一般質問は良かった。農地転用の緩和をもう少し考えてほしい。中学生の提言で、スマート農業にもっと国の補助金を活用すべき。集落営農から法人化へと変わってきている。今はコロナ禍でテレワークができるので、地元に残ることも可能。空き家バンクも需要があるのでもっと宣伝すべき。



グループ②

テーマ「高齢者の足の確保について」

- 無料の「ふれあいバス」は、2路線週2回ずつ4回運行。29人乗りで利用者は4人程度で少ない。このままのやり方でよいのか。1日160km走行しているので運転も大変。今は何とかなっているが、今後先が見えない。不公平感、税金の無駄遣いという指摘もある。維持費もかかるため小型化の検討が必要。金融機関や病院、スーパーなどをまわるルートへの変更。バス停までの足もない人がいる。
- 運送免許証返納者が増えたときどうするのか、今後の課題。
- デマンド交通は、途中で待ってくれないので用足しができない。乗って降りて終わり。集落をまわってくれるような移動手段、「ふれあいバス」とデマンドの両方を使う方法。

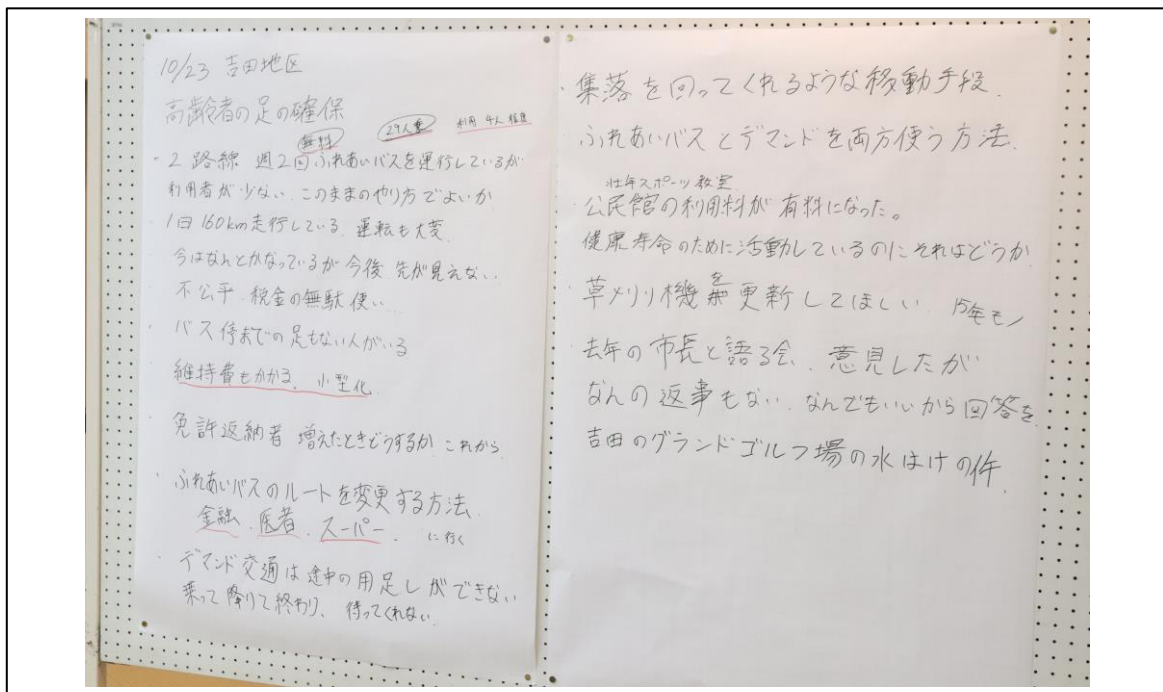
【テーマ以外に関すること】

- 公民館で壮年スポーツ教室に参加しているが、使用料が有料になった。健康寿命を延ばすために活動しているのに、それはどうなのか。
- 公民館の草刈り機を更新してほしい。15年使っている。昨年の市長と語る会で意見したが何の返事もない。回答がほしい。
- 吉田のグラウンドゴルフ場の水はけが悪い。

まとめ

高齢者の足の確保について。平鹿地区では、ふれあいバス2路線を週2回走っている。無料で利用できるもので、29人乗りのバス利用者は1日4人程度。1日の走行距離は160km 運転手もかなり大変。利用者は午前中だけで、午後はほとんど乗らない。ふれあいバスのルートについて、ゆっぶるの活用促進を目的に設定されているが、住民のニーズに答えているのだろうか。不公平感や税金の無駄という指摘がある。バスが大きく維持費もかかるので、小型化してはどうか。集落をこまめに回ってくれる移動手段が欲しい。運転免許証返納が今後増えていった時にどうするのか。ふれあいバスの活用が重要になってくる。行先は、金融期間や病院、スーパーなど行き先は大体決まっているので、今後のルートを考えた場合、バスの大きさを変えたり方法は色々あるのではないかと。デマンド交通について、行きはふれあいバスで帰りはデマンド交通というように、両方使うやり方が効率的ではないか。

公民館で壮年スポーツ教室をやっている。ある時から公民館が有料になった。健康寿命を伸ばすために活動しているのに、なぜ料金がかかるのか。自分たちで公民館の草刈りをしているが、合併前のだいぶ古い草刈機を使っているのを更新して欲しい。市長と語る会で意見をしたが返事も回答もない。



グループ③

テーマ「高齢者の足の確保について」

- 運転免許証返納後の心配。通院のついでに買い物もしたい。
- 平鹿地区のコミュニティバス「ふれあいバス」は、利用者の希望に応えたルートになっているのか？JA 方面にも行きたい。

テーマ「教育環境について」

- 平鹿中学校のスクールバス乗車場（吉田駐在所付近）から1キロ程歩いて帰る間に、街灯のない箇所がある。夜1人で歩くことに危険を感じる。（中学生の意見）⇒対応済（2カ所設置）
- 平鹿中学校大規模改修工事後に雨漏りがある（階段付近のホールあたり？）。（中学生の意見）

- 平鹿中学校の特別教室棟へ続く長い廊下は、冬寒く夏は暑い。（中学生の意見）
- 平鹿中学校はテニスコートで水はけが悪い。他の学校と練習環境にハンデがある。（中学生の意見）
- 平鹿地区の小学校統合計画はあるのか。吉田小学校は来年16人入学。
- スポーツ少年団・クラブ活動について。吉田小マーチングバンド部は15人しかおらずマーチングができなくなっていて、旭小と統合のうわさを聞く。野球は吉田小と醍醐小がすでに統合しているが20人以下。スポ少の統合は、練習場所への移動や新しいユニフォームの購入など親に負担が掛かっているため、子どもはやりたいのに家庭の事情で続けられないケースがある。練習場に照明がないことにも格差を感じる。自分たちで投光器を購入した事例もある。

テーマ「消防団について」

- 防災ラジオよりも、消防団への連絡はメールが早い。他の市の事例で、火災の状況（発生場所の地図、消防車の出動状況など）が消防団員に一斉メール送信されるシステムがある。横手市でも検討してほしい。今メールで入ってくる地名は、地元の団員でも分かりにくい。
- 吉田地区の消防団は、定員126人に対し実員70名程度。何かあった時にどうすればいいのか。
- 消防団は大変だという古いイメージを払拭し、市を挙げた団員の確保を。幹部にだけ任せていてもだめ。
- 訓練大会に出ることへの負担感。どこも人数が足りなくて同じ人が何回も出ている状況。大会のあり方も検討してほしい。まずは技術習得が大事。
- 消火よりも予防という観点から、女性消防団ならではのきめ細やかな活動で火災予防活動に取り組んでほしい。
- 消防団の報酬を上げてほしい。地域の自助・共助を支えている。
- 日中は地域にいないため、火災が発生しても出動できない。企業ごとにチームをつくったらどうか。
- 河川改修工事も影響し水が不足しているため、消火栓をもっと増やせないか。

【テーマ以外に関すること】

- 吉田地区は、水道管の老朽化が進んでいる。
- 道路の老朽化について、歩道と車道の間縁石の痛みが気になる。
- 吉田地区は狭い道路が多い。草刈り作業を行う際は、広い道路よりも狭い道路を優先してほしい。自転車の通行は危険。

まとめ

高齢者の足の確保について。平鹿地域独自のふれあいバスのルートが、利用者の希望に応えたものになっているのだろうか。日中仕事で地域にいない人達にとっては、どこを走っているのかピンとこない。平鹿地域独自の良い取り組みなので残していきながら、より利便性を高めていくことが大切。運転免許証の返納は誰にも訪れること。公共交通を使っても、自分で自由に動けないことが心配。病院に行ったついでに自由に買い物をしたりできなくなる。

田ノ植の吉田駐在所にスクールバスが止まるが、そこから歩いて帰る時に街灯が少なく、夜一人で歩くのが怖いという中学生の声があった。現場を確認して要望したい。平鹿中学校大規模改修工事後に雨漏りしている箇所がある。改修工事をした箇所であれば補償などがあると思うので、確認

をして対応する。特別教室棟に行く長い廊下は冬寒くて夏暑い。普通教室へのエアコン設置で教室の環境は改善されるが、課題として持ち帰りたい。土のテニスコートで水はけが悪い。学校の違いで練習環境にハンデがあるのはいかなるものかという指摘もあった。

平鹿地域に小学校統合計画はあるのかという問い合わせがあった。現状は十文字統合小学校で終わりだが、より良い教育環境で学ばせるために統合が必要だという地域の要望があつて統合することになったという経緯がある。現在平鹿地域で統合の予定はないが、今後の動きを注視していきたい。吉田小学校は来年の1年生が16人ということで、野球スポ少はすでに醍醐小と一緒になっている。有名なマーチングバンドも15人でマーチングができずに座って演奏しているようだ。スポ少やクラブ活動がどんどん統合されていくと、送り迎えが必要になったり統合による新しいユニフォームが必要なるなどの金銭的な負担など、家庭の事情で子ども達がやりたくてもできなくなり、子どもの可能性を狭めてしまうのは可哀想だという意見があつた。グラウンドには照明がなく、自分たちで投光機を買っている事例もある。環境に違いがあるのは平準化していかなければならない。

道路の歩道が老朽化している。吉田地区は狭い道路が多い。自転車の通行が危険なので、草刈りをする際は狭い道路を優先して欲しい。吉田地域は浸水域ではないので住みやすい地域。

消防団活動について。伝達手段について、火災発生メールが届くが、地名を言われてもピンとこない場所がある。他の先進的な事例として、火災発生場所の地図や消防車が動いている状況などがメールで届くシステムがあるので、導入を検討してほしい。団員の不足も深刻。定員126人に実働70人しかいない。何かあつた時にどうするのか。市をあげた団員確保に取り組んでもらいたい。訓練大会も大変で、会社を休んで出なければいけないし、指揮者は代わるが同じ人が何回も出ているような大会のあり方は何とかならないのかという意見があつた。大会に出る負担感はあるが、団員皆が技術取得することも大切。消火よりも予防が大事だと言われている中で、女性消防団のきめ細やかな活動によって火災予防につなげていくことも大事。消防団員の報酬のアップを検討してほしい。日中は仕事をしていて地域にいないので、会社ごとに消防団のチームを作ることで、火災があつたときにすぐに動けるのではないか。吉田地区は水が不足している地域が多いので、消火栓をもっと増やして欲しいという要望があつた。消防議員連盟においても議論させて頂く。

